

# 馬場恒吾著作目録

松田 義男 編

改訂 2024 年 2 月 3 日

2003 年 4 月 19 日

## 目次

1. 著書
2. 共著（序文類等含む）
3. 評論など（新聞・雑誌掲載）
4. 参考：評論集初出一覧

## 凡例

- \* 馬場恒吾(1875.7.13-1956.4.5)の著作全体を、「1. 著書」、「2. 共著(序文類等含む)」、「3. 評論など(新聞・雑誌掲載)」、に大別し、それぞれ年次順に配列した。
- \* 「1. 著書」の評論集については、収録評論と初出を「4. 参考：評論集初出」に示した。
- \* 「3. 評論など(新聞・雑誌掲載)」のうち、のちに単行書に収録されたものは、収録書名を【 】で示した。
- \* 未見の著作については\*を付した。
- \* 新聞・雑誌の連載は、初回掲載に一括した。
- \* 雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- \* 複数の短篇で構成される雑誌時評欄については、参考までに小見出しを【 】に示した。
- \* ペンネームによる執筆については、ペンネームを《 》で示した。
- \* 新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜【 】で示したほか、無題の場合は【 】に示して仮題とした。その他、編者の注記は適宜【 】で示した。
- \* 掲載雑誌の巻号数は、第 1 巻第 1 号→1-1 と表記し、日刊新聞の号数は省略した。なお、第二次大戦後の『婦人公論』には、巻次の乱れがあるが、本著作目録では日本近代文学館の巻号表示により 1946 年を 30 巻、以後各年を 1 巻、1954 年を 38・39 巻とし、1955 年を 40 巻、以後各年を 1 巻とした。
- \* 新聞の朝刊・夕刊については、夕刊についてのみ、[夕刊]と注記した。

## 謝辞

本著作目録作成にあたっては、大阪府立中央図書館、岡山大学鹿田図書館、神奈川近代文学館、京都府立総合資料館慶應義塾大学三田メディアセンター、高野山大学図書館、国立国会図書館、駒沢大学図書館、昭和館、昭和女子大学図書館、天理大学附属天理図書館、東京大学総合図書館、同社会情報研究所、同法学部附属近代法政資料センター明治新聞雑誌文庫、同志社大学人文科学研究所、日本近代文学館、日本新聞博物館新聞ライブラリー、兵庫県立図書館、法政大学大原社会問題研究所、早稲田大学中央図書館、同現代政治経済研究所より調査・閲覧の便宜を得ました。また、誤記・脱漏・評論集初出につき、木戸健太郎氏(岡山大学大学院)からご教示を得ました。海外邦字新聞については、ウェブ・サイトで公開されている、スタンフォード大学の「邦字新聞デジタル・コレクション」を閲覧しました。付記して謝意を表します。

## 注記1 ペンネームについて

ペンネームによる執筆について馬場自身が言及しているものとして、第二高等学校(仙台)在学中に「深川寿美」の署名で投稿した「別離の悲」(『少年園』146、1894年11月18日)と、「櫛風沐雨楼主人」の署名で発表した「伯林攻略」(『国民新聞』1917年11月2、4～6、8、10、12～15日)の2篇を採録した。前者は「文学青年であつた私」(『隨筆』1-1、1926年6月1日)79頁で、後者は『自伝点描』(東西文明社、1952年)53頁で言及している。

ほかに、1923年10月16、18、22日に「ビー生」署名で『国民新聞』の「国民評壇」欄に発表した「青い空と赤い土」、「デモクラシーの力」、「政略から見て」の3篇を採録した。「ビー生」署名は上記3篇のみで、同年10月25日以後の「国民評壇」では「馬場恒吾」署名となり「ビー生」署名は消えること、「青い空と赤い土」での一節「焼けたは物質だ。人間は残つてゐる」は、同時期の評論「破壊の中に立ちて」(『我観』1、1923年10月15日)の「破壊されたは物質である。人間は残つてゐる」(『政界人物風景』(中央公論社、1935年)475頁)と同一の言い回しであることから、「ビー生」は馬場の頭文字Bをとったペンネームと推定した。

## 注記2 無署名文について

ジャパン・タイムズ編集長時代の馬場は、「社説を書き、雑報を書き、校正をし、大組みもすると云ふ状態」であった(「議會政治と新聞」『議會政治論』188頁)が、署名文は確認できていない。ジャパン・タイムズについては、馬場自身がシーメンス事件に関連して書いたという(同上書188～189頁)無署名社説「Mr. Pooley's Lawyers Reply」(1914年1月29日)1篇のみ採録した。

『国民新聞』無署名文については、多くの論説・記事を執筆している筈であるが、若干を採録するにとどまった。中川竹三著『加州問題の真相』(民友社、1920年10月21日)には、『国民新聞』掲載の馬場の無署名文が収録されているので、これらはすべて採録した。その他馬場の著作に基づいて若干の無署名文を採録した。これについては、推定根拠となる著作参照ページを[]に注記した。

## 1. 著書

- 『英和对訳 日露戦記』[安孫子貞次郎との共編]有楽社、1904年3月17日
- 『独探日記』民友社、1915年1月15日[A.K.グレイヴス『独逸陸軍の秘密』(Dr. Armgaard Karl Graves, *The secrets of the German war office*, 1914)の抄訳]
- 『英和对訳 キップリングの短編小説』[訳]ジャバンタイムス学生号出版所、1916年2月15日
- 『改造の叫び』民友社、1919年9月1日
- 『労働問題と普通選挙』民友社、1920年1月3日
- \*『新聞製作者と其人生観』日本青年館、1926年8月
- 『ブルジョワ政治の解剖』<社会民衆党パンフレット>社会民衆党本部・クララ社出版部、1927年4月20日
- 『議会制度改革論』<民衆政治講座>青雲閣、1928年12月15日
- 『政党の話』<現代生活叢書 第21輯>帝国教育会出版部、1930年8月1日
- 『現代人物評論』中央公論社、1930年9月26日
- 『政界人物風景』中央公論社、1931年6月1日
- 『大隈重信伝』<『偉人伝全集』第13巻>改造社、1932年1月8日
- 『議会政治論』中央公論社、1933年3月3日
- 『政界人物評論』中央公論社、1935年2月3日
- 『国民政治読本』中央公論社、1936年2月3日
- 『立上る政治家』中央公論社、1937年1月27日
- 『木内重四郎伝』ヘラルド社、1937年10月5日[復刻版：永島広紀編『植民地帝国人物叢書 23(朝鮮編 4)』(ゆまに書房、2010年)収録]
- 『時代と人物』東洋経済新報社、1940年12月30日
- 『国と人物』高山書院、1941年12月16日
- 『伊藤博文』潮文閣、1942年10月1日
- 『平和と自由への驀進』高山書院、1945年10月8日
- 『近衛内閣史論 戦争開始の真相』高山書院、1946年1月15日
- \*『人民の政治』<週報文庫 3>日本週報社、1947年
- 『回顧と希望』読売新聞社、1948年7月25日
- 『自伝点描』東西文明社、1952年9月15日[復刊：中央公論社、1989年]

## <監修>

- 『中央公論年報 1934年版』<『中央公論』49-1付録>中央公論社、1934年1月1日
- 『中央公論年報 1935年版』<『中央公論』50-1付録>中央公論社、1935年1月1日
- 『中央公論年報 1936年版』<『中央公論』51-1付録>中央公論社、1936年1月1日
- 『日本政治経済文化大年表』<『中央公論』52-1特別付録>中央公論社、1937年1月1日[「政治」監修]

## 2. 共著(序文類等含む)

- 改造時代の新聞『新聞総覧 大正九年版』日本電報通信社、1920年4月15日
- 差別待遇『婦人問題講演集 第1輯』石川六郎編、民友社、1920年11月15日[『婦人問題講演集』第1巻(日本図書センター、2003年)収録]
- 西園寺侯帰途に就く『阿修羅帖』第5巻、伊東忠太著、国粹出版社、1921年9月10日
- 『英作文の訂正と其研究』[岩堂全智との共著]ジャパントイムス学生号出版所、1923年4月15日
- 論説学『新聞学研究講座速記録』新聞研究所、1923年5月18日
- 新聞記者の弱点と強み『新聞総覧 大正十二年版』日本電報通信社、1923年6月30日
- 新国是とは何ぞや『新国是の提唱』国策研究会編、希望閣、1924年7月18日
- 東京の選挙民『第一回普選の厳正批判』<朝日民衆講座 第5輯>朝日新聞社、1928年3月13日[1928年2月23日第18回朝日民衆講座講演速記(於朝日講堂)]
- 日本政党史『大思想エンサイクロペディア 17 政治思想』春秋社、1928年3月20日
- 現代の政治問題『大思想エンサイクロペディア 17 政治思想』春秋社、1928年3月20日
- 高島氏追懐[「諸家の高島素之観」]『高島素之先生の思想と人物 急進愛国主義の理論的根拠』茂木実臣編著、津久井書店、1930年9月5日[復刻：<伝記叢書215>大空社、1996年]
- 政治とジャーナリズム『総合ジャーナリズム講座 第六巻』橘篤郎編、内外社、1931年3月3日[『現代ジャーナリズムの理論と動向』(内外社、1931年12月15日)再録、「議会政治と新聞」と改題、『議会政治論』収録]
- 英国現代の政治家[「人物」]『世界現状大観Ⅰ 英吉利篇』新潮社、1931年5月10日
- 偉人列伝の効果『偉人伝全集』[内容見本]改造社[1931年7月から刊行]
- 最近政治問題の展望『婦人公論大学 政治経済篇』中央公論社、1931年8月14日
- 星と語る時代『蘇峰先生古稀祝賀 知友新稿』蘇峰先生古稀祝賀記念刊行会編、民友社、1931年11月3日
- 政治の祭壇に供へられたる犠牲者『床次鉄相シルエット』新山愁破編、宝英館、1932年1月21日[国立国会図書館所蔵版では26日刊と訂正]
- 批難があつても憎めぬ人『床次鉄相シルエット』新山愁破編、宝英館、1932年1月21日[国立国会図書館所蔵版では26日刊と訂正]
- 言論自由の戦ひ『昭和七年 新聞総覧』日本電報通信社、1932年3月25日
- 万人向きの全集『新修シエークスピア全集 予約募集 内容見本』中央公論社、1933年
- 序『[服部芳郎遺稿集]』非売品、1933年10月
- 人物を通して見たる議会政治史『議会政治読本』<『中央公論』49-2 別冊附録>中央公論社、1934年2月1日[I~IVを「議会史上の人物」と改題、『政界人物評論』収録。Vを「自由主義政治家」と改題、『国民政治読本』収録]
- 混濁せる社会に与へる効果[「諸名家のプルターク観」]『プルターク英雄伝』全6巻[内容見本]、改造社[1934年3月から刊行]
- 明治の政論家『日本文学講座 第12巻 明治大正篇』改造社、1934年4月8日[加筆・削除して「明治初期の政論家」と改題、『政界人物評論』収録]
- 「政府当局者へー諸家の進言」『「世界を明るくせよ」日本はかく叫ぶ』国際日本協会出版部、1934年

12月7日

現代世界政治思潮及びその動向『日本国際年鑑 昭和十年版』日本国際問題調査会編・河出書房、1935年5月12日

爾往いて道を伝へよ『我等ノ同志社 同志社創立六十周年記念誌』＜同志社校友同窓会報第百号特輯＞同志社事業部、1935年10月27日

巍然たる文化の偉観[「『世界文豪読本全集』に寄せられた諸家の推薦」]『世界文豪読本全集』[内容見本]第一書房[1937年6月から刊行]

己を捨て合つて『友を語る』東京日日新聞発行所・大阪毎日新聞社刊、1938年7月5日

序『人間喜劇』ロビンソン著・大久保康雄訳、三笠書房、1938年9月15日[原著:James Harvey Robinson, *Human comedy*]

中村太八郎氏の追憶『普選・土地国有論の父中村太八郎伝』平野義太郎著、日光書院、1938年11月5日

新秩序建設の序幕『東亜新秩序建設に伴ふ支那再建の指導精神』東亜研究所、1939年8月11日

その若き日『松籟 故榊原常吉追想録』榊原章編、久遠閣、1939年12月10日

人民の力『読売政治年鑑 昭和22年版』読売新聞社、1946年12月10日

\*如是閑全集に寄す『如是閑著作集 第一巻』付録、養徳社、1948年5月[長谷川如是閑著作目録編集委員会編『長谷川如是閑一人・時代・思想と著作目録』(中央大学出版部、1985年11月13日)収録]

序『宇垣一成の歩んだ道』渡辺茂雄著、新太陽社、1948年7月1日

序『斯の人 吉田茂』飯島實著、東海書房、1948年12月26日

序『官僚社会主義批判 自由主義政治の基礎』宇都宮徳馬著、山雅房、1950年2月1日

序『古風庵回顧録』若槻礼次郎著、読売新聞社、1950年3月25日

序『文墨余話』長谷川耕南著、警察新報社、1950年9月5日

序文に代えて『血ぬられた言論』黒田秀俊著、学風書院、1951年10月2日

チャアチル点描『文史朗文集』鈴木文史朗著、大日本雄弁会講談社、1952年2月20日

序『悪戦苦闘』正力松太郎著、早川書房、1952年11月10日[『正力松太郎 悪戦苦闘』＜人間の記録86＞(日本図書センター、1999年)と題して復刊]

序『政治記者の手帖から』長島又男著、河出書房、1953年3月20日

序『暗黒日記』清沢冽著、東洋経済新報社、1954年6月15日

書道は人格の修養になる『定本書道全集』全18巻・別巻[内容見本]、河出書房、[1954年]

正力氏の力『伝記 正力松太郎』御手洗辰雄著、大日本雄弁会講談社、1955年6月25日

浪人記者は語る『五十人の新聞記者』電通、1955年7月1日

新聞記者の第一線へ『若き日の肖像 わたしの青少年時代』毎日新聞社、1955年9月15日

二七会の思ひ出[「嶋中雄作追悼記」]『中央公論社七十年史』中央公論社、1955年11月1日

新聞記者とその人生観[1926年2月21日講演於日本青年館]『現代日本思想体系 12 ジャーナリズムの思想』鶴見俊輔編、筑摩書房、1965年

[短歌1首]『昭和万葉集 巻四』講談社、1979年8月28日

### 3. 評論など(新聞・雑誌掲載)<2022 篇>

#### 1894(明治 27)年

別離の悲[「芳園」]『少年園』146、11月18日<<深川寿美>>[「文学青年であつた私」]『随筆』1-1、1926年6月1日、79頁、参照]

#### 1900(明治 33)年

露国の真想を論じて日露戦争に及ぶ『廿世紀』2、3月25日<<馬場生>>

#### 1903(明治 36)年

英米鉄道管理法『実業世界太平洋』1-2、2月10日

巴黎の自治制[「外国事情」]『自治機関公民之友』1-2、2月15日

紐育の自治制[「外国事情」]『自治機関公民之友』1-4、6、4月15日、6月15日

#### 1907(明治 40)年

PARAPHRASE 講義(練習課題付)『英学界』5-12、13、15、6-1、4、5、7、8、9月5日、10月5日、11月5日、1908年1月1日、3月5日、4月5日、5月5日、6月5日

#### 1908(明治 41)年

英文を書く秘訣『英語青年』18-7、1月1日

新聞英語『英語世界』2-1、1月1日

外国人の英語『英語青年』19-1、4月1日

和文英訳作例『英語青年』19-8、7月15日

和文英訳作例『英語青年』19-9、8月1日

和文英訳作例『英語青年』19-10、8月15日

和文英訳作例『英語青年』19-11、9月1日

[「英学大家筆跡」]『英語世界』2-9、9月5日

新聞社の英文和訳『英語青年』20-1、10月1日

#### 1909(明治 42)年

英語教授法に就て『英語青年』20-7、1月1日

Teaching of English 英語教授法[英文]『英語之日本』2-1、1月1日

私の英語を学んだ経路[談「英語研学談」]『英語世界』3-8、7月5日

海のあなたより更に有趣味の原稿を[1909年4月17日付書簡、英文・写真銅版]『手紙雑誌』8-7、7月10日

和文英訳を排す[文責在記者]『英語世界』3-11、9月15日

米国通信『英語青年』22-1、10月1日

### 1910(明治43)年

Colloquial English『英語青年』22-7、8、12、24-4～6、1月1、15日、3月15日、11月15日、12月1、15日

紐育の新聞紙『国民新聞』1月11、13、16、21日

米国通信『英語青年』22-11、3月1日

### 1912(明治45・大正元)年

ブルックリン・ブリッジ『紐育新報』28、1月1日《馬場生》

A Study of the Peace Problem『The Oriental Review』2-12、10月

### 1913(大正2)年

謹告『紐育新報』82、2月22日

紐育瑣談『英語青年』30-2、10月15日

### 1914(大正3)年

アメリカの英語[文責在記者]『英語世界』8-1、1月1日

Mr. Pooley's Lawyers Reply[無署名社説]『The Japan Times』1月29日[「議会政治と新聞」(『議会政治論』)188～189頁、参照]

### 1915(大正4)年

FIRES 種々の火[エドワード・ルーカス原著の訳注]『英語世界』9-1、1月1日

キップリング短編 印度の女[訳]『国民新聞』6月11～14日[『英和对訳 キップリングの短編小説』収録]

キップリング短編 正式の妻[訳]『国民新聞』6月15～18日[『英和对訳 キップリングの短編小説』収録]

キップリング短編 ヴイナス[訳]『国民新聞』6月19～21日[『英和对訳 キップリングの短編小説』収録]

キップリング短編 異郷の花[訳]『国民新聞』6月22～24日[『英和对訳 キップリングの短編小説』収録]

鉄の人[訳]『国民新聞』6月26～30日、7月1～30日、8月1～4、6～11、13～28、30、31日、9月2、3、6、

8~22、24、26、28~30日、10月1、2、4、5、9~12、14、16、17、20、24~26、28、29、31日、11月2、4、5日  
[7月13、15日掲載の(一八)(二〇)を『新聞集成大正編年史 大正四年度版 下』(明治大正昭和新聞研究会、1980年)収録]

[「現代英学者の筆跡”How to Spend Summer?”] 『英語世界』9-9、8月1日

## 1916(大正 5)年

The は如何に発音すべきか 『[ジャパンタイムス]少年号』4-11、2月1日

聖書と Journalese[談] 『[ジャパンタイムス]少年号』4-11、2月1日

## 1917(大正 6)年

英語青年五百号に寄す 『英語青年』37-1、4月1日

伯林攻略 『国民新聞』11月2、4~6、8、10、12~15日 <<櫛風沐雨楼主人>>[『自伝点描』53頁、参照]

## 1918(大正 7)年

日本の媾和条件[「十大新聞記者執筆 日本帝国の媾和条件」] 『黒潮』3-1、1月1日

欧州の空中戦 『帝国青年』3-1、1月1日

[「新校規制定後の早稲田大学学長は何人か」] 『日本一』4-4、4月1日

責は労働者にあり[「如何にして資本と労働とを調和すべき乎」] 『中外新論』2-12、12月1日

## 1919(大正 8)年

伏見丸より 『国民新聞』1月6日

南洋独領処分[28日ニューヨーク特電] 『国民新聞』1月30日

日本移民絶望[30日ニューヨーク特電] 『国民新聞』2月1日

独領国際管理[29日ニューヨーク特電] 『国民新聞』2月1日

特派員紐育発[30日ニューヨーク特電] 『国民新聞』2月1日

伏見丸より シヤトル沖にて 『国民新聞』2月16日

人種問題絶望[22日パリ特電] 『国民新聞』3月2日

大奮闘を要す[23日パリ特電] 『国民新聞』3月3日

英国を憚る[25日パリ特電] 『国民新聞』3月3日

成功の一路[6日パリ特電] 『国民新聞』3月11日

支使尚悛めず[6日パリ特電] 『国民新聞』3月11日

ス団又起つ[6日パリ特電] 『国民新聞』3月11日

過激派思潮[8日パリ特電] 『国民新聞』3月22日

独領開放乎[8日パリ特電]『国民新聞』3月22日  
国際労働会[8日パリ特電]『国民新聞』3月22日  
憂慮に堪へず[12日パリ特電]『国民新聞』3月24日  
西侯の覚悟[13日パリ特電]『国民新聞』3月26日  
維氏の弄策[15日パリ特電]『国民新聞』3月26日  
支那の排日政略[13日パリ特電]『国民新聞』3月26日  
奮起を促す[18日パリ特電]『国民新聞』4月4日  
強硬！努力！[21日パリ特電]『国民新聞』4月5日  
人種平等破産[パリ特電]『国民新聞』4月8日  
外交大失敗[パリ特電]『国民新聞』4月9日  
怯懦か無能か[27日パリ特電]『国民新聞』4月10日  
列国憚々焉[27日パリ特電]『国民新聞』4月10日  
日除外裏面[パリ特電]『国民新聞』4月17日  
自信なきも甚し[パリ特電]『国民新聞』4月17日  
委員の不評[パリ特電]『国民新聞』4月17日  
巴里邦人決議[パリ特電]『国民新聞』4月17日  
維遜氏の帰米期[パリ特電]『国民新聞』4月18日  
英国の態度[ロンドン特電]『国民新聞』5月3日  
維遜の僻見[ロンドン特電]『国民新聞』5月3日  
青島と英紙[ロンドン特電]『国民新聞』5月3日  
維氏の無条件論[26日ロンドン特電]『国民新聞』5月5日  
維氏の所謂正義[26日ロンドン特電]『国民新聞』5月5日  
発売禁止は健全なる輿論を阻止す『新聞研究』1-1、5月5日  
日本の要求[ロンドン特電]『国民新聞』5月6日  
無用の長弁[30日ロンドン特電]『国民新聞』5月9日  
改造の叫び『国民新聞』6月21～30日、7月2～8日[『改造の叫び』収録]  
改造第一歩『国民新聞』7月24～26、28～31日、8月6、7日[『改造の叫び』収録]  
官僚国を亡ぼす『太陽』25-10、8月1日  
世界変局と将来[「仏国より祖国へ」]『東方時論』4-8、8月1日  
労働党を組織せよ『潮』2-9、9月1日  
労働者の行くべき途[「頻々たる同盟罷工より見たる労働問題の傾向及帰趨」]『中外新論』3-9、9月1日  
労働運動の使命『東方時論』4-9、9月1日

普通選挙『国民新聞』9月16～18、21～23、26～30日、10月2～4日[『労働問題と普通選挙』収録]

\*日本改造の精神『潮』2-10、10月1日

官僚秘密主義の打破『実業之日本』22-20、10月1日

改造同盟の起源『中外新論』3-10、10月1日

どちらも問題でない[「後藤尾崎両氏が帰つたなら」]『労働世界』4-10、10月1日

専管居留地不可[「山東(青島)還付の時期方法及び条件如何?」]『公論』1-1、10月13日

[「普通選挙実施の時期方法及び利害」]『公論』1-2、11月1日

新聞の勢力『三田新聞』33、11月15日

労働問題『国民新聞』11月19～23、25～30日、12月1、2、4、5日[『労働問題と普通選挙』収録]

## 1920(大正9)年

\*総ての圧迫を排す『改造世界』<『潮』改題>3-1、1月1日

霞ヶ関改造の烽火『寸鉄』2-1、1月1日

政府若し大悟徹底せば『中外新論』4-1、1月1日

目醒めたる人類の声『東方時論』5-1、1月1日

産業の民本化『労働世界』5-1、1月1日

菅谷行『国民新聞』1月5日

労働問題と普通選挙『国民新聞』1月8日[『労働問題と普通選挙』の「自序」]

[「両院改造・労働首領問題」]『改造』2-2、2月1日

無資産階級の箝口具を撤せよ『寸鉄』2-2、2月1日

議会解散の批判『国民新聞』2月28日

民衆邁進すべき秋『国民新聞』2月29日

民衆運動の使命『労働世界』5-3、3月1日

改造時代来る『東方時論』5-3、3月1日

『黎明以前の群集』[書評]『国民新聞』3月19日

前橋行『国民新聞』3月23日

議会と民衆の距離[「議会解散を中心とする日本政局の徹底的批判」]『新時代』4-4、4月1日

菖蒲行『国民新聞』4月5日

八代行『国民新聞』4月6日

浜松より『国民新聞』4月23日

福岡行『国民新聞』4月27日

時代錯誤の政治『国民新聞』4月28～30日

- 〔「余が候補に立たざる理由」〕『新組織』2-5、5月1日
- 時代の建設『東方時論』5-5、5月1日
- 金沢行『国民新聞』5月2日
- 伏木行『国民新聞』5月3日
- 新時代を作れ『国民新聞』5月8日
- 高崎大宮行『国民新聞』5月10日
- 都市人の覚醒と憲政の危機〔「当面の政治 総選挙の結果と政局の前途」〕『新時代』4-6、6月1日
- 総選挙の不合理を破るために〔「総選挙の後はどうなる？」〕『東方時論』5-6、6月1日
- 改造運動『国民新聞』6月11～15、17、18日
- 福島行『国民新聞』6月26日
- 帝国議会批判『国民新聞』7月31日、8月1、2日
- 議会の価値〔「今夏議会の清算」〕『東方時論』5-8、8月1日
- 桶川行『国民新聞』8月9日
- 長途の鉄道旅行と衛生設備『鉄道』170、8月15日
- 世界改造の要、初出未詳、月日未詳〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕
- 国際的大壁『国民新聞』9月13日〔無署名〕〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕
- 譲歩又た譲歩『国民新聞』9月13日〔無署名〕〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕
- 国際連盟に訴へよ『国民新聞』9月13日〔無署名〕〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕
- 加州と非人道『国民新聞』9月25日〔無署名〕〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕
- 宣伝はれ武器『国民新聞』9月25日〔無署名〕〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕
- 何故に腰弱き『国民新聞』9月25日〔無署名〕〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕
- 全日本を挙げ『国民新聞』9月30日〔無署名〕〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕
- 民族的逆行者、初出未詳、月日未詳〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕
- 加州に省みよ、初出未詳、月日未詳〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕
- 加州利己政策『国民新聞』10月1日〔無署名〕〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕
- 交渉局限不可『国民新聞』10月2日〔無署名〕〔中川竹三著『加州問題の真相』（民友社、1920年10月21日）収録〕

国際道義無視『国民新聞』10月2日<<無署名>>[中川竹三著『加州問題の真相』(民友社、1920年10月21日)収録]

信州行『国民新聞』10月4日

日本国民の見解『東方時論』5-11、11月1日

『死線を越えて』に就て『国民新聞』11月6日

張膽明目して精読せよ[「記者から読者への註文」]『新聞及新聞記者』1-2、11月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第1巻(金沢文圃閣、2021年)収録]

互助会と恩給と退職手当[「我社は社員を斯く待遇す」]『新聞及新聞記者』1-3、12月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第1巻(金沢文圃閣、2021年)収録]

## 1921(大正10)年

『独立の生計』と憲政会[「言論思想戦」]『中外新論』5-2、2月1日

改造の動力たる正義『東方時論』6-1、1月1日

今の議会で弥次あるは自然[「弥次封じの妙策」]『日本一』7-2、2月1日

ヘアデングの新聞記者訓十二ヶ条[訳]『新聞及新聞記者』2-3、3月18日[復刻版『新聞及新聞記者』第2巻(金沢文圃閣、2021年)収録]

否 官僚制度の弊を恐る[「日本に『新聞士』制度を設定するの可否」]『新聞及新聞記者』2-3、3月18日[復刻版『新聞及新聞記者』第2巻(金沢文圃閣、2021年)収録]

ランシング氏の『講和談判』を評す『国民新聞』3月29、30日

憲政会の反省を促す[「滅落時の原内閣と後継内閣論」]『中外新論』5-4、4月1日

内務大臣より取締権を奪ふべし[「言論擁護と現閣糾弾」]『中外新論』5-4、4月1日

報知・日々・中央[「自社の新聞以外に愛読する三新聞」]『新聞及新聞記者』2-4、4月19日[復刻版『新聞及新聞記者』第2巻(金沢文圃閣、2021年)収録]

研究の小出し[「銀箭」]『国民新聞』4月20日<<馬場生>>

所謂珍品問題と加藤子爵[「憲政会総裁加藤高明論」]『中外新論』5-5、5月1日

[「半どん廃止の可否」]『日本一』7-5、5月1日

新規時直しの説『国民新聞』6月21～26日

綱紀の肅正は社会の根柢から『中外新論』5-7、7月1日

帳簿を公開せよ[「純販売部数公表の可否と調査機関」]『新聞及新聞記者』2-7、7月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第2巻(金沢文圃閣、2021年)収録]

輿論代表としての新聞紙 民衆の意志を最も正確に自由に『自由評論』9-8、8月1日

太平洋会議『国民新聞』8月30、31日、9月1、2、6日

日英同盟より三国協定へ『東方時論』6-9、9月1日

人種戦の脅威—人類の最も重大なる問題—『自由評論』9-10、10月1日

新聞の真の持主、真の製作者は社会『新聞及新聞記者』2-10、11月1日[復刻版『新聞及新聞記者』第

3 卷(金沢文圃閣、2021 年)収録]

原首相の横死『国民新聞』11 月 5 日<<無署名>>[「原敬論」(『現代人物評論』)32~33 頁、参照]

華府会議にあたり陸軍の大削減を『三田新聞』86、11 月 29 日

三偉人を迎へた大正十年[「大正十年総勘定(八名家の所論)」]『自由評論』9-12、12 月 1 日

純記者の素質[「ノ卿の印象」]『新聞及新聞記者』2-11、12 月 15 日[復刻版『新聞及新聞記者』第 3 卷(金沢文圃閣、2021 年)収録]

## 1922(大正 11)年

新なる倫理的要求としての普通選挙『東方時論』7-1、1 月 1 日

『太陽を射るもの』[書評]『国民新聞』1 月 8 日

改造の実行期来る『中外新論』6-3、3 月 1 日

民心を悪化に導くは誰ぞー政治の墮落を救ふべきの唯一道『自由評論』10-6、6 月 1 日

新聞記者の対社会態度と位置[「来る可き日本新聞界の諸傾向諸問題」]『新聞及新聞記者』3-5、6 月 30 日[復刻版『新聞及新聞記者』第 4 卷(金沢文圃閣、2021 年)収録]

[「官吏夏休廃止の功過批判」]『中央公論』37-9、8 月 1 日

新会員を入れる事[「春秋会に対する所感と希望」]『新聞及新聞記者』3-6、8 月 15 日[復刻版『新聞及新聞記者』第 5 卷(金沢文圃閣、2022 年)収録]

軍備は何故縮小すべきやー軍備縮小の意味を解せよー『自由評論』10-9、9 月 1 日

我半生を顧みて[「現代新人物 自叙伝の一齣」]『雄弁』13-10、10 月 1 日

言論の自由と発売禁止は相容れず[「現行新聞紙法中の不備点と改正要目」]『新聞及新聞記者』3-8、10 月 15 日[復刻版『新聞及新聞記者』第 5 卷(金沢文圃閣、2022 年)収録]

信州行『国民新聞』11 月 22 日

侵略か平和か『自由評論』10-12、12 月 1 日

現在の学生は宜しく政治運動に参加せよ『三田新聞』112、12 月 24 日

## 1923(大正 12)年

愛国団体に対する考察[「新興愛国団体批判」]『改造』5-3、3 月 1 日

露西亜をどうする『国民新聞』5 月 16~20、22、23、25、26 日

議会内の階級闘争[「商工党・農民党・労働党」]『改造』5-6、6 月 1 日

カシユガル呼出し『国民新聞』7 月 18 日

海岸に旅行して『国民新聞[夕刊]』7 月 28~31 日[『政界人物風景』収録]

呪はれたる絹『国民新聞』8 月 24 日

名歌が沢山作られる事を[「社会指導者の口語歌観」]『純正詩社雑誌』2-4、9 月 1 日

破壊の翌日『国民新聞』10 月 10~14 日[『政界人物風景』収録]

破壊の中に立ちて『我観』1、10月15日[『政界人物風景』収録]  
青い空と赤い土[「国民評壇」]『国民新聞』10月16日<<ビー生>>  
デモクラシーの力[「国民評壇」]『国民新聞』10月18日<<ビー生>>  
政略から見て[「国民評壇」]『国民新聞』10月22日<<ビー生>>  
保険業是非[「国民評壇」]『国民新聞』10月25日  
旧時代の政治家[「国民評壇」]『国民新聞』11月1日  
放射線道路は実用に適せぬ[「帝都復興に対する民間からの要求」]『女性』4-5、11月1日  
バラック問題[「国民評壇」]『国民新聞』11月4日  
野性『国民新聞[夕刊]』11月8~12日[「震災直後」と改題『政界人物風景』収録]  
政友会小康[「国民評壇」]『国民新聞』11月9日  
労資の争ひ[「国民評壇」]『国民新聞』11月9日  
自由人の意義[「談叢」]『憲政』6-9、11月10日  
経済復興[「国民評壇」]『国民新聞』11月13日  
新橋駅の将来[「国民評壇」]『国民新聞』11月13日  
東京の電車[「国民評壇」]『国民新聞』11月13日  
郵便電信の事[「国民評壇」]『国民新聞』11月13日  
焼けた日記『我観』2、11月15日[『政界人物風景』、『回顧と希望』収録]  
英国の総選挙[「国民評壇」]『国民新聞』11月18日  
不平なし[「国民評壇」]『国民新聞』11月20日  
彼等総て駄目[「国民評壇」]『国民新聞』11月22日  
非政友合同[「国民評壇」]『国民新聞』11月25日  
復活の危機[「国民評壇」]『国民新聞』11月26日  
元老になるため[「国民評壇」]『国民新聞』11月28日  
普選が起す政界の波紋[「普通選挙の諸問題 普選の実施と既成政党の将来」]『改造』5-12、12月1日  
法制審議会[「国民評壇」]『国民新聞』12月2日  
解散か辞職か[「国民評壇」]『国民新聞』12月6日  
新たなる世間[「国民評壇」]『国民新聞』12月8日  
何の国民精神[「国民評壇」]『国民新聞』12月10日  
荒しの前の凧[「国民評壇」]『国民新聞』12月13日  
昼間の幽霊[「国民評壇」]『国民新聞』12月14日  
蛇の生殺し[「国民評壇」]『国民新聞』12月22日  
真剣の気分[「国民評壇」]『国民新聞』12月25日

耻しくはない乎[「国民評壇」]『国民新聞』12月27日

迷信と人心[「国民評壇」]『国民新聞』12月29日

## 1924(大正13)年

周章ず騒がず[「起て！奮へ！」]『現代』5-1、1月1日

仏の顔も三度[「国民評壇」]『国民新聞』1月2日

元老の迷夢『国民新聞』1月4日

国民の憎しみ[「国民評壇」]『国民新聞』1月5日

憲政を擁護せよ[「国民評壇」]『国民新聞』1月6日

憲政を害する者[「国民評壇」]『国民新聞』1月9日

内閣の命数[「国民評壇」]『国民新聞』1月11日

反問苦肉の策[「国民評壇」]『国民新聞』1月13日

政友会の分裂[「国民評壇」]『国民新聞』1月18日

議会の作戦[「国民評壇」]『国民新聞』1月19日

社会の癌[「国民評壇」]『国民新聞』1月22日

バラツクの叫び[「国民評壇」]『国民新聞』1月24日

国家の寄生虫[「国民評壇」]『国民新聞』1月28日

来らんとする悲劇[「国民評壇」]『国民新聞』1月31日

[「普選実施と無産階級政治運動の研究」]『進め』2-2、2月1日

最悪の専制政治[「国民評壇」]『国民新聞』2月3日

民衆は空気[「国民評壇」]『国民新聞』2月4日

気の毒な首相[「国民評壇」]『国民新聞』2月5日

[「総選挙後に於ける各派消長の予測」]『改造』6-3、3月1日

政治上の階級闘争『改造』6-4、4月1日[「清浦奎吾内閣論」と改題『政界人物風景』収録]

時評『婦人公論』9-4、4月1日【以下4篇：貴族と平民、元老の死、文明を呪ふ声、労働党の立場】

[「嫁入前の現代女性に是非読んで貰いたい書籍」]『女性改造』3-5、5月1日

間違はぬ機械になるか間違う人間になるか[「若き人々におくる言葉」]『婦人之友』18-5、5月1日

元老の代りに衆議院[「総選挙の齎らせる政局の前途」]『我観』8、6月1日

支配観念の破滅[「総選挙と護憲内閣の前途」]『改造』6-6、6月1日

社会時評『新小説』29-6、6月1日【以下5篇：萌え出づる草、政府の威光、政党の首領会談、旨味い物は宵に、理論と直覚】

普通選挙に対する義務[「談叢」]『憲政』7-6、6月10日

時評『婦人公論』9-7、7月1日【以下6篇：愛は闘かう、日米問題の将来、我等の祖先の政策、信念を

失つた国、平民の為めの世界、夏期休暇】

海の水と池の水ー幼少の思ひ出ー『雄弁』15-8、8月1日

護憲の後と普選の後[「世相是々非々」]『雄弁』15-8、8月1日

放浪の気分『新聞及新聞記者』5-15、8月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第9巻(金沢文圃閣、2022年)収録]

[書「改造は先つ自己の頭よりすべし」]『新聞及新聞記者』5-15、8月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第9巻(金沢文圃閣、2022年)収録]

船長の娘『家庭科学』1、9月1日[「温海から新潟」と改題『回顧と希望』収録]

愚なる震災記念 [「世相是々非々」]『雄弁』15-10、10月1日

支那問題よりは根本の問題 [「世相是々非々」]『雄弁』15-11、11月1日

時勢の急流 政界一年の回顧『世紀』1-3、12月1日[「山本権兵衛と清浦奎吾」と改題『政界人物背景』収録]

自然を捨てた政治[「政治時評」]『世紀』1-3、12月1日

あぶない橋[「世相是々非々」]『雄弁』15-12、12月1日

## 1925(大正 14)年

支那政変のうらおもて『大公論』1、1月1日

金貨を抱えて飢ゑる[「世相是々非々」]『雄弁』16-1、1月1日

形式と実質の矛盾[「新聞紙法の改正に就て」]『早稲田大学新聞』55、1月21日

議会当面の諸問題『改造』7-2、2月1日

奴隸的ならざるが故の虐殺[「大庭柯公氏虐殺事件について」]『急進』[19]、2月1日

議会漫評『我観』9、3月1日

議会主義者への打撃[「横田没後と三派提携の将来」]『改造』7-3、3月1日[「横田千之助論」と改題『政界人物風景』収録]

[「あなたの夫人、令嬢、令妹などが職業を持つことをお望みにになりましたら」]『婦人之友』19-3、3月1日

概念の時代は去る [「世相是々非々」]『雄弁』16-3、3月1日

治安維持法の危険性『我観』10、4月1日

新しき女が新しき日本を産む『婦人公論』10-4、4月1日

永久に動け[「世相是々非々」]『雄弁』16-4、4月1日[『政界人物風景』収録]

陸には火の手[「世相是々非々」]『雄弁』16-5、5月1日

民衆が天下を取る方式『改造』7-5、5月1日

\*天下を支配する民衆の喊声『民論』1-5、5月1日

[「出版界への私の提言」]『読売新聞』5月8日

普通選挙の実施と新聞の方向転換『新聞及新聞記者』6-10、5月15日

\*破壊を止めて建設にかゝれ『民論』1-2、6月1日

貴い物は聴衆の胸にある[「来れ！雄弁の真髓此所に在り」]『雄弁』16-6、6月1日

富貴栄達の人[「世相是々非々」]『雄弁』16-6、6月1日

支那が赤化する時『我観』13、7月1日

人の後影を拝む心[「現代名士一家一言録」]『現代』6-7、7月1日[「人の後影を拝む」と改題『政界人物背景』収録]

レーニンの靴『民論』1-3、7月1日[『政界人物風景』収録]

階級闘争と民族闘争『民論』1-3、7月1日

政界漫罵集『民論』1-3、7月1日<馬場>

迷ひ[メリック原作・翻訳]『民論』1-3、7月1日

羅馬を見よ[「世相是々非々」]『雄弁』16-7、7月1日

創造性の減せざる民族『早稲田大学新聞』71、7月30日

頭の硬化した貴族院[「世相是々非々」]『雄弁』16-8、8月1日

発芽期の無産政党『我観』23、9月1日

最近政変の事実と批判『改造』7-9、9月1日[「加藤高明論」と改題『政界人物風景』収録]

政治は博打突である[「世相是々非々」]『雄弁』16-9、9月1日

貴族院の存在価値『我観』24、10月1日

無産政党の悩み[「世相是々非々」]『雄弁』16-10、10月1日

関税会議に於ける支那の争奪戦『我観』25、11月1日

解散を予想して[「当来議院に於て予想さるべき単独内閣の孤立的奮闘」]『中央公論』40-11、11月1日

政治教育とは何ぞや[「世相是々非々」]『雄弁』16-11、11月1日

営利的でない新聞『早稲田大学新聞』77、11月5日

階級国家の崩壊『外交時報』504、12月1日

現代人の要求する指導精神『青年』10-12、12月1日

大正十四年を記念したい一憎悪より親愛に破壊より建設に一『婦人公論』10-13、12月1日

[「法律上男子の姦通を罰すべきか？法律上婦人の姦通を許すべきか？」]『婦人公論』10-13、12月1日

幸福なる社会[「世相是々非々」]『雄弁』16-12、12月1日

## 1926(大正15・昭和元年)

共産党と戦ふ者『我観』27、1月1日

[「大正十五年に起るべき重要事件の予想と主張運動」]『我観』27、1月1日

合評 東京大阪各社の主要人物『新聞及新聞記者』7-1、1月1日[座談会：小野秀雄、大山覚威、村岡清

治、松本豊一、木川忠一郎、結城礼一郎、永代静雄、光用穆、中村勝治、村上修]

ペンギン島 [「世相是々非々」] 『雄弁』 17-1、1月1日

政治方面[「新聞に現れた重要問題批判」] 『新聞及新聞記者』 7-2、1月15日

紐育に於ける本田君 『英語青年』 54-9、2月1日

第五十一議会の政治的潮流 『改造』 8-2、2月1日

労働者の政治行動と其意識 『中央公論』 41-2、2月1日

一つの人生観[「世相是々非々」] 『雄弁』 17-2、2月1日 [『政界人物風景』収録]

原敬に匹敵する若槻首相[「若槻内閣と政界の前途」] 『改造』 8-3、3月1日 [「第一次若槻内閣(1) 原敬と若槻の比較」と改題 『政界人物風景』収録]

享楽が果して罪悪か[「世相是々非々」] 『雄弁』 17-3、3月1日

花が咲く[「世相是々非々」] 『雄弁』 17-4、4月1日

断末魔のブルジョア議会 議会のカタストロフ 『労働』 178、4月1日

急進思想家の人生記録[「読書ページ 新著週評」] 『東京朝日新聞』 4月18日

代議士の生活問題 『我観』 31、5月1日

無産政党の使命 『工政』 78、5月1日

党費調達の方法 『太陽』 32-5、5月1日

生き甲斐のある社会[「世相是々非々」] 『雄弁』 17-5、5月1日

市政刷新の諸運動[「新聞に現れた重要問題批判」] 『新聞及新聞記者』 7-10、5月15日 [復刻版『新聞及新聞記者』第14巻(金沢文圃閣、2023年)収録]

地下人の信念[「英国総罷業と世界労働運動の動向」] 『改造』 8-6、6月1日

抑へられぬ歓喜の心 『現代』 7-6、6月1日 [『政界人物風景』収録]

文学青年であつた私 『随筆』 1-1、6月1日

[「細君の俸給」問題是非] 『婦人公論』 11-6、6月1日

政治講座 『民衆新聞』 1、6月1日 【頸と肩、普選に対する恐怖】

職業の選択[「世相是々非々」] 『雄弁』 17-6、6月1日

政治講座 『民衆新聞』 2、6月15日 【政治家の政治、総罷業の総決算、東京市の大御所】

内閣改造と今後の政局 『太陽』 32-9、7月1日

政治家の妻君[「公人の腐敗と女性」] 『婦人之友』 20-7、7月1日

なしくずしの革命[「世相是々非々」] 『雄弁』 17-7、7月1日

雑誌の保証金 『我観』 34、8月1日

芸術としての新聞論説 『新聞及新聞記者』 7-14、8月1日 [『回顧と希望』、復刻版『新聞及新聞記者』第15巻(金沢文圃閣、2023年)収録]

政治講座 『民衆新聞』 5、8月1日 【政治組織の戦術、既成政党の成立事情、人民の力の結晶、政治組織の道程、最後に笑ふ者】

- 将来の希望[「世相是々非々」]『雄弁』17-8、8月1日
- 倫理化とは何ぞや『北海タイムス』8月24日
- 普選の実施 浜松市会議員選挙から得たる教訓『北海タイムス[夕刊]』8月31日
- 神は孤独である『随筆』1-4、9月1日[「妙義と碓氷峠」と改題『回顧と希望』収録]
- 日本を更正せしむる者[「世相是々非々」]『雄弁』17-9、9月1日
- 労働農民党『北海タイムス』9月13日
- 日本人と支那人『北海タイムス』9月26日
- 学生事件批判『北海タイムス[夕刊]』9月28日
- 地獄めぐり『経済往来』1-8、10月1日
- 国の籬と底[「世相是々非々」]『雄弁』17-10、10月1日
- 宣伝、宣伝を殺す『北海タイムス』10月13日
- 新しい新聞は古い新聞から育つ 特に新聞の階級性に就て『新聞及新聞記者』7-18、10月15日[復刻版『新聞及新聞記者』第16巻(金沢文圃閣、2023年)収録]
- [「現在の教育に懐らぬ点」]『現代』7-11、11月1日
- \*普選市議選の教訓『世界』1-1、11月1日
- 政局の変調と暗流『太陽』32-13、11月1日
- 歓喜の絶頂から奈落の底へ[「連作長篇小説 平民的貴公子」第5回]『アサヒグラフ』7-20、11月17日
- クリーン、レコード『北海タイムス』11月18日
- 政治家ならざる政党员『北海タイムス』11月23日
- 敵を愛す『北海タイムス』11月30日
- 新聞記者の過去『新聞及新聞記者』7-19、12月1日[復刻版『新聞及新聞記者』第16巻(金沢文圃閣、2023年)収録]
- [「無産政党の批判と希望(端書回答)」]『進め』4-12、12月1日
- 政界修羅場[「政治時評」]『文芸春秋』4-12、12月1日[「第一次若槻内閣(2) 政界修羅場」と改題『政界人物風景』収録]
- 無産政党分立の過程『北海タイムス』12月13日
- 火を弄ぶ支那『北海タイムス』12月20日
- 露西亞の前衛『北海タイムス』12月23日

## 1927(昭和2)年

- 活動写真『経済往来』2-1、1月1日
- 政界の横転逆転『実業之世界』24-1、1月1日
- 新聞と無産政党『新聞及新聞記者』8-1、1月1日

新聞に志ざす人々へ『雄弁』18-1、1月1日[『国と人物』収録]

帝国主義打破『北海タイムス』1月24日

政治家とシンドレラ『経済往来』2-2、2月1日

悩ましき人生を凝視して『現代』8-2、2月1日[「政治家の姿を凝視めて」と改題『政界人物風景』収録]

得意の絶頂にある日本 一歩誤れば没落の最大危険『北海タイムス』2月20日

最後に笑ふ者は誰か 英の対支方針真意『北海タイムス』2月22日

新社会の建設『北海タイムス』2月24日

取引に勝つて義理に負けた若槻氏[「三党首妥協劇の心理的解剖」]『中央公論』42-3、3月1日[「第一次若槻内閣(3) 三党首妥協劇」と改題『政界人物風景』収録]

仁王が笑ふ『北海タイムス』3月12日

ガラスの家『北海タイムス』3月20日

不幸な結婚の為に『北海タイムス』3月24日

首相と無産政党[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』3月25日

政界の恐怖観念『太陽』33-4、4月1日

東洋人の価値『北海タイムス』4月13日

政治改革の資金『大隈侯八十五年史』を読む[「読書ページ」]『東京朝日新聞』4月15日

先づ心境を検討せよ『北海タイムス』4月21日

枢密院の仇討ち[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』4月28日

警官優遇論『改造』9-5、5月1日

没落期の政党政治『中央公論』42-5、5月1日[「第一次若槻内閣(四) 没落を前にして」と改題『政界人物風景』収録]

内閣更迭と資本主義機構[「政治講座」]『労働』191、5月1日

過去の叫ぶ声『北海タイムス』5月9日

政党の存在価値『北海タイムス』5月15日

都会の哲学『北海タイムス』5月27日

紙幣の旋風『海外』4、6月1日

内閣と枢密院『経済往来』2-6、6月1日

新党新党ならず『中央公論』42-6、6月1日[「第一次若槻内閣(五) 民政党の結成」と改題『政界人物風景』収録]

憲政会内閣功罪史『雄弁』18-6、6月1日

若き心の勝利[「時事問題批判」]『雄弁』18-6、6月1日

政党発生の道程[「政治講座」]『労働』192、6月1日

領土と私有財産『北海タイムス』6月4日

政治家鑑定法[「学芸」]『早稲田大学新聞』131、6月16日  
ボロゼンの支那論『北海タイムス』6月19日  
補欠選挙と無産政党『北海タイムス』6月26日  
京橋の補欠選挙[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』6月29日  
政治時評『春秋』1-4、7月1日  
浜口雄幸論『中央公論』42-7、7月1日[『現代人物評論』収録]  
県会選挙の意義[「政治講座」]『労働』193、7月1日  
お祭りの太鼓[「気になる話」]『アサヒグラフ』7-20、7月6日  
軍艦の見物『北海タイムス』7月7日  
金融資本是非『北海タイムス』7月13日  
現代操人形[「自由槍」]『中外商業新報[夕刊]』7月14日  
世界を家とする『北海タイムス』7月18日  
神の暗殺『北海タイムス』7月27日  
関東遊園地『経済往来』2-8、8月1日  
政治時評『春秋』1-5、8月1日  
山東出兵その他[「社会時評」]『労働』194、8月1日  
芥川龍之介の死『北海タイムス』8月6日  
芸術としての人生観『北海タイムス』8月16日  
金融恐慌の決算『北海タイムス』8月23日  
浴風園を見て『経済往来』2-9、9月1日  
政治時評『春秋』1-6、9月1日  
普選前衛戦と無産政党『中央公論』42-9、9月1日  
労働者が天下を取ったならば[「政治講座」]『労働』195、9月1日  
社会時評『ワールド』4-9、9月1日  
情熱の日本『北海タイムス』9月9日  
産児制限に反対『北海タイムス』9月10日  
素人小説家『北海タイムス』9月17日  
切捨ての哲学『北海タイムス』9月27日  
政治時評『春秋』1-7、10月1日  
野間五造氏の「立法一元論」(下巻)[「新著批評」]『太陽』33-12、10月1日  
社会時評『ワールド』4-10、10月1日  
特権階級打破の夢『北海タイムス』10月11日

唯物主義と理想主義『北海タイムス』10月20日  
府県選挙と無産政党『北海タイムス』10月22日  
無産政党の合同『北海タイムス』10月28日  
選挙の正体を凝視めて[「普通選挙の戦蹟につき」]『改造』9-11、11月1日  
政治時評『春秋』1-8、11月1日  
元老と枢密院『太陽』33-13、11月1日  
民政党内閣倒壊運動『中央公論』42-11、11月1日  
鑑賞の態度『北海タイムス』11月5日  
力の福音『北海タイムス』11月15日  
貴族院の改革『北海タイムス』11月28日  
分裂と合同の分岐点[「無産政党合同問題」]『改造』9-12、12月1日  
政治時評『春秋』1-9、12月1日  
日本を破産せしめる[「政治講座」]『労働』198、12月1日  
曲学阿世『北海タイムス』12月6日  
東京市政の混乱『北海タイムス』12月13日  
世界の煩悶『北海タイムス』12月21日  
既成政党の評価『北海タイムス』12月29日

## 1928(昭和3)年

幽霊の正体『経済往来』3-1、1月1日  
政界人物評『春秋』2-1、1月1日  
[「(一)現代青年の信条とすべきものについて (二)現代青年の教養として、如何なる方向に一層力を注ぐ必要を感じられつゝありや」]『青年』13-1、1月1日  
非科学的方法[「東京市政に関する批判と意見」]『都市問題』6-1、1月1日  
予算の解説[「政治講座」]『労働』199、1月1日  
無産政党の選挙協定『北海タイムス』1月13日  
政治の自助論『北海タイムス』1月22日  
無産政党の往くべき途『北海タイムス』1月29日  
戦闘的で果敢な人[「高島素之論—近業「論・想・談」を読みて—」]『春秋』2-2、2月1日  
普選の威力『北海タイムス』2月29日  
迷信より科学へ！『経済往来』3-3、3月1日  
政治の行く途[「鬼言仏語」]『春秋』2-3、3月1日  
普通選挙物語『文芸春秋』6-3、3月1日[「原敬論」と改題]『現代人物評論』収録。「政治記者時代」と改

題『回顧と希望』収録]

- 無産政党史談会『文芸春秋』6-3、3月1日[1月24日座談会(於帝国ホテル):安部磯雄、山本懸藏、高橋亀吉、浅沼稻次郎、久米正雄、金子洋文、菊池寛]
- 政治に抜け道なし『北海タイムス』3月6日
- 無産政党史の提携合同『北海タイムス』3月16日
- 明日の日本『北海タイムス』3月25日
- 現内閣の辞職すべき時『中央公論』43-4、4月1日[「田中内閣時代(1)総選挙の失敗」と改題『政界人物風景』収録]
- 野田の労働争議『北海タイムス』4月1日
- 政海の塩[「政治講座」]『労働』202、4月1日
- [「近頃私が愛読して居るもの」]『読売新聞』4月6日
- 東京片信『九州日報[夕刊]』4月6日
- 東京片信(八日)『九州日報[夕刊]』4月11日
- 我等の運命判断『北海タイムス』4月13日
- 労働党の解散[「東京片信(十二日)」]『九州日報[夕刊]』4月14日
- 共産党の検挙『北海タイムス』4月17日
- 東京片信(十二日)『九州日報[夕刊]』4月18日
- 東京片信(十八日)『九州日報[夕刊]』4月21日
- 東京片信(廿二日)『九州日報』4月24日
- 東京片信(廿三日)『九州日報[夕刊]』4月26日
- 東京片信(廿五日)『九州日報[夕刊]』4月28日
- 東京片信(廿七日)『九州日報[夕刊]』4月29日
- 東京片信(廿九日)『九州日報[夕刊]』5月1日
- 世の中を悲観せず[「一人一話」]『春秋』2-5、5月1日
- 政治と社会の交響楽[「社会時評」]『文芸春秋』6-5、5月1日
- 東京片信(二日)『九州日報』5月4日
- 東京片信(二日)『九州日報[夕刊]』5月8日
- 東京片信(八日)『九州日報[夕刊]』5月10日
- 戦時の昂奮状態『北海タイムス』5月14日
- 東京片信(十二日)『九州日報[夕刊]』5月16日
- 東京片信(十七日)『九州日報[夕刊]』5月19日
- 東京片信(二十日)『九州日報[夕刊]』5月22日
- 支那の共産党『北海タイムス』5月22日

東京片信(二十日)『九州日報[夕刊]』5月23日  
東京片信(廿二日)『九州日報[夕刊]』5月25日  
東京片信(廿三日)『九州日報[夕刊]』5月26日  
東京片信(廿四日)『九州日報[夕刊]』5月27日  
東京片信(廿五日)『九州日報[夕刊]』5月29日  
小鳥の考察『北海タイムス』5月30日  
羽越線に沿って『経済往来』3-6、6月1日  
特別議会と将来の政情『中央公論』43-6、6月1日【「田中内閣時代(2)特別議会の政情」と改題『政界人物風景』収録】  
社会時評『文芸春秋』6-6、6月1日【以下3篇：田中内閣と特別議会、自由主義の没落、山東出兵の清算】  
東京片信(廿八日)『九州日報[夕刊]』6月1日  
東京片信(廿八日)『九州日報[夕刊]』6月2日  
東京片信(卅日)『九州日報[夕刊]』6月3日  
応援弁士『北海タイムス』6月6日  
東京片信(五日)『九州日報[夕刊]』6月8日  
東京片信(六日)『九州日報[夕刊]』6月10日  
東京片信(十二日)『九州日報[夕刊]』6月15日  
人類生活の色彩『北海タイムス』6月18日  
東京片信(十五日)『九州日報』6月19日  
東京片信(十六日)『九州日報[夕刊]』6月20日  
東京片信(十八日)『九州日報[夕刊]』6月21日  
東京片信(二十日)『九州日報』6月23日  
俸給生活者に与ふ『北海タイムス』6月24日  
東京片信(廿一日)『九州日報』6月24日  
東京片信(廿三日)『九州日報[夕刊]』6月26日  
東京片信(廿五日)『九州日報[夕刊]』6月28日  
都会生活とカフェー【「カフェと現代生活ーその社会的考察と批判」『経済往来』3-7、7月1日  
社会時評『文芸春秋』6-7、7月1日【以下3篇：英雄主義の悲哀、優渥問題の核心、張作霖の没落】  
東京片信(三十日)『九州日報[夕刊]』7月3日  
東京片信(三十日)『九州日報[夕刊]』7月7日  
旅行の礼賛『北海タイムス』7月11日  
東京片信(七日)『九州日報[夕刊]』7月12日

- 東京片信(十日)『九州日報[夕刊]』7月13日  
東京片信(十四日)『九州日報[夕刊]』7月17日  
東京片信(十六日)『九州日報[夕刊]』7月19日  
東京片信(十九日)『九州日報[夕刊]』7月22日  
東京片信(十九日)『九州日報[夕刊]』7月23日  
猫と唯物史観『北海タイムス』7月23日  
東京片信(廿五日)『九州日報』7月27日  
東京片信(廿六日)『九州日報』7月29日  
東京片信(廿八日)『九州日報』7月31日  
田中義一論『中央公論』43-8、8月1日[『現代人物評論』収録]  
『温海より瀬波へ』『東北の旅』3-8、8月1日  
社会時評『文芸春秋』6-8、8月1日【以下3篇：思想善導の秘訣、枢密院の自殺、会期延長と憲法改正】  
東京片信(廿九日)『九州日報』8月1日  
東京片信(廿九日)『九州日報』8月2日  
東京片信(三日)『九州日報』8月6日  
東京市の疑獄『北海タイムス』8月19日  
東京片信(廿一日)『九州日報』8月23日  
東京市の教訓『北海タイムス』8月26日  
東京片信(廿四日)『九州日報』8月26日  
東京片信(廿四日)『九州日報』8月30日  
東京片信(廿八日)『九州日報』8月31日  
床次竹二郎論『中央公論』43-9、9月1日[『現代人物評論』収録]  
社会時評『文芸春秋』6-9、9月1日【以下4篇：政権近づくとの予想、田中内閣の満州政策、日本の世界政策、今年の天候】  
東京市会の毒素[「政治講座」]『労働』207、9月1日  
東京片信(卅一日)『九州日報』9月3日  
不平等条約『北海タイムス』9月4日  
東京片信(三日)『九州日報』9月5日  
東京片信(四日)『九州日報』9月9日  
東京片信(九日)『九州日報』9月11日  
東京片信(十一日)『九州日報[夕刊]』9月14日  
東京片信(十一日)『九州日報』9月19日  
東京片信(十八日)『九州日報』9月20日

東京市疑獄の発展『北海タイムス』9月22日  
スポーツの効果『北海タイムス』9月23日  
東京片信(廿三日)『九州日報』9月25日  
東京片信(廿五日)『九州日報』9月27日  
東京片信(廿六日)『九州日報』9月29日  
東京市政論『中央公論』43-10、10月1日[「東京市政の人々」と改題『現代人物評論』収録]  
社会時評『文芸春秋』6-10、10月1日【以下3篇：東京市政の腐敗、既成政党の崩壊、対支外交の醜態】  
東京片信(一日)『九州日報』10月3日  
東京片信(三日)『九州日報』10月5日  
東京片信(六日)『九州日報』10月9日  
東京片信(八日)『九州日報』10月11日  
東京片信(十日)『九州日報』10月13日  
日露の今昔『北海タイムス』10月14日  
東京片信(十三日)『九州日報』10月16日  
東京片信(十五日)『九州日報』10月18日  
外交成功の途『北海タイムス』10月19日  
東京片信(十九日)『九州日報』10月22日  
東京片信(廿三日)『九州日報』10月26日  
東京片信(廿六日)『九州日報』10月29日  
此頃の世相を語る『サラリーマン』1-3、11月1日  
社会時評『文芸春秋』6-11、11月1日【以下5篇：夢見る民国、久原通相の事ども、疑獄中の政治家、田中内閣の寿命、秋晴の気分】  
日本はどうなる『平凡』1-1、11月1日[座談会：長谷川如是閑、高島素之、高橋亀吉、室伏高信、新居格、下中弥三郎、志垣寛]  
人生は芸術也『北海タイムス』11月7日  
日本の政党は何処へ行く[「新日本は如何に進まん 御大典を一期として」]『九州日報』11月17～19日  
無産党は合同するかー赤松克麿氏の現実主義論[「読書ページ」]『東京朝日新聞』11月24日  
政局展望台[以下2篇、「大隈重常侯の政界進出」「二大政党と少数党」]『改造』10-12、12月1日  
議会と政党[「昭和三年学界・財界・産業界・政界・社会運動界回顧」]『経済往来』3-12、12月1日  
安達謙蔵論『中央公論』43-12、12月1日[『現代人物評論』収録]  
社会時評『文芸春秋』6-12、12月1日【以下4篇：無産政党界の整理、少数党黄金時代、君子豹変の外交、満員列車が断崖へ】  
人物評判座談会『文芸春秋』6-12、12月1日[座談会：前田蓮山、三宅やす子、近松秋江、山浦貫一、

久米正雄、菊池寛]

我等の信条『社会民衆新聞』1、12月10日

東京片信(十一日)『九州日報』12月13日

東京片信(十四日)『九州日報』12月16日

東京片信(廿三日)『九州日報』12月25日

婦人の教養『北海タイムス』12月30日

## 1929(昭和4)年

政界展望台『改造』11-1、1月1日【以下2篇：田中久原の金権政治、床次氏の支那行】

「政界小観 一、今期議会と田中内閣の前途、二、二大政党対立か小党分立か」『祖国』2-1、1月1日

久原房之助論『中央公論』44-1、1月1日[『現代人物評論』収録]

「各雑誌」評判会『文芸春秋』7-1、1月1日[座談会：小野賢一郎、平林初之輔、清沢洌、広津和郎、直木三十五、菅忠雄、菊池寛]

山東より撤兵せよ[「政治講座」]『労働』211、1月1日

東京片信(八日)『九州日報』1月10日

東京片信(十四日)『九州日報』1月14日

東京片信(十六日)『九州日報』1月18日

東京片信(十八日)『九州日報』1月19日

東京片信(十九日)『九州日報』1月21日

支那問題と思想問題『北海タイムス』1月22日

市議選・僕・新聞『新聞及新聞記者』10-2、2月1日

小泉策太郎論『中央公論』44-2、2月1日[『現代人物評論』収録]

市会選挙と僕『文芸春秋』7-2、2月1日[『政界人物風景』収録]

東京片信『九州日報』2月3日

東京片信(三日)『九州日報』2月5日

東京片信 六日『九州日報』2月9日

トロツキーの憤慨『北海タイムス』2月11日

東京片信(十一日)『九州日報』2月14日

無産政党の資金『北海タイムス』2月19日

東京片信(十七日)『九州日報』2月19日

政治の科学化『北海タイムス』2月22日

東京片信(廿一日)『九州日報』2月24日

東京片信『九州日報』2月27日

【「この頃の婦人問題と内外婦人を比較して」】『海外』25、3月1日

議会展望台『改造』11-3、3月1日【以下4篇：津田三蔵有名になる、屠所の羊、山東悲喜劇、政治を  
議会より街頭へ】

徳富蘇峰論『中央公論』44-3、3月1日【『現代人物評論』収録】

市政の渦巻き『北海タイムス』3月4日

無産政党の進出『北海タイムス』3月24日

議会展望台『改造』11-4、4月1日【以下7篇：小選挙区制案、優待問題問責案、床次氏の対支方針、  
久原通相弾劾案、日月潭の水力電気、私設鉄道への買収公債、貴族院の作戦】

東京片信『九州日報』4月1日

低能内閣列伝『中央公論』44-4、4月1日【「寺内・山本・清浦・田中」と改題『現代人物評論』収録】

よりよき社会『北海タイムス』4月5日

東京片信『九州日報』4月6日

スフィンクスの謎『北海タイムス』4月6日

東京片信『九州日報』4月8日

東京片信『九州日報』4月12日

東京片信『九州日報』4月15日

東京片信『九州日報』4月17日

後藤新平伯の死『北海タイムス』4月19日

東京片信『九州日報』4月21日

東京片信『九州日報』4月22日

大学教育の改造『北海タイムス』4月23日

陸奥宗光の遺稿『蹇蹇録』を読む【「読書ページ」】『東京朝日新聞』4月26日

東京片信『九州日報』4月26日

東京片信『九州日報』4月28日

政局はどう動く【「政局は何処へ？」】『改造』11-5、5月1日【「田中義一論 田中内閣の末期」と改題『現  
代人物評論』収録】

水野直論『中央公論』44-5、5月1日【『現代人物評論』収録】

現代政治家の考察『東方公論』4-5、5月1日

東京片信『九州日報』5月3日

英国の総選挙『北海タイムス』5月3日

東京片信『九州日報』5月7日

政治文学の地位『北海タイムス』5月7日

東京片信『九州日報』5月12日

- 東京片信『九州日報』5月14日
- 東京片信『九州日報』5月18日
- 東京片信『九州日報』5月19日
- 東京片信『九州日報』5月21日
- 東京片信『九州日報』5月24日
- 東京片信『九州日報』5月25日
- ロイド・ジョージ『北海タイムス』5月25日
- 東京片信『九州日報』5月31日
- 此頃の世相を語る[「『厭ぢや』アリマセンカに就て御伺ひ」]『サラリーマン』2-6、6月1日
- 英国の三党首論『中央公論』44-6、6月1日
- 英国の総選挙『労働』216、6月1日
- 東京片信『九州日報』6月5日
- 思想的立場より観たる英国労働党の勝利[談]『読売新聞』6月6日
- 東京片信『九州日報』6月8日
- 東京片信『九州日報』6月10日
- 東京片信『九州日報』6月12日
- 労働党と共産党『北海タイムス』6月14日
- 東京片信『九州日報』6月16日
- 東京片信『九州日報』6月19日
- 婦人問題『北海タイムス』6月21日
- 東京片信『九州日報』6月24日
- 無産党気質『北海タイムス』6月25日
- 堺利彦を語る[「第一線の人・想と行動相互批判」]『読売新聞』6月26日
- 東京片信『九州日報』6月29日
- 政界裏面の巨頭『中央公論』44-7、7月1日[『現代人物評論』収録]
- 東京片信『九州日報』7月3日
- 東京片信『九州日報』7月6日
- 内閣更迭と無産階級の解放運動『社会民衆新聞』9、7月10日
- 東京片信『九州日報』7月11日
- 東京片信『九州日報』7月16日
- 政治と時代の交渉[「今日の社会・今日の芸術の横断面」]『読売新聞』7月23、24日[(上)を『新聞集成昭和編年史 昭和四年度版Ⅲ』(新聞資料出版、1989年)収録]
- 東京片信『九州日報』7月24日

東京片信『九州日報』7月27日  
日露支の問題『北海タイムス』7月28日  
東京片信『九州日報』7月29日  
政界展望台『改造』11-8、8月1日【以下4篇：政友会の後任総裁、既成政党の分裂主義、民政党内閣の前途、浜口内閣の人物評】  
第一線の人物合評会『新潮』26-8、8月1日[第73回新潮合評会：石浜知行、近松秋江、千葉亀雄、新居格、大宅壮一、金子洋文、中村武羅夫]  
田中内閣倒壊の主役者『中央公論』44-8、8月1日[「西園寺公望と内田康哉」と改題『現代人物評論』収録]  
即時解散論『新聞及新聞記者』10-8、8月1日  
東京片信『九州日報』8月3日  
官吏の思想『北海タイムス』8月4日  
旅行と自由を語る[「胸襟を開く」]『読売新聞』8月9日  
東京片信『九州日報』8月10日  
東京片信『九州日報』8月11日  
夏期の旅行慾『北海タイムス』8月11日  
東京片信『九州日報』8月13日  
温和なる帝国主義『北海タイムス』8月18日  
東京片信『九州日報』8月18日  
東京片信『九州日報』8月26日  
新労農党の目標『北海タイムス』8月29日  
幣原喜重郎論『中央公論』44-9、9月1日[『現代人物評論』収録]  
東京片信『九州日報』9月2日  
東京片信『九州日報』9月6日  
東京片信『九州日報』9月9日  
緊縮風は何方へ吹く[「現代世相展望」]『東京朝日新聞』9月20日  
東京片信『九州日報』9月23日  
東京片信『九州日報』9月27日  
小川平吉氏の事件『読売新聞』9月29日  
政局展望台『改造』11-10、10月1日【以下5篇：キヤスティング・ヴォート、政友会に闘志ありや、第三党と解散回避論、売勲其他の疑獄、無産党自重すべき秋】  
民二八〇、政一七〇？[「政・民何れが勝つか」]『改造』11-10、10月1日  
萌芽期の政党と其資本『中央公論』44-10、10月1日  
東京片信『九州日報』10月8日

- 東京片信『九州日報』10月16日
- 東京片信『九州日報』10月17日
- 東京片信『九州日報』10月22日
- 犬養氏とマクドナルド『北海タイムス』10月25日
- 無産政治の階級性『北海タイムス』10月28日
- 政局展望台 政友会の将来『改造』11-11、11月1日
- 渡辺千冬論『中央公論』44-11、11月1日[『現代人物評論』収録]
- 田中義一の死と政界『文芸春秋』7-11、11月1日[「田中義一論 田中義一死後の感想」と改題『現代人物評論』収録。『「文芸春秋」にみる昭和史」第1巻(文芸春秋、1987年)収録]
- 政界展望台『改造』11-12、12月1日【以下5篇：犬養車中談、浜口内閣の鬼門、解散の存在理由、軍縮会議の目標、共産党事件】
- 共産党敗へて恐るゝに足らず[「共産党事件と新聞の態度」]『新聞及新聞記者』10-11、12月1日
- 若槻礼次郎論『中央公論』44-12、12月1日[『現代人物評論』収録]
- 貧富社会相座談会『文芸春秋』7-12、12月1日[座談会：椎名龍徳、川野温興、藤東太、安島誉、新城朝功、高橋亀吉、神田伯龍、小島政二郎、佐々木茂索]
- 党争に超越せよ『北海タイムス』12月10日
- 維新の世界『北海タイムス』12月21日
- 政治の弁証法『北海タイムス』12月27日

## 1930(昭和5)年

- 政戦に直面して 新しき政治への拍車『信濃毎日新聞』1月1日
- 第五十七議会に対する感想『高岡新報』1月1日
- 犬養毅論『中央公論』45-1、1月1日[『現代人物評論』収録]
- 第五十七議会に対する感想『函館日日新聞』1月1日
- 浜口か犬養か[「どつちがどつち」]『文芸春秋』8-1、1月1日
- 国民は政権争奪の芝居を我慢して見て来た[「第五十七議会に対する感想」]『北国新聞』1月1日
- 1930年の文芸、思想、政治は如何なるコースをとるか『読売新聞』1月1、4、5、7～11、14、15、17、18、21～23日[合評会：長谷川如是閑、中村武羅夫、新居格、大宅壮一、川端康成、久米正雄]
- 政界風景『大阪毎日新聞』1月3～5日[『東京日日新聞』1月8～10日][「解散行進曲」と改題『政界人物風景』収録]
- [「選挙に当つて吾等は斯の如き政党或いは人物を支持す」]『読売新聞』1月22日
- 解散の効果『北海タイムス』1月25日
- 既成政党と中立の陣営より[「文芸日曜付録」]『読売新聞』1月26日
- 総選挙展望『改造』12-1、2月1日【以下4篇：年内解散流れる、予想される選挙の結果、地盤とは何

ぞや、無産党の正攻法】

議会解散その日『中央公論』45-2、2月1日[「原・桂・清浦の解散振り」と改題『現代人物評論』収録]

山梨半造と斉藤実『中央公論』45-2、2月1日[『現代人物評論』収録]

政友会か民政党か[「どつちがどつち」]『文芸春秋』8-2、2月1日

無産党の試練時代[「総選挙への注文」]『大阪朝日新聞』2月2日

無産政党的対立『北海タイムス』2月2日

Wakatsuki as statesman『日米[The Japanese American News]』2月4日 [若槻礼次郎論『中央公論』44-12、1929年12月1日の英訳]

Effect of Confucianism on China is explained『日米[The Japanese American News]』2月8日

総選挙展望『改造』12-3、3月1日【以下3篇：政治と傭兵制度、政党の経済的基礎、無産党時代来る】

木堂翁のこと『騒人』5-3、3月1日

大政友会論『中央公論』45-3、3月1日[「政友会の人々」と改題『現代人物評論』収録]

今後の政党をどう見る『新聞及新聞記者』11-3、3月10日

総選挙戦績批判座談会『社会民衆新聞』16、3月20日 [3月5日座談会(於社会民衆党本部)：安部磯雄、松岡駒吉、赤松克麿、山崎一雄、藤田喜作、勝田穂策、吉田実、木村盛、斉藤健一、亀田一郎、川瀬宏、菊地俊雄、赤松常子、北崎一雄、生野喜三郎、佐藤義熊、西本喬]

経済時評[「不景気の原因」「糸価補償法」「不景気の克服」]『北海タイムス』3月26～28日

M. Saito, a successful colonial administrator『日米[The Japanese American News]』3月29、30日 [山梨半造と斉藤実『中央公論』45-2、2月1日の抄訳]

総選挙批判『改造』12-4、4月1日【以下5篇：選挙地盤の効果、安達の選挙技術、階級の分岐点、無産党の悲観、無産党の経済政策】

大民政党論『中央公論』45-4、4月1日[「民政党の人々」と改題『現代人物評論』収録]

政治季節来る『東京日日新聞』4月16～20日 [政治シーズン来『大阪毎日新聞』4月17～19、21日]

絶対多数を抱いて『改造』12-5、5月1日

貴族院論『中央公論』45-5、5月1日[「貴族院の人々」と改題『現代人物評論』収録]

浜口内閣無能? [「浜口内閣果して無能か?」]『文芸春秋』8-5、5月1日

陸海軍巨頭論『中央公論』45-6、6月1日[「陸海軍の巨頭」と改題『現代人物評論』収録]

共倒れの危険[「四ツに組んだ財部と加藤」]『サンデー毎日』9-28、6月15日

伊藤巳代治論『中央公論』45-7、7月1日[『現代人物評論』収録]

若槻の発展『改造』12-8、8月1日[「若槻礼次郎論」と改題『現代人物評論』収録]

井上準之助論『中央公論』45-8、8月1日[『現代人物評論』収録]

『人物』座談会『改造』12-9、9月1日 [座談会：長谷川如是閑、菊池寛、本多熊太郎、向坂逸郎、前田河広一郎、永井柳太郎、杉村楚人冠、山本実彦]

牧野伸顕論『中央公論』45-9、9月1日[「牧野内大臣論」と改題『現代人物評論』収録]

- 政界を語る[「最近諸相鳥瞰図」]『文芸春秋』8-10、9月1日
- 枢密院の精算『大阪毎日新聞』9月29、30日、10月1~4日(枢密院後日譚『東京日日新聞』10月2~5、7、8日)[『政界人物風景』収録]
- 枢密院の人々『改造』12-10、10月1日[『政界人物風景』収録]
- 不景気は何うなる[「政友内閣出現すれば」]『改造』12-10、10月1日
- 江木翼論『中央公論』45-10、10月1日[『現代人物評論』収録]
- 金輸出再禁止論に就て『労働経済』1-4、10月1日
- 報知新聞論『中央公論』45-11、11月1日[「野間清治と報知新聞」と改題『政界人物風景』収録]
- 批判的態度を尊敬する[「高島素之回想」]『急進』2-11<高島素之追想記念号>、12月1日
- 弱き者が勝つ[「送年随筆」]『文芸春秋』8-12、12月1日
- 現代軍人論『中央公論』45-12、12月1日[『政界人物風景』収録]

## 1931(昭和6)年

- 浜口雄幸の展望『改造』13-1、1月1日[「浜口雄幸と其内閣(2) 浜口雄幸の展望」と改題『政界人物風景』収録]
- [「信州(一)好きな人物(二)人と風土の印象」]『信濃毎日新聞』1月1日
- 記者の秘密と官憲の言論暴圧[「昭代の不祥事! 言論暴圧」]『新聞及新聞記者』12-1、1月1日
- 一九三一年の政治家『中央公論』46-1、1月1日[『政界人物風景』収録]
- 波瀾を予想させる第五十九議会議場人物『週刊朝日』19-2、4、1月4、18日[「五十九議会議場人物」と改題『政界人物風景』収録]
- 明日の人々『大阪毎日新聞[夕刊]』1月6~11、14~18、20日【大臣にならぬ人、浜口遭難の後、首相のお守り役、鳩山一郎氏、永井柳太郎氏、大隈第二世、中野正剛氏、森格氏、桜内幸雄氏、歴史の一節、島田俊雄氏、一宮房治郎氏】[『政界人物風景』収録]
- 明日の人々『東京日日新聞』1月12~14、16~24日【大臣にならぬ人、伊沢氏の苦衷、伊沢と原敬、鳩山一郎氏、永井柳太郎氏、永井の外交意見、中野正剛氏、森格氏、桜内幸雄氏、桜内幸雄氏(続)、島田俊雄氏、一宮房治郎氏】
- 政治問題をレビューする眼『サラリーマン』4-1、1月15日
- 一九三〇年の政治問題[11月24日(於中央大学講堂)]『講演集』241、1月20日
- 近衛公と貴族院『改造』13-2、2月1日[「近衛文麿公と貴族院」と改題『政界人物風景』収録]
- 宇垣一成論『中央公論』46-2、2月1日[『政界人物風景』収録]
- 政界閑話一明日の人々『大陸日報』2月7、9~14、16、17日【大臣にならぬ伊沢多喜男、首相をお守り役の伊沢多喜男、未来の総理大臣、鳩山一郎、大隈第二世、永井柳太郎、力の政治家、中野正剛、政友会を切つて廻す森格、政友会の働き手、島田俊雄、大に将来のある一宮房治郎】
- 明日の人々『羅府新報』2月21、22、24~28日、3月1、5~7、10、11日【大臣にならぬ人、首相のお守り役、鳩山一郎、永井柳太郎、中野正剛、森格】
- 三土忠造論『中央公論』46-3、3月1日[『政界人物風景』収録]

政戦の展望『文芸春秋』9-3、3月1日

大局を見るの明ある人[「国民新聞新社長伊達源一郎君」]『新聞及新聞記者』12-3、3月10日

事業家菊池寛[「菊池寛を分析す」]『読売新聞』3月15日

政局の展望『改造』13-4、4月1日[「浜口雄幸と其内閣(4) 遭難後の政局」と改題『政界人物風景』収録]

浜口内閣論『中央公論』46-4、4月1日[「浜口雄幸と其内閣(3) 彼の内閣」と改題『政界人物風景』収録]

五十九議会の経済論争[「時評」]『労働経済』2-4、4月1日

仙石貢論『中央公論』46-5、5月1日[『政界人物風景』収録]

第五十九議会の決算『文芸春秋』9-5、5月1日

現代の人物を語る(政治家の巻)『キング』7-6、6月1日

若槻内閣論『中央公論』46-6、6月1日[「第二次若槻内閣論」と改題『政界人物風景』収録]

僕は憂鬱になる『文芸春秋』9-6、6月1日[「墓荘だより」(『自伝点描』150～153頁)に収録]

国家主義の誤謬『労働経済』1-6、6月1日

誰れが民衆全体を想ふ『労働経済』1-6、6月1日

人気を追ふ勿れ『労働経済』1-6、6月1日

不安世界の大通り—清沢冽氏の近著—『読売新聞』6月8日

新聞巨頭論[「現代新聞論」]『中央公論』46-7、7月1日

満鮮に登場する人々『中央公論』46-8、8月1日

明日の人々『ユタ日報』8月6～8、10～15、17～22、24、26、27、29、31日、9月1～5、8～10日【大臣にならぬ人、伊沢氏の苦心、伊沢と原敬、鳩山一郎氏、永井柳太郎氏、中野正剛氏、森格氏、櫻内幸雄氏、島田俊雄氏、一宮房次郎氏】

秘密外交は無駄な努力[「ブラック・チェンバを読む」]『大阪毎日新聞』8月31日

高橋氏の英文『英語青年』65-11、9月1日

職業婦人に与ふる書『婦人公論』16-9、9月1日

江木翼の辞職『中央公論』46-10、10月1日

古武士浜口雄幸の死[「操觚者の見たる浜口前総裁」]『民政』5-11、10月1日

[「本年度読書出版界の展望」]『読売新聞』11月20日

## 1932(昭和7)年

若槻内閣から犬養内閣へ『中央公論』47-1、1月1日[『議会政治論』収録]

政局を動かす人々『東京朝日新聞』1月4～8日[『大阪朝日新聞』1月6～8、10、11日、『大陸日報』1月19、20、22、23、25、26日に転載][「金融政変に踊つた人々」と改題『議会政治論』収録]

近松秋江氏の『水野越前守』を読む[「読書顧問」]『時事新報』1月18日

- 総選挙風景『大阪朝日新聞』1月27、29日
- 政界に踊る影『加州毎日新聞』1月30日、2月1～5日
- 国民大衆に降参せよ[「犬養内閣に何を望むか(百名士回答)」]『政界往来』3-2、2月1日
- 解散に直面する犬養内閣『中央公論』47-2、2月1日[「犬養内閣と総選挙」と改題『議会政治論』収録]
- 総選挙を顧みて『東京日日新聞』2月23～25日
- 征韓論時代『東京日日新聞』2月29日、3月1、3、5～8、10、11、13日[『議会政治論』収録]
- 総選挙展望『改造』14-3、3月1日[「総選挙情景」と改題『議会政治論』収録]
- 仇討礼賛の教育をやめよ[「井上前蔵相の暗殺は教育界にどう響いたか」]『公民教育』2-3、3月1日
- 吉沢謙吉論『中央公論』47-3、3月1日[『議会政治論』収録]
- 総選挙縦横座談会『文芸春秋』10-3、3月1日[2月1日座談会(於レインボーグリル)：阿部真之助、赤松克麿、山浦貫一、佐々弘雄、野村秀雄、管忠雄]
- 総選挙を顧みて『民政』6-3、3月1日
- 政友会内閣の命脈『改造』14-4、4月1日[「政友会の大勝」と改題『議会政治論』収録]
- 言論の自由の尊重良策[「険悪なる現下の世相発生の原因と対策」]『青年』17-4、4月1日
- 重臣論『中央公論』47-4、4月1日[『議会政治論』収録]
- 政界の展望『労働経済』3-3、4月1日
- 鈴木喜三郎論『中央公論』47-5、5月1日[『議会政治論』収録]
- 喜三郎鈴木論『加州毎日新聞』5月20～28日
- 斎藤内閣の素描『東京日日新聞』5月26～28日[『大阪毎日新聞[夕刊]』5月27～29日]
- 犬養内閣と軍部『改造』14-6、6月1日[『平和と自由への驀進』収録]
- 内田康哉論『中央公論』47-6、6月1日[『議会政治論』収録、『日米[The Japanese American News]』8月13、15～20日に転載]
- 斎藤内閣の素描『民政』6-6、6月1日
- 日に一度は[「名士と散歩」]『サンデー毎日』11-27、6月5日
- Trade unions and the labour movement『Contemporary Japan』1-1、6月
- 斎藤内閣の人々『改造』14-7、7月1日[「斎藤内閣の成立」と改題『議会政治論』収録]
- 斎藤実論『中央公論』47-7、7月1日[『議会政治論』収録]
- 日本よ何処へ行く『読売新聞』7月27日～8月2日
- 非常時の政界展望『改造』14-8、8月1日[「非常時政界の分析」と改題『議会政治論』収録]
- 現代代議士論『中央公論』47-9、8月1日[『議会政治論』収録]
- 現代の英雄は誰か[「新時代の英雄は何人か?」]『日の出』1-1、8月1日[「西園寺、若槻、鈴木」と改題『政界人物評論』収録]
- 内田康哉論『日米[The Japanese American News]』8月13、15～20日[初出は、『中央公論』47-6、6月1日]

政界波紋の種々相『改造』14-9、9月1日

新聞時評一言論自由の戦—農村救済問題—社長の宣伝『中央公論』47-10、9月1日

政界の発展予測『改造』14-10、10月1日

永井柳太郎論『中央公論』47-11、10月1日[『議会政治論』収録]

旅行、碁、将棋『週刊朝日』22-18、10月16日[「旅行・碁・将棋」と改題『国と人物』収録]

政局はどう動くか『加州毎日新聞』10月27～31日、11月1～3日

指導的政治家は誰れ[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』10月31日[『議会政治論』収録]

松岡洋右論『中央公論』47-12、11月1日[『議会政治論』収録]

予算編成の結果[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月7日

資本家の政治闘争[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月14日

ブレーキを有せざる日本[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月21日

時の解決を待つ問題[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月28日

松岡洋右論『加州毎日新聞』11月30日、12月1～7日

政界腹芸時代『改造』14-12、12月1日

広田弘毅論『中央公論』47-13、12月1日[『議会政治論』収録、『広田弘毅』(広田弘毅伝記刊行会編・刊、1966年)補遺IIに抄録]

最善の批評 最終の批評[「十二月の論壇」]『東京朝日新聞』12月1日[論壇時評(一) 最上の批評と最後の批評—三木清氏の場合—[「文芸」]『大阪朝日新聞』12月5日、「三木清氏の論文」と題して『新聞集成昭和編年史 7年度版』(大正昭和編年史刊行会、1961年)収録]

政界気象図 雨後の水たまりに誰が残る[「十二月の論壇」]『東京朝日新聞』12月2日[論壇時評(二) 政界気象図 山川均氏の新新聞時評論[「文芸」]『大阪朝日新聞』12月6日]

警鐘乱打に終る 財政危機を叫ぶ人々[「十二月の論壇」]『東京朝日新聞』12月3日

内閣は已に老境に入ったか[「日曜時評」]『読売新聞』12月5日

政府と資本家の政治闘争『工場世界』13-13、12月10日

先づ非常時を清算せよ[「日曜時評」]『読売新聞』12月12日

われへの抱負経緯は何か[「日曜時評」]『読売新聞』12月19日

民衆を愚にすべからず[「日曜時評」]『読売新聞』12月26日[『議会政治論』収録]

## 1933(昭和8)年

議会を前に政局は動く『改造』15-1、1月1日

昭和八年を打診する『新潮』30-1、1月1日

岡田海相論『中央公論』48-1、1月1日[「岡田啓介論」と改題『議会政治論』収録]

昭和八年の初頭に『読売新聞』1月1日[『議会政治論』収録]

直木三十五氏を中心として大衆文学の動向を談ず[「1933年待望座談会」]『読売新聞』1月1、3、5～7日

- [座談会：山本有三、直木三十五、杉森孝次郎、小林一三、秋田雨雀]
- 政党を復興さす人々『東京朝日新聞』1月4日[「政党を興さんとする人々」と改題『議會政治論』収録]
- 政党を興す人々『大阪朝日新聞[夕刊]』1月5～8、10日[初出は『東京朝日新聞』1月4日]
- 秋田雨雀氏を中心としてプロ文学の動向を談ず[「1933年待望座談会」]『読売新聞』1月8、10日[座談会：  
山本有三、直木三十五、杉森孝次郎、小林一三、秋田雨雀ほか]
- 議會に何を求むべきか[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月9日
- 政府の自己満足は早計である[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月16日
- Optimism of Saito cabinet 『The Japan Times & Mail』1月17日
- 馬場恒吾氏を中心として現代の政治問題を談ず[「1933年待望座談会」]『読売新聞』1月22、24～26日 [座  
談会：山本有三、直木三十五、杉森孝次郎、小林一三、秋田雨雀ほか]
- 共産党を取締る方法[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月23日
- 窮せざるが故に通ぜず[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月30日
- 議會政治論『改造』15-2、2月1日[末尾の1節を追加して「世界議會への発展」と改題『議會政治論』収  
録]
- 今議會を繞る政界の動向『中央公論』48-2、2月1日
- 政党浮沈の戦『中央公論』48-2、2月1日[『議會政治論』収録]
- 我が国民の目標[「随想と漫筆」]『東邦時論』10-2、2月1日
- 時事雑感[「随想」]『東方公論』8-2、2月1日
- 無産政党の再批判 社会大衆党への希望と註文『労働経済』4-2、2月1日[座談会：巖山政道、水野広  
徳、茂木惣兵衛、米窪満亮、松岡駒吉、齊藤健一、山崎広]
- 風なくして大木が倒れるならば[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月6日
- 国際的な池の水の如し[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月13日
- 政治が民衆の手に移る機会[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月20日
- 若し此の難局が無事に済んだなら[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月27日
- 金貨を抱いて飢ゑんとする[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月6日
- 誰が非常時を清算する[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月13日
- 最も尤もらしき政局の予測[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月20日
- 我思想界の明星 吉野博士を悼む[談「学苑」]『九州日報』3月23日
- 政党よ、自己の力を信ぜよ[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月27日
- Making parliament popular 『Contemporary Japan』1-4、3月
- シヨウ印象記[「文豪シヨウを迎えて」]『改造』15-4、4月1日[「バーナード・シヨウ」と改題『国と人物』  
収録]
- [「読んだ本と読ませたい本」]『児童読物研究』2-1、4月1日
- 湯浅宮相論『中央公論』48-4、4月1日[『政界人物評論』収録]

米国金融恐慌座談会『中央公論』48-4、4月1日[3月13日座談会(於帝国ホテル):石浜知行、武藤山治、上田貞次郎、松方幸次郎、牧野輝智、藤原銀次郎、三土忠造、嶋中雄作]

自由主義者の国際観念[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月3日[『政界人物評論』収録]

首相の人物と政変の行方[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月10日

経済予備会議と日本[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月17日

人民の出る幕はないか[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月24日[『国民政治読本』収録]

斉藤内閣の動向『改造』15-5、5月1日[『日米[The Japanese American News]』5月12～16日に転載]

ヒトラー論『中央公論』48-5、5月1日[『国民政治読本』収録]

人間松岡を語る[「松岡氏を語る」]『東方公論』8-5、5月1日

政界の動脈硬化[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月1日

経済会議は何を教へる[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月8日

斉藤内閣の動向『日米[The Japanese American News]』5月12～16日[初出は、『改造』15-5、5月1日]

自由主義者に対する嘲笑[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月15日[『政界人物評論』収録]

最後に笑ふものは誰れ[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月22日

華府予備商議と日本 日本は根本精神を諒解してゐるか『加州毎日新聞』5月26、27日

東洋平和の一便法[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月29日

政党政治への展望『改造』15-6、6月1日

『公爵山県有朋伝』[「BOOK REVIEW」]『改造』15-6、6月1日

石井菊次郎と深井英五『中央公論』48-6、6月1日[『政界人物評論』収録]

経済会議は何を教へる[「随想と漫筆」]『東邦時論』10-6、6月1日

幣原外交は何処へ行く『文芸春秋』11-6、6月1日[「幣原外交の本質」と改題『政界人物評論』収録]

政友会は迷ふべからず[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月5日

自己より社会へ[揮毫]『読売新聞』6月8日

一国一党主義は何に役立つ[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月12日

此の謎を如何に解くべき[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月19日

篤の思想善導[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月26日[『政界人物評論』収録]

非常時政局の解消『改造』15-7、7月1日

高橋是清の心境『中央公論』48-7、7月1日[「高橋鈴木の黙契」と改題『政界人物評論』収録]

自由主義をめぐる論争[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月3日[『国民政治読本』収録]

終ひに遂げられざる希望[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月10日[『政界人物評論』収録]

思想対策の官僚化[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月17日[『大陸日報』8月21、22日に転載]

続福沢全集[「ブックレビュー」]『読売新聞』7月19日

日本に世界観があるか[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月24日  
政党法を作るといふ思想[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月31日[『国民政治読本』収録]  
現代政治の段階『中央公論』48-8、8月1日  
遂げられざる希望[「随筆」]『東方公論』8-8、8月1日  
[「名士の性教育」]『婦女界』48-2、8月1日  
自由主義に対する嘲笑『加州毎日新聞』8月4、5日  
連立内閣が清算さる[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』8月7日  
無任所大臣の思想[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』8月14日  
誰れが支配階級か[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』8月21日  
国策協定に期待されるもの[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』8月28日  
政局の動向と示唆『改造』15-9、9月1日  
[「夏は何を読むべきか」]『モダン日本』4-9、9月1日  
信玄及謙信の哲学[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』9月4日[『政界人物評論』収録]  
フアツショへの近道[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』9月11日[「フアツショへの道」と改題『国民政治読本』収録]  
内閣新入生への期待[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』9月18日  
議会政治の強化保全[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』9月25日  
非常日本の発展 軍部論壇への進出[「十月の論壇」]『東京朝日新聞』9月26日  
国策の協定に期待されるもの『加州毎日新聞』9月27、28日[『読売新聞[夕刊]』8月28日から転載]  
論壇の進歩 元外相も馬を並べて[「十月の論壇」]『東京朝日新聞』9月27日  
政界観測 五・一五事件の批判[「十月の論壇」]『東京朝日新聞』9月28日  
自由主義検討 経済理論とその効果[「十月の論壇」]『東京朝日新聞』9月29日  
Our liberals look ahead『Contemporary Japan』2-2、9月  
政界の分解作用『改造』15-10、10月1日[『日米[The Japanese American News]』12月11～15日に転載]  
政友会巨頭論『中央公論』48-10、10月1日[『政界人物評論』収録]  
軍の統制問題[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』10月2日[『大陸日報』10月27、28日に転載]  
五相会議と世界の輿論[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』10月9日  
古書が現代を諷する[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』10月16日[『政界人物評論』収録]  
ナチスに関する一、二の観察[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』10月23日[『国民政治読本』収録]  
新しき外交のスローガン[「日曜時評」]『読売新聞』10月30日[「外交のスローガン」と改題『政界人物評論』収録]  
高橋是清論『中央公論』48-11、11月1日[「斎藤内閣時代の高橋」と改題『政界人物評論』収録]

人民よ、力強くなれ[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月6日  
内政会議の展望[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月13日  
予算と各省大臣[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月20日[『政界人物評論』収録]  
言論の自由を戦ひ取る[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月27日[『国民政治読本』収録]  
政党連合論『改造』15-12、12月1日  
近衛文麿論『中央公論』48-12、12月1日[『政界人物評論』収録]  
人民よ力強くなれ[「随筆」]『東方公論』8-12、12月1日  
予算成立の教訓[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』12月4日  
政界の分解作用『日米[The Japanese American News]』12月11～15日[初出は、『改造』15-10、10月1日]  
農家の立直る力[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』12月18日  
政党連携問題[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』12月25日

## 1934(昭和9)年

人民の声漸く聞ゆ[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月8日[『国民政治読本』収録]  
変態性政治慾[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月15日  
議会の指導原理 眞の国家統制は自由主義の上に[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月22日[『国民政治読本』収録]  
経済的大帝国・日本[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月29日[「経済的帝国主義」と題して『大陸日報』2月23、24日に転載]  
政界にも春来る[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月5日  
言論に現はる大国の態度[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月12日  
超然内閣と政党政治[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月19日[『大陸日報』3月22日に転載]  
敢て悲観を要せず[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月26日  
政党政治論『改造』16-4、3月1日[『政界人物評論』収録]  
われ〱は如何なる内閣を望むか『中央公論』49-3、3月1日  
議会を解散せよ[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月5日  
政治家の心理[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月12日  
官僚政治の抬頭 政治専門化の弊害[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月19日[『国民政治読本』収録]  
斎藤首相の参考にまで[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月26日  
政局未来観『改造』16-5、4月1日  
広田外相論『中央公論』49-4、4月1日[『政界人物評論』収録]  
政界多事ならんか[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月2日

栗の毛毬を剥ぐ如く[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月9日  
良き政治を我等の手で[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月16日[『国民政治読本』収録]  
トロツキーの毒舌[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月23日  
日本を住みよい国に[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月30日[『政界人物評論』収録]  
斉藤内閣論『中央公論』49-5、5月1日[「末期の斉藤内閣」と改題『政界人物評論』収録]  
政党連立内閣への期待[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月7日  
『われ世に勝てり』[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月14日  
内閣が潰れるならば[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月21日  
これは余りに非道い[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月28日  
林陸相論『中央公論』49-6、6月1日[『政界人物評論』収録]  
光は東方より[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月4日  
日本の代表的政治家[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月11日  
我党内閣と何故云はない[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月18日  
政局前途の一場面[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月25日  
Towards Parliamentary Revival『Contemporary Japan』3-1、6月  
政界縦横論『改造』16-8、7月1日  
現代政変論『中央公論』49-7、7月1日[「軍人の関係したる政変史」と改題『政界人物評論』収録]  
政友会の出处進退[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月2日  
岡田内閣と政友会[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月9日  
悔みを千秋に遺すな[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月16日  
解散は可能か[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月23日[『大北日報』8月18日に転載]  
ヴェインの悲劇は何を教へる[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月30日  
政変と政党『改造』16-9、8月1日[『政界人物評論』収録]  
岡田内閣論『中央公論』49-9、8月1日[「岡田内閣の成立」と改題『政界人物評論』収録]  
今の時代に通用しない[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』8月6日  
青年・世に処する道[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』8月13日[『政界人物評論』収録]  
代償は払はざる可らず[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』8月20日[「政党政治と官僚政治」と改題『政界人物評論』収録]  
同盟時代来らんか[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』8月27日  
岡田内閣の前途『改造』16-10、9月1日  
床次竹二郎論『中央公論』49-10、9月1日[「床次通相論」と改題『政界人物評論』収録]  
政府と政友会の関係[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』9月3日  
この無気味の沈黙[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』9月10日

岡田内閣に対する失望[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』9月17日

好んで苦難の道を[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』9月24日[『政界人物評論』収録]

Problems of the Okada cabinet 『Contemporary Japan』3-2、9月

議会解散論『中央公論』49-11、10月1日[「軍縮会議と議会解散」と改題『政界人物評論』収録]

藤井蔵相に物を訊く会『文芸春秋』12-10、10月1日[9月7日座談会(於蔵相官邸):有沢広巳、菊池寛]

臨時議会の任務[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』10月1日[「関西暴風雨」と改題『政界人物評論』収録、  
「空襲の予感」と改題『回顧と希望』収録]

人生訓らしきもの[「私の感銘した人生訓」]『労働』279、10月1日

政治における人の力[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』10月8日

岡田内閣の危機[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』10月15日

何処に民の声を聞く[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』10月22日[『大陸日報』11月14、15日に転載。『政界人物評論』収録]

東北凶作地の為に[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』10月29日

重臣会議論『エコノミスト』12-22、11月1日[『政界人物評論』収録]

政友会はどうなる『改造』16-12、11月1日[『政界人物評論』収録]

最後の将棋[「桜井轍三君追悼録」]『政界往来』5-11、11月1日

後藤内相論『中央公論』49-12、11月1日[『政界人物評論』収録]

『非常時財源』座談会『中央公論』49-12、11月1日[10月8日座談会(於帝国ホテル):阿部賢一、太田正孝、小汀利得、田昌、安部磯雄、松方幸次郎、森武夫、矢野恒太]

民政党考ふべき秋[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月5日

藤井蔵相への信頼[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月12日

『明治史研究』[「読書頁」]『東京朝日新聞』11月17日

何の花が咲かうぞ[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月19日[『国民政治読本』収録]

臨時議会を前にして[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』11月26日[「議会で課せられる任務」と改題『政界人物評論』収録]

軍人と政治『改造』16-13、12月1日[『政界人物評論』収録]

日露開戦の前夜『中央公論』49-13、12月1日[『政界人物評論』収録]

議会で課せられた問題[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』12月3日[「日本は何故強国になつたか」と改題『政界人物評論』収録]

変態政情の悲喜劇『週刊朝日』26-27、12月9日[「岡田内閣の蔵相」と改題『政界人物評論』収録]

臨時議会は何を教へる[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』12月10日[「臨時議会の爆弾動議」と改題『政界人物評論』収録]

日暮れて途遠し[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』12月17日[『国民政治読本』収録]

国策審議会と政民連携[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』12月24日[『政界人物評論』収録]

## 1935(昭和 10)年

- 一九三五年国際宣言『改造』17-1、1月1日[『政界人物評論』収録]
- 岡田首相論『中央公論』50-1、1月1日[『政界人物評論』収録]
- 自然のまゝに 政治上の自然主義『河北新報』1月4日[「政治上の自然主義」と改題『北海タイムス』(1月28、29日)に転載、「自然主義の政治」と改題『政界人物評論』収録]
- 斉藤前首相[「政界の星座を衝く」会見記]『読売新聞』1月5、6日[「斉藤会見記」と改題『政界人物評論』収録]
- 高橋蔵相[「政界の星座を衝く」会見記]『読売新聞』1月7日[「高橋会見記」と改題『政界人物評論』収録]
- 農の陸軍、工の海軍[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月7日 [『政界人物評論』収録]
- 議会解散の有無[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月14日[「議会解散に直面して」と改題『国民政治読本』収録]
- 人心倦んで乱を好む[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月21日 [『国民政治読本』収録]
- 重工業とファッション[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』1月28日 [『国民政治読本』収録]
- 政治上の自然主義『北海タイムス』1月28、29日[初出は『河北新報』1月4日]
- 議事を解散せよ『中央公論』50-2、2月1日
- 無産階級の政治運動『労働経済』6-2、2月1日
- 政党更生の途[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月4日 [『国民政治読本』収録]
- 三原山と政治家[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月11日 [『国民政治読本』収録]
- 自由競争と統制経済[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月18日 [『国民政治読本』収録]
- 軍需品工業国営論[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』2月25日 [『国民政治読本』収録]
- 挙国一致内閣の清算『改造』17-3、3月1日
- 「次の政局を支配するもの」を語る夕べ『経済往来』10-3、3月1日[1月28日座談会(於星ヶ岡茶寮): 床次竹二郎、長谷川如是閑、杉森孝次郎、室伏高信]
- 貿易の増加による自然の提携を重視[「日支経済提携に何を期待するか」]『経済情報』10-7、3月1日
- 町田忠治論『中央公論』50-3、3月1日 [『国民政治読本』収録]
- 挙国一致内閣の迷信[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月4日 [『国民政治読本』収録]
- 英国のファッション運動[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月11日 [『国民政治読本』収録]
- 政治に熱心なれ[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月18日 [『国民政治読本』収録]
- 服部芳郎のこと『慈大愛宕新聞』115、3月20日 [『回顧と希望』収録]
- 人情ゆたかな日本[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』3月25日 [『大陸日報』4月26、27日に転載。『国民政治読本』収録]
- Our Parliament and World Politics『Contemporary Japan』3-4、3月
- 政党復興の時機『改造』17-4、4月1日
- 現代政党論『中央公論』50-4、4月1日 [『国民政治読本』収録、『日米[The Japanese American News]』

4月24～30日に転載]

いろ／＼の総理大臣『文芸春秋』13-4、4月1日

時の変化を期待する[「日曜時評」]『読売新聞』4月1日[『国民政治読本』収録]

内閣の補強工事[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月8日

審議会と調査局[「日曜時評」]『読売新聞』4月15日

[「National Front to meet the Crisis」]『Nippon』3、4月20日

日本人の愛国心[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月22日[『国民政治読本』収録]

現代政党論『日米[The Japanese American News]』4月24～30日[初出は、『中央公論』50-4、4月1日]

輔弼の責任を奈何[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』4月29日

フアツショと政党[「日本フアツシズムの新展望」]『改造』17-5、5月1日

内田信也と島田俊雄『中央公論』50-5、5月1日[『国民政治読本』収録]

法相演説の反響[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月6日[『国民政治読本』収録]

内閣審議会の効用[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月13日

一ツの希望を有りたい[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月20日[『国民政治読本』収録]

国策を決める方法[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』5月27日[『国民政治読本』収録]

内閣審議会論『改造』17-6、6月1日

小栗総監論『中央公論』50-6、6月1日[『国民政治読本』収録]

封建主義の世界[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月3日[『国民政治読本』収録]

篤と郭公と仏法僧[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月10日[『国民政治読本』収録]

国策の決定よりも決定の方法が問題[「国策の再検討 九」]『読売新聞』6月13日

百の審議会に優る全国民の言論の力！[「国策の再検討 十」]『読売新聞』6月14日

ウエルズの世界観[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月17日[『国民政治読本』収録]

重臣ブロック排撃[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』6月24日[『国民政治読本』収録]

鈴木総裁論『中央公論』50-7、7月1日[「鈴木喜三郎論」と改題『国民政治読本』収録]

新党計画の経過と予想[「新党樹立運動の展望」]『中央公論』50-7、7月1日

選挙の金の問題[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月1日[『国民政治読本』収録]

政治の道徳性[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月7日[『国民政治読本』収録]

現世に天国を創る[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月14日[『国民政治読本』収録]

誤謬は自然に清算[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月21日[『国民政治読本』収録]

将棋隨筆『大阪朝日新聞』7月24、25日

フアツショの弱点[「日曜時評」]『読売新聞[夕刊]』7月28日[『国民政治読本』収録]

エーチ・デー・ウエルズ論『ダイヤモンド』23-22、8月1日[『国民政治読本』収録]

政界暗流の帰趨『中央公論』50-8、8月1日  
人民自身の政治[「日曜評論」]『読売新聞』8月4日[『国民政治読本』収録]  
政党内閣への復帰[「日曜評論」]『読売新聞』8月11日[『国民政治読本』収録]  
[「放送させたい実況」]『放送』5-8、8月15日  
軍統制の便法[「日曜評論」]『読売新聞』8月18日[『国民政治読本』収録]  
英伊若し戦はゞ[「日曜評論」]『読売新聞』8月25日[『国民政治読本』収録]  
軍部の政治的圧力『改造』17-9、9月1日[『平和と自由への驀進』収録]  
三党首会同論『中央公論』50-9、9月1日  
政治[評論]の転換期[「日曜評論」]『読売新聞』9月1日[『国民政治読本』収録]  
政局に陰翳現る[「日曜評論」]『読売新聞』9月8日[『国民政治読本』収録]  
新党運動の価値[「日曜評論」]『読売新聞』9月15日[『国民政治読本』収録]  
蘇峰自伝を読む[「ブック・レビュー」]『東京日日新聞[夕刊]』9月26日  
国に人格がある[「日曜評論」]『読売新聞』9月29日[『国民政治読本』収録]  
On the eve of the general election『Contemporary Japan』4-2、9月  
岡田内閣異変『改造』17-10、10月1日  
歴代の総理大臣『中央公論』50-10、10月1日[『国民政治読本』収録]  
言論自由の根拠[「今月の課題」]『日本評論』10-10、10月1日[『国民政治読本』収録]  
欧州戦争来るか[「日曜評論」]『読売新聞』10月6日[『国民政治読本』収録]  
勤皇倒幕の精神[「日曜評論」]『読売新聞』10月13日[『国民政治読本』収録]  
英伊休戦の協定[「日曜評論」]『読売新聞』10月20日[『国民政治読本』収録]  
英国の総選挙[「日曜評論」]『読売新聞』10月27日[『国民政治読本』収録]  
三宅雪嶺博士と「明治・大正・昭和」を語る『日本評論』10-11、11月1日[10月3日座談会(於三宅邸):  
三宅雪嶺、緒方竹虎、古島一雄、長谷川如是閑、杉森孝次郎、室伏高信]  
政治的暗殺行為[「日曜評論」]『読売新聞』11月3日[『国民政治読本』収録]  
誤れる経済学説[「日曜評論」]『読売新聞』11月10日[『国民政治読本』収録]  
比律賓の示唆[「日曜評論」]『読売新聞』11月17日[『国民政治読本』収録]  
「蘇峰自伝」を読む[「蘇峰自伝」の広告の中]『満州日日新聞』11月20日[『東京日日新聞[夕刊]』9月26  
日から転載]  
この沈滞を如何[「日曜評論」]『読売新聞』11月24日[『国民政治読本』収録]  
世界の黎明期[「日曜評論」]『読売新聞』12月1日[『国民政治読本』収録]  
自分の声を聞く[「日曜評論」]『読売新聞』12月8日[『国民政治読本』収録]  
選挙対策の眼目[「日曜評論」]『読売新聞』12月15日[『国民政治読本』収録]  
外務大臣の辞職[「日曜評論」]『読売新聞』12月22日[『国民政治読本』収録]

自由と統制[「一月の論壇」]『東京朝日新聞』12月28日[『新聞集成昭和編年史 昭和十年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1967年)収録]

政治評論を読む[「一月の論壇」]『東京朝日新聞』12月29日

地図を作るもの[「一月の論壇」]『東京朝日新聞』12月30日

真理と戦争 矢内原氏の興味ある一文[「一月の論壇」]『東京朝日新聞』12月31日[『新聞集成昭和編年史 昭和十年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1967年)収録]

政友会の行く途[「日曜評論」]『読売新聞』12月29日[『国民政治読本』収録]

## 1936(昭和11)年

新内閣待望『改造』18-1、1月1日[『国民政治読本』収録]

悲劇のマクドナルド『中央公論』51-1、1月1日[『国民政治読本』収録]

座談会 日本の現在と将来『日本評論』11-1、1月1日[1935年12月2日座談会(於星ヶ岡): 芦田均、近衛文麿、藤原銀次郎、長谷川如是閑、山川均、土方成美、杉森孝次郎、室伏高信]

若山牧水の歌『文芸懇話会』1-1、1月1日[『回顧と希望』収録]

政治家との交際『文芸春秋』14-1、1月1日[『国民政治読本』収録]

[「国防費激増と所謂肅正選挙と」]『木堂雑誌』13-1、1月1日

政局を語る『名古屋新聞』1月5~18日[座談会(於帝国ホテル): 俵孫一、島田俊雄、清瀬一郎、亀井貫一郎、柴田善三郎、長谷川如是閑、岩淵辰雄、小山松寿、小林橘川、大宮伍三郎]

正月の雑感[「日曜評論」]『読売新聞』1月5日[「ラヂオと映画」と改題『国民政治読本』収録]

人民は何を思ふ[「日曜評論」]『読売新聞』1月12日[『国民政治読本』収録]

仏退いて英出づ[「日曜評論」]『読売新聞』1月19日[『立上る政治家』収録]

国民の挙国一致[「日曜評論」]『読売新聞』1月26日

歴代の内大臣『中央公論』51-2、2月1日[『国民政治読本』収録]

百年後の世界[「日曜評論」]『読売新聞』2月2日[『立上る政治家』、山本有三編『日本少国民文庫 第十六巻 日本名作選』(新潮社、1936年7月15日)、『日本名作選』<日本少国民文庫10>(新潮社 1949年6月20日)収録]

二つの挙国一致[「日曜評論」]『読売新聞』2月9日

選挙秘訣の一つ[「日曜評論」]『読売新聞』2月16日

明日を約束する[「月曜評論」]『読売新聞』2月24日

官僚諸君に与ふ『改造』18-3、3月1日[『立上る政治家』収録]

河崎卓吉論『中央公論』51-3、3月1日

民衆の立場から[「日曜評論」]『読売新聞』3月8日[『立上る政治家』収録]

広田内閣に望む[「日曜評論」]『読売新聞』3月15日[「挙国一致とファツシヨ」と改題『立上る政治家』収録]

『欧州の危機』[「日曜評論」]『読売新聞』3月22日[『立上る政治家』収録]

- 帝都事変と民衆『大陸日報』3月26、27日
- 自由と社会不安[「日曜評論」]『読売新聞』3月29日[『立上る政治家』収録]
- The political outlook『Contemporary Japan』4-4、3月
- 広田内閣論『改造』18-4、4月1日[『立上る政治家』収録]
- 随感『キング』12-4、4月1日
- 広田首相論『中央公論』51-4、4月1日[『立上る政治家』収録]
- 文化と暴力『文芸懇話会』1-4、4月1日[2月25日座談会：長谷川如是閑、清沢淵、芦田均、杉森孝次郎、近松秋江]
- 広田内閣へ要望する座談会『文芸春秋』14-4、4月1日[3月9日座談会(於星ヶ丘茶寮)：芦田均、阿部真之助、上田貞次郎、大口喜六、河野密、高橋亀吉、中島弥団次、鳩山一郎、菊池寛]
- 一新とは何ぞや[「広田内閣の政綱を讀みて」]『民政』10-4、4月1日
- 一新とは何ぞや[「日曜評論」]『読売新聞』4月5日[「庶政一新とフアツショ」と改題『立上る政治家』収録]
- ラヂオの統制[「日曜評論」]『読売新聞』4月12日
- 弱々しげな群集[「日曜評論」]『読売新聞』4月19日[『立上る政治家』収録]
- 議会に何を望む[「日曜評論」]『読売新聞』4月26日
- 広田首相に会ふ『早稲田大学新聞』35、4月29日
- 政治季節の感触『時事新報』4月30日、5月1、2日[「世界政治に飛躍」と改題『立上る政治家』収録]
- 議会は為し得る[「日曜評論」]『読売新聞』5月3日
- 陰惨から明朗へ[「日曜評論」]『読売新聞』5月10日[『立上る政治家』収録]
- 戦争の生む悩み[「日曜評論」]『読売新聞』5月17日[『立上る政治家』収録]
- 将来の政治家[「日曜評論」]『読売新聞』5月31日[『立上る政治家』収録]
- 議会政治の展望『改造』18-6、6月1日[『立上る政治家』収録]
- 牧水の足跡『短歌研究』5-6、6月1日[『国と人物』収録]
- 軍部と議会[「革新議会の総批判」]『中央公論』51-6、6月1日[『立上る政治家』収録]
- 日本の文化はこうしたい『文芸懇話会』1-6、6月1日[2月25日座談会：林房雄、吉川英治、田沢義鋪、松本学、岸田国土、菊池寛]
- 権力に酔ふもの『文芸春秋』14-6、6月1日[「独裁政治家の一群」と改題『立上る政治家』収録]
- 真実を語るもの[「日曜評論」]『読売新聞』6月7日[『立上る政治家』収録]
- 軍需工業の国営[「日曜評論」]『読売新聞』6月14日[『立上る政治家』収録]
- 隠忍自重の英国[「日曜評論」]『読売新聞』6月21日[『立上る政治家』収録]
- 国防と外交の分裂[「日曜評論」]『読売新聞』6月28日[『立上る政治家』収録]
- 戦争と政治の相剋『改造』18-7、7月1日
- 庶政一新の傾向[「日曜評論」]『読売新聞』7月5日

政党に人なきや[「日曜評論」]『読売新聞』7月12日[『立上る政治家』収録]  
著者の言葉『読売新聞』7月14日  
戦争を避ける道[「日曜評論」]『読売新聞』7月19日  
風声鶴唳なりや[「日曜評論」]『読売新聞』7月26日[『立上る政治家』収録]  
英国保守党の研究『改造』18-8、8月1日[『立上る政治家』収録]  
座談会 二・二六事件後の日本『改造』18-8[別冊付録「二・二六事件」]、8月1日[座談会：麻生久、大森  
義太郎、斎藤隆夫、杉山平助、鈴木茂三郎、橘樸、町田梓楼、和田日出吉、山本実彦]  
政治の明朗性[「反乱から処刑まで」]『文芸春秋』14-8、8月1日  
極端から極端へ[「日曜評論」]『読売新聞』8月2日[『新嘉坡日報』8月24日に転載。「スペインの内乱」  
と改題『立上る政治家』収録]  
夢遊病者の如く[「日曜評論」]『読売新聞』8月9日[『立上る政治家』収録]  
智慧がなさ過ぎる[「日曜評論」]『読売新聞』8月16日[『立上る政治家』収録]  
日本の人民戦線[「日曜評論」]『読売新聞』8月23日[『新嘉坡日報』9月14日、『大陸日報』11月12、13  
日に転載。『立上る政治家』収録]  
内閣存続の問題『改造』18-9、9月1日[『立上る政治家』収録]  
宇垣一成論『中央公論』51-9、9月1日[『立上る政治家』収録]  
英に国策ありや 英人ニコルソンの名論『新嘉坡日報』9月2日  
戦争の発展解消[「日曜評論」]『読売新聞』9月6日[『立上る政治家』収録]  
馬上天下を取る[「日曜評論」]『読売新聞』9月13日[『立上る政治家』収録]  
戦を忘れた政党[「日曜評論」]『読売新聞』9月20日[『立上る政治家』収録]  
近代戦術の問題[「日曜評論」]『読売新聞』9月27日[『立上る政治家』収録]  
Hirota's "Renovation" plans『Contemporary Japan』5-2、9月  
軍部と国策[「国策と輿論」]『改造』18-10、10月1日[『立上る政治家』収録]  
静なる林の如し[「日曜評論」]『読売新聞』10月4日  
平和を戦ひ取る[「日曜評論」]『読売新聞』10月11日[『立上る政治家』収録]  
嗚呼この大臣病[「日曜評論」]『読売新聞』10月25日[『立上る政治家』収録]  
日支親善論『改造』18-11、11月1日[『立上る政治家』収録]  
馬場蔵相論『中央公論』51-11、11月1日[「馬場鏌一論」と改題『立上る政治家』収録]  
[「日支妥協の方途ありや その精神的實際的方法如何 諸家ハガキ回答」]『中央公論』51-11、11月1日  
官僚の跳梁と腐敗を語る座談会『日本評論』11-11、11月1日[座談会：阿部真之助、安藤正純、蟻山政  
道、片山哲、清沢洌、和田日出吉]  
批評を恐れる心[「日曜評論」]『読売新聞』11月1日[『立上る政治家』収録]  
調子に乗る勿れ[「日曜評論」]『読売新聞』11月8日[『立上る政治家』収録]  
官民一致するか[「日曜評論」]『読売新聞』11月15日[『立上る政治家』収録]

独裁政治の運命[「日曜評論」]『読売新聞』11月22日[『新聞集成昭和編年史 昭和十一年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1968年)収録、「ロシヤの独裁政治」と改題『立上る政治家』収録]

山本有三氏の“真実一路”[「書架の前」]『読売新聞』11月25日

日独協定の疑問[「日曜評論」]『読売新聞』11月29日[『新聞集成昭和編年史 昭和十一年度版』(明治大正昭和新聞研究会、1968年)収録、「日独協定論」と改題『立上る政治家』収録]

後継首相論『中央公論』51-12、12月1日[『立上る政治家』収録]

軍部政党の対立は続く[「議会政治はどうなる？」]『明日』7-12、12月1日

デモクラシー論[「日曜評論」]『読売新聞』12月6日[『立上る政治家』収録]

“次に来るもの”－小林一三氏の新著－[「新著評論」]『読売新聞』12月16日

ドイツとロシヤ[「日曜評論」]『読売新聞』12月20日[『立上る政治家』収録]

議会は何を戦ふか『アサヒグラフ』27-26、12月23日

一世一代の勇氣[「日曜評論」]『読売新聞』12月27日[『立上る政治家』収録]

## 1937(昭和12)年

軍部は国民を指導し得るか『改造』19-1、1月1日[『立上る政治家』収録]

座談会 時局と人物を語る『改造』19-1、1月1日[座談会：阿部真之助、鈴木茂三郎、大宅壮一、杉山平助、山浦貫一]

日本の非常時を裏から見た座談会『大陸日報』1月1、4～9日[11月14日座談会(於東京銀座延寿春)：清沢淵、嶋中雄作、阿部真之助、四方田義茂、水野広徳、山崎寧、山本熊太郎]

官僚政治論『中央公論』52-1、1月1日[『立上る政治家』収録]

[「1.私の憂ひ 2.私の喜び(又は希望)」]『婦人之友』31-1、1月1日

日独協定の反響座談会『文芸春秋』15-1、1月1日[1936年12月5日座談会(於紅葉館)：鹿島守之助、神川彦松、河野密、米田実、美濃部亮吉、山榭儀重]

次の内閣を担ふ者『読売新聞』1月1、3～6日[『立上る政治家』収録]

排外心を捨てる[「東京オリンピックを待望して」]『サンデー毎日』16-2、1月3日

正月の雑感『大陸日報』1月9、11日

政治をどう見る[「日曜評論」]『読売新聞』1月10日

文士評論家の一群『週刊朝日』31-3、1月10日[「草津と軽井沢」と改題『回顧と希望』収録]

開け放しの構へ[「日曜評論」]『読売新聞』1月17日

ファッションへの道[「日曜評論」]『読売新聞』1月24日

武藤貞一『戦争』[「カレントボックス」]『帝国大学新聞』657、1月25日

林内閣の出現[「日曜評論」]『読売新聞』1月31日

内閣有終の美[「広田内閣の審判」]『改造』19-2、2月1日

汎べてを公開せよ[「第七十議会で与ふ」]『中央公論』52-2、2月1日

有田外相論『中央公論』52-2、2月1日[「有田八郎 広田内閣の外相」と改題『国と人物』収録]  
内閣と政党の関係[「日曜評論」]『読売新聞』2月7日  
如何に日本の立場を觀たか 室伏高信 “戦争と平和” [「非常時を反映する著作物」]『読売新聞』2月11日  
ナチスは語る[「日曜評論」]『読売新聞』2月14日  
戦ふか戦はざるか[「日曜評論」]『読売新聞』2月21日  
戦争ありや否や[「日曜評論」]『読売新聞』2月28日  
軍民一致論[「革新軍部論」]『改造』19-3、3月1日[『時代と人物』収録]  
政局はどうなる『中央公論』52-3、3月1日  
外国に於ける新刊批評『日本読書新聞』1、3月1日  
林内閣論[「林内閣批判」]『日本評論』12-3、3月1日[「林銑十郎 内閣の組織」と改題『国と人物』収録]  
女の人よ、美しくあれ『婦人之友』31-3、3月1日  
限りなき愚かさ[「日曜評論」]『読売新聞』3月7日  
外務大臣の登場[「日曜評論」]『読売新聞』3月14日  
ムソリーニの悩み[「日曜評論」]『読売新聞』3月21日  
チャーチルの忠告[「日曜評論」]『読売新聞』3月28日[『時代と人物』収録]  
The anti-Comintern pact in domestic politics『Contemporary Japan』5-4、3月  
時勢は変化した『改造』19-4、4月1日  
\*チャーチルの忠告『新東洋』6-4、4月1日  
苦悶の政党『中央公論』52-4、4月1日[『近衛内閣史論』収録]  
輿論に聴く[「われ若し外務大臣なりせば!」]『日本学芸新聞』26、4月1日  
猫か、ライオンか[「日曜評論」]『読売新聞』4月11日  
今でも早過ぎない[「日曜評論」]『読売新聞』4月18日  
元老重臣の反省[「日曜評論」]『読売新聞』4月25日  
総選挙の政治的意義『改造』19-5、5月1日  
林首相論『中央公論』52-5、5月1日[「林銑十郎 議会の解散」と改題『国と人物』収録]  
政党の生くる道『文芸春秋』15-5、5月1日  
総選挙に何を望む一超然内閣の愚劣さ『三田新聞』370、5月5日  
政党内閣を要求す[「日曜評論」]『読売新聞』5月9日  
私の読書法『日本読書新聞』8、5月11日  
夢遊病者的な林内閣『大陸日報』5月12日  
政民両党の申合せ[「日曜評論」]『読売新聞』5月16日  
首相の心境批判[「日曜評論」]『読売新聞』5月23日

- 渡辺幾治郎著明治天皇と明治の建設[「筆者選定新著批判」]『読売新聞』5月27日
- 鎌田澤一郎氏著『宇垣一成』[「読書頁」]『東京朝日新聞』5月28日
- 英国内閣の更迭[「日曜評論」]『読売新聞』5月30日
- 後継内閣論『改造』19-6、6月1日
- 超然内閣功罪論『自由』1-6、6月1日
- 『次期政権』座談会『中央公論』52-6、6月1日[5月8日座談会(於偕樂園):阿部真之助、石浜知行、岩淵辰雄、大森義太郎、清沢洌、三輪寿壯、蠟山政道]
- 憂鬱『日本読書新聞』10、6月1日
- 或る日の談話会『日本評論』12-6、6月1日[5月30日座談会(於星が岡茶寮):深井英五、有沢広巳、高垣寅次郎、長谷川如是閑]
- 政治評論家の憂鬱『文芸春秋』15-6、6月1日[『平和と自由への驀進』収録]
- 近衛首相への期待[「日曜評論」]『読売新聞』6月6日[『南洋日日新聞』6月25日に転載]
- 林内閣瓦解前の政局探究座談『大陸日報』6月9、10日[鼎談:古島一雄、山本礁波]
- 近衛内閣の成立を語る 成立の経過・意義及び其の前途『東洋経済新報』1764、6月12日[6月4日座談会(於東洋経済新報社楼上):長谷川如是閑、亀井貫一郎、清沢洌、蠟山政道、西野喜与作、安田与四郎、小島精一、山田秀雄]
- 青年宰相近衛文麿論[「政変と近衛内閣の誕生」]『アサヒグラフ』28-25、6月16日[「近衛文麿公 初めて内閣を組織す」と改題『国と人物』収録]
- 政治の技巧の問題[「日曜評論」]『読売新聞』6月13日[『南洋日日新聞』7月5日に転載]
- 国内相剋の解消[「日曜評論」]『読売新聞』6月20日
- 世界新時代の烽火[「日曜評論」]『読売新聞』6月27日[『南洋日日新聞』7月15日に転載]
- 近衛内閣論『改造』19-7、7月1日[『近衛内閣史論』収録]
- 座談会 国民生活はどこへ行く『改造』19-7、7月1日[6月1日座談会(於東京会館):小川郷太郎、大口喜六、黒田寿男、河野密、那須皓、土方成美、山川均、山本実彦]
- 近衛首相論『中央公論』52-7、7月1日
- 政治と文化『日本読書新聞』13、7月1日
- 独裁政治の代償[「日曜評論」]『読売新聞』7月4日
- 独裁国と言論統制[「日曜評論」]『読売新聞』7月11日
- 生兵法大疵の因[「日曜評論」]『読売新聞』7月18日
- 戦ひと政党[「日曜評論」]『読売新聞』7月25日
- 新重臣論『経済マガジン』1-3、8月1日[『時代と人物』収録]
- Human Comedy—「喜劇の人類」を読む—『中央公論』52-8、8月1日
- 大統領と新聞記者[「日曜評論」]『読売新聞』8月1日
- 運命の教育[「日曜評論」]『読売新聞』8月8日

営業は平常通り[「日曜評論」]『読売新聞』8月22日

永い眼で見よ[「日曜評論」]『読売新聞』8月29日[「支那の共産的勢力を如何取扱ふか」と題して『大北日報』10月30日、11月1日に転載]

事変下の近衛政局『中央公論』52-9、9月1日

蒋介石下野せば[「日曜評論」]『読売新聞』9月5日

強い国民性！『大陸日報』9月11、13日

支那事変の結末[「日曜評論」]『読売新聞』9月12日[『大陸日報』10月2、4日、「支那事変の結果」と題して『南洋日日新聞』10月6日に転載]

外交戦のために[「日曜評論」]『読売新聞』9月19日[「拙い外交戦」と題して『大陸日報』10月15日に転載]

戦争が変質する[「日曜評論」]『読売新聞』9月26日[『新嘉坡日報』10月15日、『大北日報』10月16、18日に転載]

Konoye and recent political changes『Contemporary Japan』6-2、9月

事変下の議会『改造』19-10、10月1日

歴史は繰り返す『経済マガジン』1-5、10月1日

戦争と議会『中央公論』52-10、10月1日

[「事変下の学生に与ふ」]『三田新聞』380、10月5日

支那関係の書物[「日曜評論」]『読売新聞』10月17日

余りに良心的な[「日曜評論」]『読売新聞』10月24日[『大北日報』11月22～24日に転載]

天高く、気清し[「日曜評論」]『読売新聞』10月31日

償金をどうする[「日曜評論」]『読売新聞』11月7日[『南洋日日新聞』11月26日、『新嘉坡日報』11月26、27日、「償金問題はどうか」と題して『大北日報』12月10、11日に転載]

支那と列国に告ぐ[「日曜評論」]『読売新聞』11月14日[『南洋日日新聞』12月1日、『大北日報』12月3、4日に転載]

参議論『改造』19-13、11月18日[『時代と人物』収録]

座談会 事変の前途を語る『改造』19-13、11月18日[10月25日座談会(於東京会館)：吉沢謙吉、松本忠雄、大西齋、石浜知行、長谷川如是閑、加藤敬三郎、木村増太郎、山本実彦]

大本営と総理[「日曜評論」]『読売新聞』11月21日

自由主義の自殺[「日曜評論」]『読売新聞』11月28日[『大北日報』12月24日に転載]

問題の人物 近衛文麿[口絵]『婦人之友』31-12、12月1日

「大地」読後感『文芸春秋』15-16、12月1日[「パール・バツク」と改題『国と人物』収録]

戦争をやめる方法[「日曜評論」]『読売新聞』12月5日[「戦争根絶の方法」と題して『大北日報』1938年1月11、12日に転載]

[「宣伝省の設置は必要か」]『三田広告研究』23、12月8日

哲学を要求する[「日曜評論」]『読売新聞』12月12日

無理のない政治[「日曜評論」]『読売新聞』12月19日

支那を治める道[「日曜評論」]『読売新聞』12月26日

## 1938(昭和13)年

日本が進む途『改造』20-1、1月1日

[「将来の語学教育について」]『ザ・カレント・オヴ・ザ・ワールド』15-1、1月1日

末次内相論『改造』20-1、1月1日

日本はどうか 各方面の識者に訊く『大陸日報』1月1日[記者が収集した座談を座談会風に編集。  
発言者：古島一雄、田沢義鋪、明石徳一郎、前田連山、胎中楠右衛門、伊藤痴遊、大西斎、山本熊太郎]

戦時首相論『中央公論』53-1、1月1日[『時代と人物』収録]

第一歩をどこから始めるか『婦人之友』32-1、1月1日[12月1日座談会(於南沢)：入沢達吉、渡辺千冬、  
小林一三、小西重直、三木清、杉森孝次郎、羽仁吉一、羽仁もと子]

先づ第一歩—社会時評—『文芸春秋』16-1、1月1日

平和の挙国一致[「日曜評論」]『読売新聞』1月9日

時代に与ふる言葉 一つの道『読売新聞[夕刊]』1月12日

処女地に新天地[「日曜評論」]『読売新聞』1月16日

狐と獵夫[「日曜評論」]『読売新聞』1月23日[『大陸日報』2月12日、『南洋日日新聞』2月16日に転載]

出直した挙国一致[「日曜評論」]『読売新聞』1月30日

議会と戦局收拾『改造』20-2、2月1日

木戸幸一論『中央公論』53-2、2月1日[「木戸幸一」と改題、『国と人物』収録]

山手電車式の議会[「日曜評論」]『読売新聞』2月6日

憲法を護る決心[「日曜評論」]『読売新聞』2月13日

[「注文をつける(葉書回答) 一、対支工作に是非乗り出して貰いたい人 二、その人への注文」]『文芸春秋』  
16-3[事変・第六増刊]、2月18日

政党の塩分摂取[「日曜評論」]『読売新聞』2月20日

支那の焦土戦術[「日曜評論」]『読売新聞』2月27日

憲法擁護論『改造』20-3、3月1日[『時代と人物』、作品社編集部編『読本 憲法の100年 2 憲法の受難』(作品社、1989年)収録]

政治家と和歌[「新万葉集巻一を読む」]『短歌研究』7-3、3月1日

言論統制と新聞の将来『日本評論』13-4、3月1日

一人の政治家なきか[「日曜評論」]『読売新聞』3月6日

私の英文修業『学燈』42-3、3月20日[「英文修業」と改題『回顧と希望』収録]

圧え切れない喜び[「日曜評論」]『読売新聞』3月20日

Hostilities and parliament『Contemporary Japan』6-4、3月

私の英学生時代[「英語戦線青春記」]『英語研究』31-1、4月1日

解散か総辞職か『改造』20-4、4月1日

旅行趣味の一断面『旅』15-4、4月1日

政府と政党『中央公論』53-4、4月1日[『中央公論』75-12(1960年12月1日)再録]

\*旅行文化哲学『明朗』3-4、4月1日

新政党か真政党か[「日曜評論」]『読売新聞』4月3日

過あるを咎めず[「日曜評論」]『読売新聞』4月10日

天下の衆知に聞け[「日曜評論」]『読売新聞』4月17日

行く処は何処ぞ[「日曜評論」]『読売新聞』4月24日

革新政策論『改造』20-5、5月1日[『近衛内閣史論』収録]

長期戦争の意味[「日曜評論」]『読売新聞』5月1日[「長期戦の意味」と題して『大陸日報』5月27日に転載]

政局一抹の不安[「日曜評論」]『読売新聞』5月8日

政党は蘇り得る[「日曜評論」]『読売新聞』5月15日

青葉の圧迫[「文芸 歌と句のある随筆」]『読売新聞[夕刊]』5月20日[「奥日光」と改題『回顧と希望』収録]

支那事変の展望[「日曜評論」]『読売新聞』5月22日[『大陸日報』6月8、9日に転載]

改造内閣の趣旨[「日曜評論」]『読売新聞』5月29日[『南洋日日新聞』6月17日に転載]

時局認識論『改造』20-6、6月1日

時局の心臓を衝く座談会『今日の問題』30、6月1日[座談会：岩淵達夫、木原通雄、後藤勇雄、小林義郎、長島又男、花見達二]

政局不安の解剖『中央公論』53-6、6月1日

自由主義清算乎[「日曜評論」]『読売新聞』6月5日

[「一、人生を明るくする言葉 一、興味ある人物二、三と其の意味 一、感心した著述、風景、絵画等」]『近きより』2-4、6月5日

言論自由の確保[「国内改革は何から手をつけるべきか」]『文芸春秋』16-10[現地報告 時局増刊9]、6月10日

戦時内閣の出現[「日曜評論」]『読売新聞』6月12日

事実全部の真相[「日曜評論」]『読売新聞』6月19日

夏の海岸『アサヒカメラ』臨時増刊夏の特別号、6月25日

民族と民族の関係[「日曜評論」]『読売新聞』6月26日

My friends and myself『Contemporary Japan』7-1、6月

- 戦争一年の回顧『改造』20-7、7月1日
- 宇垣外相に与ふる書『中央公論』53-7、7月1日[「宇垣一成 外相に与ふる書」と改題『国と人物』収録]
- 近衛公の改造内閣『婦人公論』23-7、7月1日[「近衛文磨公 かれの改造内閣」と改題『国と人物』収録]
- 円タクとの対談[「随筆」]『モダン日本』9-8、7月1日
- 新聞記者の人生観[「日曜評論」]『読売新聞』7月3日[『平和と自由への驀進』収録42～46頁]
- 国宝的価値ある全集[『新編啄木全集』 広告中の推薦文]『満州日日新聞』7月8日
- 治水と防水[「日曜評論」]『読売新聞』7月10日
- 街頭雑感[「日曜評論」]『読売新聞』7月17日
- 平和条約なき平和[「日曜評論」]『読売新聞』7月24日
- 小林一三著「戦後はどうなるか」[「近頃感銘の書」]『読売新聞[夕刊]』7月27日
- 近頃の近衛首相[「日曜評論」]『読売新聞』7月31日
- 戦局と政局『改造』20-8、8月1日[『平和と自由への驀進』収録]
- 五相会議論『中央公論』53-8、8月1日[「支那事变勃発の事情」と改題『時代と人物』収録]
- 蓼科・草津・新鹿沢『婦人公論』23-8、8月1日[『国と人物』、『草炎 随想集』(東京農業大学斯友会新聞部編・刊、1939年)収録]
- 西伯利出兵の頃—新聞記者時代の想ひ出—『文芸春秋』16-13、8月1日[『時代と人物』収録]
- 日本の停戦提議[「日曜評論」]『読売新聞』8月7日
- 言論機関用ふべし[「日曜評論」]『読売新聞』8月14日[『平和と自由への驀進』収録46～50頁]
- 政党働くべき秋[「日曜評論」]『読売新聞』8月21日
- ラヂオ禍『サンデー毎日』17-41、8月28日
- 喬木風多し[「日曜評論」]『読売新聞』8月28日
- スタアリンへの公開状[「ソ連の審判」]『改造』20-9、9月1日[「スターリンに与ふ」と改題『時代と人物』収録]
- [「わたくしの警察観 葉書回答」]『警察新報』23-9、9月1日
- 宇垣外交の真髓『中央公論』53-9、9月1日[『国と人物』収録]
- 戦時の言論機関[「精神総動員の再出発」]『日本評論』13-10、9月1日
- 欧州に戦争あらば[「日曜評論」]『読売新聞』9月4日[「欧州に戦争勃発せば」と改題『大北日報』9月26、27日に転載]
- 行方不明の国論[「日曜評論」]『読売新聞』9月11日
- 東洋の安定勢力[「日曜評論」]『読売新聞』9月18日
- 強国として残る芸[「日曜評論」]『読売新聞』9月25日
- General Ugaki as foreign minister『Contemporary Japan』7-2、9月
- 国策の一線『改造』20-10、10月1日

根柢の教養不足[「旅行公德」]『旅』15-10、10月1日

事変処理の重点『中央公論』53-10、10月1日[『武漢陥落と長期建設に関する論調』<衆議院公報付録調査資料第24輯>(衆議院調査部編・刊、1938年11月)収録]

時局感想[「時の問題・人」]『婦人之友』32-11、10月1日

日記から[「葉書随筆」]『文芸』6-10、10月1日

平和の理想と現実[「日曜評論」]『読売新聞』10月2日

責任政治の必要[「日曜評論」]『読売新聞』10月9日

[「心搏たれた新聞記事(葉書回答)」]『文芸春秋』17-18[現地報告 時局増刊13]、10月10日

南京攻略の意義[「日曜評論」]『読売新聞』10月16日

文化の進歩と退化[「日曜評論」]『読売新聞』10月23日

漢口攻略後の世界[「日曜評論」]『読売新聞』10月30日

巴里講和会議のころ『改造』20-11、11月1日[『時代と人物』収録]

近衛内閣の将来『中央公論』53-11、11月1日

[「長期戦下の文化国策に直言する!」]『日本学芸新聞』60、11月1日

総理大臣の新党[「日曜評論」]『読売新聞』11月6日

政治運行の筋道[「日曜評論」]『読売新聞』11月13日

蔣に降伏を勧める[「日曜評論」]『読売新聞』11月20日

\*欧州の武装と極東『画報躍進之日本』3-11、11月

新秩序の政治形態『改造』20-12、12月1日

近衛公と新党『中央公論』53-12、12月1日

国民再組織と議会[「日曜評論」]『読売新聞』12月4日[『民政』13-1、1939年1月1日に転載]

真実の声を聞く[「日曜評論」]『読売新聞』12月11日

政党何をなすべき[「日曜評論」]『読売新聞』12月18日

その意気その意気[「日曜評論」]『読売新聞』12月25日

## 1939(昭和14)年

座談会 時局收拾と国民再編成『改造』21-1、1月1日[12月29日座談会(於東京会館):有馬頼寧、尾崎秀実、高橋亀吉、津久井龍雄、長谷川如是閑、宮沢俊義、山本実彦]

国民再組織と議会『民政』13-1、1月1日[『読売新聞』1938年12月4日から転載]

事変第三年[「日曜評論」]『読売新聞』1月1日

近衛から平沼へ[「日曜評論」]『読売新聞』1月8日

民心不安の一掃[「日曜評論」]『読売新聞』1月15日

議会に対する期待[「日曜評論」]『読売新聞』1月22日

- 議会未だ老いず[「日曜評論」]『読売新聞』1月29日[『日伯新聞』3月18日に転載]
- 平沼騏一郎論『改造』21-2、2月1日[『国と人物』収録]
- 「青年を叱る 青年を褒る」『科学ペン』4-2、2月1日
- 世相雑感『真理』5-2、2月1日
- 政変と事変『中央公論』54-2、2月1日
- 近衛から平沼へ[「随筆」]『東方公論』14-2、2月1日
- 政変論『日本評論』14-2、2月1日[「第一次近衛内閣の退却」と改題『近衛内閣史論』収録]
- 平沼内閣生る『婦人公論』24-2、2月1日
- 政党の更生策を練る『東洋経済新報』1852、2月4日[11月25日座談会(於東洋経済新報社楼上):川崎克、桜井兵五郎、作田高太郎、浜田国松、牧野良三、河野密、田川大吉郎、山崎達之助、長谷川如是閑、石橋湛山]
- 外交官の問題[「日曜評論」]『読売新聞』2月5日
- 洗練された飾り気ない描写 アメリカ印象記(英文)市河晴子女史著[「東日読書推薦倶楽部」]『東京日日新聞』2月7日
- 「平沼内閣を私は斯う観る」『文芸春秋』17-4[現地報告 時局増刊 17]、2月10日
- 全体主義の政党[「日曜評論」]『読売新聞』2月12日
- 精神総動員法[「日曜評論」]『読売新聞』2月19日
- 虎と猫との比喩[「日曜評論」]『読売新聞』2月26日[『大陸日報』3月18日に転載]
- 馬場恒吾氏と English[インタビュー]『英語研究』31-12、3月1日
- 三国通牒と帝国の外交『改造』21-3、3月1日
- 瀬戸内海の春[口絵]『婦人之友』33-3、3月1日
- 議会の復興機運『文芸春秋』17-5、3月1日
- 事変外交の焦点[「日曜評論」]『読売新聞』3月5日
- 外交包囲陣『外交』393、3月9日[竹内夏積編『民族外交の顔』(岡倉書房、1940年)収録]
- 為す可らざる事[「日曜評論」]『読売新聞』3月12日
- 時勢は変つてゐる[「日曜評論」]『読売新聞』3月19日
- 天の深さ、心の深さ[「日曜評論」]『読売新聞』3月26日
- 低迷の政局を衝く[「現下の政局批判」]『改造』21-4、4月1日
- 日本の政治と外交『経済情報 政経篇』14-9、4月1日
- 政情転換の機会『大陸』2-4、4月1日
- 米内海相論『中央公論』54-4、4月1日[「米内光政 平沼内閣の海相」と改題『国と人物』収録]
- [無題]『ときこゑ』1032、4月1日
- 東洋モンロー主義[「日曜評論」]『読売新聞』4月2日

良心的な仕事[「日曜評論」]『読売新聞』4月9日[『南洋日日新聞』5月3日に転載]  
初代政党の意気[「日曜評論」]『読売新聞』4月16日  
欧州戦争の危機[「日曜評論」]『読売新聞』4月23日  
支那遂に亡びん乎[「日曜評論」]『読売新聞』4月30日  
平沼内閣の前途『改造』21-5、5月1日  
\*人間の機械化『台湾婦人界』5月1日[国立中央図書館台湾分館所蔵]  
知識を天下に求めよ[「日曜評論」]『読売新聞』5月7日  
政治の老衰[「日曜評論」]『読売新聞』5月14日  
戦争の仁義[「日曜評論」]『読売新聞』5月21日  
大いに強くなろうと将棋 勝負の興味とスリル『読売新聞[夕刊]』5月24日  
輿論を知る方法[「日曜評論」]『読売新聞』5月28日  
欧州大戦の前夜『改造』21-6、6月1日[「第一次欧州大戦の前夜」と改題『時代と人物』収録]  
権力と科学『科学主義工業』3-6、6月1日  
キップリング詩と小説『文芸』7-6、6月1日[『国と人物』収録]  
空中戦の示唆[「日曜評論」]『読売新聞』6月4日  
日本の新生活運動[「日曜評論」]『読売新聞』6月11日  
政治家の心構へ[「日曜評論」]『読売新聞』6月18日[『南洋日日新聞』7月14日に転載]  
日本の進歩[「日曜評論」]『読売新聞』6月25日  
事変外交と平沼内閣『改造』21-7、7月1日  
元老時代の回顧[「日曜評論」]『読売新聞』7月2日  
厳粛な思索と反省[「日曜評論」]『読売新聞』7月9日  
外交の常套手段[「日曜評論」]『読売新聞』7月16日  
シヨウのからかひ[「日曜評論」]『読売新聞』7月23日  
得意のときの日本[「日曜評論」]『読売新聞』7月30日[『南洋日日新聞』8月23日に転載]  
静寂を求めて[「夏日隨想」]『旅』16-8、8月1日  
世界の荒波に乗る[「日曜評論」]『読売新聞』8月6日[『南洋日日新聞』8月30日に転載]  
欧州の戦国時代[「日曜評論」]『読売新聞』8月13日  
素人と玄人[「日日一題」]『福岡日日新聞[夕刊]』8月17日  
素人と玄人[「窓外」]『新愛知[夕刊]』8月18日  
大衆の要望する實際家の意見 小林一三氏の『事変はどう片づくか』[「学芸特輯 時代への問題書」]『読売新聞[夕刊]』8月18日  
忘れられた政治[「日曜評論」]『読売新聞』8月20日  
此の決心を活かせ[「日曜評論」]『読売新聞』8月27日[『平和と自由への驀進』収録]

温泉宿の気分『温泉』10-9、9月1日

有田外交論[「世界新情勢と日本外交」]『改造』21-9、9月1日[「有田八郎 平沼内閣の外相」と改題『国と人物』収録]

欧州の悲劇『大陸』2-9、9月1日

文芸談論『文芸』7-9、9月1日[正宗白鳥との対談][『正宗白鳥全集 第13巻』(新潮社、1976年8月30日)、『正宗白鳥全集 第18巻 戯曲 2 対談』(福武書店、1985年11月30日)収録]

対外判断に落第した平沼内閣[「今次政変の意義と前途 平沼の退場と阿部の登場」]『東洋経済新報』1848、9月2日

来るべきもの来る[「日曜評論」]『読売新聞』9月3日[『平和と自由への驀進』収録]

自由な批判を[「日曜特輯 阿部内閣は何を為す可きか」]『都新聞[夕刊]』9月4日

改むるに憚る勿れ[「日曜評論」]『読売新聞』9月10日[『南洋日日新聞』10月10日に転載。『平和と自由への驀進』収録]

支那事変の解決[「日曜評論」]『読売新聞』9月17日[『南洋日日新聞』10月12日に転載]

停戦協定を支那へ[「日曜評論」]『読売新聞』9月24日

対談 欧州大戦と支那事変『改造』21-11<臨時増刊>、9月28日[吉沢謙吉との対談]

ヒトラーとチエンパレン『改造』21-10、10月1日[『時代と人物』収録]

澄心の記[「文人随筆」]『政界往来』10-10、10月1日

阿部内閣の性格『中央公論』54-10、10月1日[「阿部信行」と改題、『国と人物』収録]

動乱欧州の前途(座談会)『中央公論』54-10、10月1日[9月7日座談会(於偕楽園): 芦田均、堀真琴、城戸又一、丸山政男、益田豊彦、尾崎秀実、齊藤忠、鈴木東民]

国を思ふ心[「時の問題・人」]『婦人之友』33-10、10月1日

奥の細道[「随筆」]『モダン日本』10-10、10月1日

弱小国の存立難[「日曜評論」]『読売新聞』10月1日[『南洋日日新聞』10月28日に転載]

新らしき酒古き革囊[「日曜評論」]『読売新聞』10月8日

政党政治を追懐する[「日曜評論」]『読売新聞』10月15日

体当りの戦争[「日曜評論」]『読売新聞』10月22日

事変解決の方針[「日曜評論」]『読売新聞』10月29日

The new cabinet's foreign policy『Contemporary Japan』8-8、10月

戦争と外交『改造』21-12、11月1日[「外交官」と改題、『時代と人物』収録]

世界の最新情勢を語る—内外時局座談会—『経済マガジン』3-11、11月1日[10月11日座談会(於交詢社): 高木陸郎、鹿島守之助]

支那事変解決の道あり『中央公論』54-11、11月1日

政治はこれでよいのか[「日曜評論」]『読売新聞』11月5日

政党排撃を許さない[「日曜評論」]『読売新聞』11月12日

最悪の場合を考へる[「日曜評論」]『読売新聞』11月19日  
政党と事変処理[「日曜評論」]『読売新聞』11月26日  
事変処理の全貌『改造』21-13、12月1日  
事変処理の鍵『大陸』2-12、12月1日  
吏道刷新論『日本評論』14-12、12月1日[「官僚論」と改題『時代と人物』収録]  
事変解決に十年[「日曜評論」]『読売新聞』12月3日[『内観』238、1940年1月1日に転載]  
ロイドジョージの大戦講和会議の回顧録[「洋書評論」]『改造』21-14、12月7日[「ロイド・ジョージ」と改題、『時代と人物』収録]  
議会政治を活用せよ[「日曜評論」]『読売新聞』12月17日  
現代日本のジャーナリズム『早稲田大学新聞』159、12月20日[「政党と新聞」と改題『回顧と希望』収録]  
人心の離反を避ける[「日曜評論」]『読売新聞』12月24日  
阿部内閣の進退[「日曜評論」]『読売新聞』12月31日

## 1940(昭和15)年

国民内閣の提唱『改造』22-1、1月1日  
[「興亜の大業と語学者の使命」]『カレント・オブ・ザ・ワールド』17-1、1月1日  
興隆途上の日本[「皇紀二千六百年と日本」]『経済マガジン』4-1、1月1日  
英雄政治の矛盾『公論』3-1、1月1日  
西園寺公を語る座談会『週刊朝日』37-1、1月1日[座談会：秋月左都夫、白柳秀湖、菊池武徳]  
言行不一致[「ハガキ時評」]『大洋』2-1、1月1日  
内閣更迭の武士道[「日曜評論」]『読売新聞』1月7日  
政治の再建『北海タイムス』1月9、10日[「政治の再建(一)」と改題『時代と人物』収録]  
政治の再建 国民総力内閣へ『新愛知[夕刊]』1月11、12日  
政治の再建『福岡日日新聞』1月12、13日  
内閣奏薦者の責任[「日曜評論」]『読売新聞』1月14日  
米内内閣と参議制[「日曜評論」]『読売新聞』1月21日[『平和と自由への驀進』収録]  
日本よ、何処へ往く[「日曜評論」]『読売新聞』1月28日  
日本政治の再建『改造』22-2、2月1日[「政治の再建(二)」と改題『時代と人物』収録]  
政党に与ふる書『現代』21-2、2月1日  
米内内閣の性格『中央公論』55-2、2月1日[『平和と自由への驀進』収録]  
政党復活論の分析『日本評論』15-2、2月1日[座談会：芦田均、河野密、斎藤隆夫、鶴見祐輔]  
議会政治心得帳[「日曜評論」]『読売新聞』2月4日[『平和と自由への驀進』収録]

- 秘密主義は崩れる[「日曜評論」]『読売新聞』2月11日
- 内閣と軍部の関係[「日曜評論」]『読売新聞』2月18日[『平和と自由への驀進』収録]
- 議会と斉藤問題[「日曜評論」]『読売新聞』2月25日[『平和と自由への驀進』収録]
- 議会解散論『改造』22-4、3月1日
- 支那民族と日本『大陸』3-3、3月1日[1月26日座談会：大西齋、橋樑、中山優、細川嘉六]
- 総理大臣の責任[「生活随想」]『婦人之友』34-3、3月1日
- 米国新聞論『改造』22-5、3月3日
- 進歩は小国より[「日曜評論」]『読売新聞』3月3日
- 考へる蘆[「日曜評論」]『読売新聞』3月10日[『平和と自由への驀進』収録]
- 一人一枚のはがき[「日曜評論」]『読売新聞』3月17日[『平和と自由への驀進』収録]
- 米国の戦争不介入[「日曜評論」]『読売新聞』3月24日[『大北日報』4月20、22日に転載]
- 斉藤問題と政党再建『改造』22-6、4月1日
- 政界十五年[「十五年史論」]『日本評論』15-4、4月1日[「政党興亡の跡」と改題、『時代と人物』収録]
- 米内内閣への課題[「日曜評論」]『読売新聞』4月7日[『平和と自由への驀進』収録]
- 小弱国の往く道[「日曜評論」]『読売新聞』4月14日
- 蘭印をめぐる波紋[「日曜評論」]『読売新聞』4月21日
- 青白き正邪の観念[「日曜評論」]『読売新聞』4月28日
- [「辞書・百科全書批判―葉書回答―」]『芸芸春秋』18-8、5月1日
- 如何に政治を建直ほすか『日本評論』15-5、5月1日[「政治の再建(三)」と改題、『時代と人物』収録]
- 誰が国家を背負つて立つ[「日曜評論」]『読売新聞』5月5日[『平和と自由への驀進』収録]
- 先走りを戒む[「日曜評論」]『読売新聞』5月12日
- 欧州戦乱と支那事変[「日曜評論」]『読売新聞』5月19日
- 横田の時計[「思ひ出の種」]『東京日日新聞』5月19、21日
- 座談会 日本政治の帰趣『東洋経済新報』1912、5月25日[座談会：岩淵辰雄、津久井龍雄、内山徳治]
- ドイツの第五部隊[「日曜評論」]『読売新聞』5月26日
- 静観的な滋味 上司小剣著『清貧に生きる』[「読書」]『東京日日新聞』6月3日
- 対岸の火災乎『外交』445、446、5月27日、6月3日
- 欧州戦乱と日本の外交『改造』22-6、6月1日
- 欧州戦乱の推移『経済マガジン』4-6、6月1日
- 征服者の哲学[「日曜評論」]『読売新聞』6月2日[『時代と人物』収録]
- ヨーロッパの運命と日本『東洋経済新報』1924、6月8日[座談会：板倉進、半沢玉城、金内良輔、田代格、芦田均、清沢洌、杉森孝次郎、出井盛之、内山徳治、村山公三]
- 新党運動の意義[「日曜評論」]『読売新聞』6月9日[『平和と自由への驀進』収録]

バックスジャポニカ[「日曜評論」]『読売新聞』6月16日  
依怙地も時に必要[「日曜評論」]『読売新聞』6月23日  
日本と米国の関係[「日曜評論」]『読売新聞』6月30日  
Stage-Setting in Japanese Politics 『Contemporary Japan』9-2、2月  
近衛文麿論（現代日本人物論）『改造』22-12、7月1日[『時代と人物』収録]  
[「現下日本のジャーナリズム」]『大陸』3-7、7月1日  
[「ヨーロッパの悲劇 世界人物評論」グラビア解説]『改造』22-13、7月2日  
科学者への課題[「日曜評論」]『読売新聞』7月7日[『時代と人物』収録]  
生きた新政治体制[「日曜評論」]『読売新聞』7月14日[「新政治体制」と改題『時代と人物』収録]  
夏の随想[「日曜評論」]『読売新聞』7月21日  
新政治体制の展望[「時評」]『東洋経済新報』1931、7月27日  
軍官民渾然一体[「日曜評論」]『読売新聞』7月28日[『時代と人物』収録]  
新政治体制の基調[「近衛新党に寄せる国民の声」]『経済マガジン』4-9、8月1日  
正しき自己認識[「日曜評論」]『読売新聞』8月4日  
生きた政治体制[「日曜評論」]『読売新聞』8月18日[「強い政治」と改題『時代と人物』収録]  
近衛新体制への希望『東洋経済新報』1935、8月24日  
一種の病的心理[「日曜評論」]『読売新聞』8月25日[「フランスの敗因」と改題『時代と人物』収録]  
歴史と人物（随筆）『改造』22-16、9月1日[『時代と人物』収録]  
牧水哲学『短歌研究』9-9、9月1日[『国と人物』収録]  
国民の心を燃やしめよ[「日曜評論」]『読売新聞』9月1日[「国民の心を燃やしめよ」と改題『時代と人物』収録]  
大きな駄々子[「日曜評論」]『読売新聞』9月8日  
真実の日本[「日曜評論」]『読売新聞』9月15日[『時代と人物』収録]  
希望を有たしめよ[「日曜評論」]『読売新聞』9月22日  
私の人生観[「日曜評論」]『読売新聞』9月29日[『時代と人物』収録]  
日米関係の前途『改造』22-20、11月1日  
波をかぶつて小学校へ[「徒歩通学の想ひ出」]『旅』17-11、11月1日  
西園寺公を憶ふ『読売新聞』11月25～27日[「西園寺公望公 かれの一生の追憶」と改題『国と人物』収録]  
政治家としての西園寺『改造』22-23、12月2日[『国と人物』収録]

## 1941(昭和16)年

事変処理の諸案『大陸』4-1、1月1日

政治家の和歌『短歌研究』10-1、1月1日

時局座談会『福岡日日新聞』1月1、3、5～7、9～16日[12月21日座談会(於虎の門晩翠軒)：有馬頼寧、船田中、関根郡平、秋山邦雄、神川彦松、今井登志喜、飯田清三、岩淵辰雄]

〔近頃快心の事〕『婦人之友』35-1、1月1日

希望〔随筆〕『モダン日本』12-1、1月1日

〔一 現時局における日本人の欠点 二 日本文化の欠陥 三 最近感心されたこと〕『近きより』5-1、1月5日

政治と批評〔時観〕『福岡日日新聞[夕刊]』1月10日

日本を繞る国際情勢『福岡日日新聞』1月13～16日[座談会：有馬頼寧、船田中、関根郡平、秋山邦雄、神川彦松、今井登志喜、新田清三、岩淵辰雄、本社側]

大家の矛盾『新愛知』1月14、15日

大家の矛盾〔時観〕『福岡日日新聞[夕刊]』1月25日

野村大使と日米の危機『アメリカ』1-8、2月1日[座談会：佐藤敏人、鈴木文史朗、阿部豊治、鈴木亀甫]

政治力の問題『大陸』4-2、2月1日[『国と人物』収録]

政治の現実と翼賛議会『中央公論』56-2、2月1日[1月11日座談会：巖山政道、河野密、平井羊三、大平安孝、山崎靖純]

\*西園寺公を憶ふ『画報躍進之日本』6-2、2月

複雑怪奇観『都新聞』6月25日

旅のいろいろ『改造』23-14、7月2日[『国と人物』収録]

無言の真理〔日曜随想〕『都新聞[夕刊]』8月4日[『国と人物』収録]

無言の真理『近きより』5-8、8月5日[『都新聞[夕刊]』8月4日から転載]

〔一 貴下が「近きより」又は正木呉を知った因縁話 二「近きより」又は正木呉を祖上にのせる 三 貴下の御心境又は御近況〕『近きより』5-8、8月5日

〔ハガキ回答 スミス都へ行く〕『日本映画』6-9、9月1日

清沢渌著外交史〔文化 書評〕『読売新聞[夕刊]』9月21日

新聞統制と国論の統一〔文芸〕『都新聞』10月5～7日[『国と人物』収録]

\*人生行路、初出未詳、10月〔或る雑誌の巻頭言として〕無署名で発表、『平和と自由への邁進』37-40頁収録]

\*東条内閣への期待『固本盛国』[5-11]、11月1日

嘘と実『大陸』4-12、12月7日

〔宣戦布告の日〕『経済情報 政経篇』17-1、12月10日

## 1942(昭和17)年

世界戦争の展望『科学工業主義』6-1、1月1日

或本屋の述懐『出版普及』2・8、4月15日

〔「正木呉『人生断章』を評す」〕『近きより』6・8、8月5日

\*自由主義とは何ぞや、初出未詳、11月〔「雑誌の巻頭論文として無署名で」発表、『平和と自由への邁進』67-71頁収録]

## 1943(昭和18)年

旅行の非常体制〔「戦時旅行の指導講座」〕『旅』20・1、1月1日

頭本元貞先生〔「頭本元貞翁追憶」〕『英語青年』88・12、3月15日〔『自伝点描』収録]

〔「一、貴下は、どういふ風に忠君愛国を實踐されますか 二、「近きより」の存在理由 三、貴下の最近の悦び」〕『近きより』7・4、4月5日

## 1944(昭和19)年

新聞の行く道『日本新聞報』90、2月3日

## 1945(昭和20)年

敗戦と勝海舟『読売報知』10月23日〔『近衛内閣史論』収録]

この喪心状態を奈何〔「政治談議」〕『新生』1・1、11月1日〔『近衛内閣史論』収録]

新生日本の道『新生』1・2、12月1日〔『近衛内閣史論』収録]

## 1946(昭和21)年

軍国政治論『改造』27・1、1月1日〔「悲劇の清算」と改題『回顧と希望』収録]

第八十九議会の検討『潮流』1・1、1月1日〔「終戦直後の政治 昭和二十年」と改題『回顧と希望』収録]

新聞記者の人生観『日本新聞報』307、1月3日

新春対談『読売報知』1月3、4、6～9日〔長谷川如是閑との対談]

果敢即決を要す『読売報知』1月11日

日本よ立ち上れ『言論』1・1、1月20日

世界民主主義『世界文化』1・1、2月1日〔『回顧と希望』収録]

\*将棋にあこがれる『将棋新聞』2月27日〔『回顧と希望』収録]

\*平和的日本の再建『新時代』13・2、2月

若い人の双肩に〔「週間自由討議」〕『日本週報』13、3月3日

われわれの前途〔「月曜評論」〕『読売報知』3月4日

徹底した平和主義—憲法改正政府案をみて—『読売報知』3月8日〔『政府の憲法改正草案要綱に対する批判』〈貴族院彙報付録〉(貴族院事務局調査部、1946年4月)、『回顧と希望』収録]

- 友愛の一念[「月曜評論」]『読売報知』3月11日[『回顧と希望』収録]
- わが新聞の立場[「月曜評論」]『読売報知』3月18日[『回顧と希望』収録]
- 総選挙の目標[「月曜評論」]『読売報知』3月25日[『回顧と希望』収録]
- 国民に訴う[「月曜評論」]『読売報知』4月1日[『回顧と希望』収録]
- 日本は立直るか『月刊読売』4-5、4月1日
- 新聞記者に国境なし[「月曜評論」]『読売報知』4月15日[『回顧と希望』収録]
- 京都日日新聞に寄す『京都日日新聞』4月17日
- 政府と政党のために[「月曜評論」]『読売報知』4月22日
- 来るべき内閣に望む[「月曜評論」]『読売報知』4月29日[『回顧と希望』収録]
- 日本の課題『時論』1-5、5月1日
- 世界的使命[「新憲法草案と平和国家の構想」]『言論』1-4、5月5日
- 日本の性格と誇り[「月曜評論」]『読売新聞』5月13日[『回顧と希望』収録]
- 復員学生諸君へ[「西北の後輩に寄す 言論界」]『早稲田大学新聞』6、5月15日
- 婦人参政のもたらせるもの『女性改造』1-1、6月1日[加藤シヅエとの対談]
- 焼跡に巣をくふ『リベラル』1-4、6月1日
- 世界の平常心[「月曜評論」]『読売新聞』6月3日[『回顧と希望』収録]
- 新生読売の発足『読売新聞』6月27日
- 小説よりも面白いロイド・ジョージ『平和会議記録』[「私は何を讀んだか」]『日本読書新聞』353、7月10日
- 新聞休刊の数日『読売新聞』7月17日[『回顧と希望』収録]
- 日本の理想『読売新聞』7月21日[『回顧と希望』、同書を底本に、作品社編集部編『読本 憲法の100年 3 憲法の再生』(作品社、1989年)収録]
- 静かなる一瞬[「この一年」]『世界文化』1-7、8月1日
- 逗子だより『読売新聞』8月2日[『回顧と希望』収録]
- 逗子より『読売新聞』8月3日[『回顧と希望』収録]
- 逗子だより『読売新聞』8月15日[『回顧と希望』収録]
- 民主主義の勝利『読売新聞』8月23日[『回顧と希望』収録]
- 逗子だより『読売新聞』9月6日[『回顧と希望』収録]
- 逗子だより『読売新聞』9月10日[『回顧と希望』収録]
- 逗子だより『読売新聞』9月18日[『回顧と希望』収録]
- スペクテータの道『社会』1、9月20日[目次にないが、p.18に掲載]
- 〔「新憲法 私にかく思ふ」〕『夕刊京都』9月21日
- ゼネスト論『読売新聞』9月27日[『回顧と希望』収録]

【記事「解決への我決意を蹂躪」中の談】『読売新聞』10月1日  
逗子だより『読売新聞』10月1日[『回顧と希望』収録]  
少年少女への言葉ー“少年読売”の出版に際してー『少年読売』1-1、10月1日  
労働運動への健全方向約束[談「読売争議」]『読売新聞』10月17日  
勝利の日まで『読売新聞』11月8日[『回顧と希望』収録]  
逗子だより『読売新聞』12月1日[『回顧と希望』収録]

## 1947(昭和22)年

【「昭和二十二年に望むこと(アンケート)」】『人間』2-1、1月1日  
年頭の決心『読売新聞』1月1日[『回顧と希望』収録]  
時局清談『読売新聞』1月1、3、4、6日[鼎談：吉田茂、古島一雄]  
危機は克服出来る『読売新聞』1月21日[『回顧と希望』収録]  
日本の前途は洋々『読売新聞』2月19日[ロイ・ハワードとの対談]  
時局と大和精神『大和』1-1、2月28日[座談会：矢野正太郎、大河内輝耕、殖田俊吉、片山哲、渡辺鍬蔵、鈴木義男、中野邦一]  
運命の総選挙『読売新聞』3月19日[『回顧と希望』収録]  
逗子だより『読売新聞』3月27日[『回顧と希望』収録]  
逗子だより『読売新聞』3月29日[『回顧と希望』収録]  
総選挙来るー日本を立ち上げらしめよー『月刊読売』5-4、4月1日  
世界と日本『世界文化』2-1、4月1日[座談会：来栖三郎、阿部賢一、横田喜三郎、坂本直道]  
逗子だより『読売新聞』4月15日[『回顧と希望』収録]  
婦人代議士の行く道『読売新聞』4月27日[加藤シズエとの対談]  
沈鬱な政治『読売新聞』5月17日[『回顧と希望』収録]  
日本の女性美『女性改造』2-5、6月1日  
逗子だより『読売新聞』6月3日[『回顧と希望』収録]  
逗子だより『読売新聞』6月18日[『回顧と希望』収録]  
経済緊急対策をめぐって『大和』1-3、6月30日[座談会：相原藤一郎、勝間田清一、北岡寿逸、渡辺鍬蔵、中野邦一]  
逗子だより『読売新聞』7月11日[『回顧と希望』収録]  
逗子だより『読売新聞』7月18日[『回顧と希望』収録]  
逗子だより『読売新聞』8月8日[『回顧と希望』収録]  
逗子だより『読売新聞』8月19日[『回顧と希望』収録]  
稲門あこのころ『早稲田大学新聞』32、9月21日

横須賀線に乗りて『ことたま』13-4、10月1日

逗子だより『読売新聞』10月5日[『回顧と希望』収録]

逗子だより『読売新聞』10月6日[10月5日付と同文]

逗子だより『読売新聞』10月14日[『回顧と希望』収録]

逗子だより『読売新聞』10月26日[『回顧と希望』収録]

日記帳から『読売新聞』12月12日[「逗子だより」『回顧と希望』収録]

政局を語る－混迷せる現状と其の見透し『東洋経済新報』2303、12月20日[座談会：板倉卓造、阿部真之助、綿野修、大原万平]

## 1948(昭和23)年

年頭展望『読売新聞』1月1日[『回顧と希望』収録]

問題は未解決[「公論」]『熊本日日新聞』1月3日

対日講和問題をめぐる鼎談『読売新聞』1月3日[鼎談：幣原喜重郎、野村吉三郎]

日記帳から『読売新聞』1月25日[「逗子だより」『回顧と希望』収録]

原子・自由・平和『日本週報』72・73、2月1日[『回顧と希望』収録]

社会党の今昔『読売新聞』2月10日[『回顧と希望』収録]

政治の仁義『読売新聞』2月17日[『回顧と希望』収録]

日記帳から『読売新聞』3月3日[「逗子だより」『回顧と希望』収録]

日記帳から『読売新聞』4月6日[「逗子だより」『回顧と希望』、「墓荘だより」『自伝点描』収録]

憲法の理想『読売新聞』5月3日

新聞人と語学『カレント・オヴ・ザ・ワールド』25-7、7月1日[国分夙との対談]

座談会 政局混迷をどう收拾するか『東洋経済新報』2329、7月3日[座談会(於東洋経済新報社)：阿部真之助、蟬山政道、岩淵辰雄、綿野修、大原万平]

二七会と清沢君『民主新論』1-3、8月1日

敗戦三年[「時評」]『読売新聞』8月15日

進駐軍の好意に感謝[記事「神宮球場・初の日本野球」中の談]『読売新聞』8月25日

報知新聞の再興『報知新聞』9月1日

日記帳から『読売新聞』9月3日

労働運動の限界[「時評」]『読売新聞』9月20日

愛の溢るる国『南海社の婦人と家庭』1-1、10月1日

新聞懐旧談『夕刊新大阪』10月1日[阿部真之助との対談]

新聞週間感想『読売新聞』10月1日

新聞人の立場から[9月4日新聞週間第4日の「講演と映画の会」の講演要旨]『新聞協会報』461、10月6日

日[『自伝点描』収録]

解散の秋[「時評」]『読売新聞』10月16日

政治への情熱[「時評」]『読売新聞』10月31日

めくらの垣覗き『棋道』24-12、12月1日

政党の原則『中央公論』63-12、12月1日

## 1949(昭和24)年

政治の観点『改造』30-1、1月1日

新年の思い出『読売新聞』1月1日[『自伝点描』収録]

いま論ずべき問題ではない[「天皇退位の是非」]『読物青鉛筆』2、1月1日

吉田首相に聴く『読売新聞』1月25～27日[鼎談：吉田茂、古島一雄]

世界情勢と今後『先見経済』25、3月1日[「点滴十年」]『先見経済』600、1956年11月10日に抄録]

温泉と牧水と[記者インタビュー]『温泉』17-3、3月1日

決断の年齢『青年』2-3、3月1日

政治と生活『ホーム』3-3、3月1日[坂西志保との対談]

旅で拾った哲学『読売新聞』3月17日[『自伝点描』収録]

ウォード・プライス氏 馬場社長と会談『読売新聞』3月27日[3月24日会談：ウォード・プライス]

自立独立の決心『時局』146、4月1日

選挙・政党・党首を語る『塔』1-4、4月1日[座談会：丸山幹治、野村秀雄、有竹修二]

文学と新聞記者『早稲田文学』16-2、5月1日[「懇意な文壇人」と改題]『自伝点描』収録]

戦争の導火線[「時評」]『読売新聞』5月16日

[選挙法改正に関する参考人意見]『第5回国会衆議院 選挙法改正に関する特別委員会議録』6、6月1日

野百合の一つ[「論壇」]『新聞協会報』531、6月11日[『自伝点描』収録]

私の学生時代[「随筆」]『University』1、6月20日

[「皇太子様の御教育に対して斯く熟願する」]『全人』19-6、6月25日

独立の気概を持って『向上』4-4、8月1日

終戦四周年『読売新聞』8月14、15日[吉田茂との対談]

この志奪うべからず『読売新聞』8月16日

茶から香へ[「わが日わが夢」]『苦楽』4-9、9月1日

刑罰加えるは不当[記事「石井記者に有罪(罰金三千元)求刑」中の談]『読売新聞』9月18日

新聞週間に題す『愛媛新聞』10月1日

新聞は読者のもの『大分合同新聞』10月1日

感激の小説『改造文芸』1-4、10月1日  
新聞週間に題す 民主主義守る読者『京都新聞』10月1日  
新聞週間に題す『高知新聞』年10月1日  
[「青年道議会」]『市会』1-2、10月1日  
新聞界の両元老対談『新聞協会報』563、10月1日[板倉卓造との対談]  
新聞週間に題す『中部日本新聞』10月1日  
民主日本再建に貢献 新聞週間に題す『東京タイムズ』10月1日  
新聞週間に題す『西日本新聞』10月1日  
新聞週間に題す『毎日新聞』10月1日  
新聞週間に題す 民主国家建設の楔『都新聞』10月1日  
新聞週間と原子爆弾[「時評」]『読売新聞』10月1日  
新聞は自由のために『読売新聞』10月1日[鼎談：古島一雄、阿部真之助]  
「読売評論」の発足『読売評論』1-1、10月1日  
有楽町だより 学生時代『読売評論』1-1、10月1日  
馬場協会長式辞[記事「第一回新聞週間開く」の中]『読売新聞』10月2日  
有楽町だより 私の記者修行『読売評論』1-2、11月1日  
日仏芸術対談『読売新聞』11月17日[11月16日、グルッセとの対談]  
文化の交流[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月27日[『自伝点描』収録]  
馬場恒吾氏の青少年時代『青年』34-9、12月1日[鈴木文史郎によるインタビュー]  
貧乏政治『中央公論』64-12、12月1日[11月25日座談会：阿部真之助、岩淵辰雄、鈴木文史朗]  
拝謁の記『読売評論』1-3、12月1日[『天皇の印象』(創元社、1949年)、『自伝点描』収録]  
文化の交流[「食後漫筆」]『夕刊西日本新聞』12月9日

## 1950(昭和25)年

文化の先端を切るもの『主婦之友』34-1、1月1日  
年頭所感 民衆礼賛『新聞協会報』588、1月1日[『自伝点描』収録]  
年頭の辞 一九五〇年の課題『読売新聞』1月1日  
講和の年を迎えて『読売新聞』1月1日[座談会：吉田茂、幣原喜重郎、佐藤尚武、古島一雄]  
天皇拜謁の記『教育社会』5-2、2月1日[『読売評論』1-3、1949年12月1日から転載]  
蕁荘だより『読売新聞』2月16日[『自伝点描』収録]  
日本の幻影『読売新聞[夕刊]』2月22～24日  
日本の幻影『夕刊読売』2月22～24日

墓荘だより『読売新聞』2月27日[『自伝点描』収録]  
[「元号」に関する調査の件で書面にて参考人意見]『第7回国会 参議院文部委員会会議録』8、3月2日  
永世中立の夢[「日曜評論」]『読売新聞』3月26日  
ある時代の『改造』[「改造創刊三十周年に寄せて」]『改造』31-4、4月1日  
自由の世界『新週報』1-4、4月1日[対談：鈴木文史朗]  
大隈さんに借金した話[5月8日、第二回大隈記念祭記念講演要旨]『早稲田学報』4-5、5月20日[「早稲田時代」と改題『自伝点描』収録]  
決断の年令『青年文化大学』7、6月1日  
戦争の回顧[「日曜評論」]『読売新聞』7月2日  
日本人に訴う『読売新聞』7月23日  
朝鮮の動乱と世界『改造』31-8、8月1日  
背後の操縦者を暴露 三田村武雄著戦争と共産主義『出版ニュース』135、8月11日  
終戦五年の後[「日曜評論」]『読売新聞』8月13日  
新聞の道—終戦五周年を迎えて—[「論壇」]『新聞協会報』651、8月14日[『自伝点描』収録]  
原田熊雄『西園寺公と政局』—原田文書に驚く—[「読書」]『読売新聞』9月29日  
世界平和に貢献せん[「きょうから新聞週間」]『毎日新聞』10月1日  
自由と責任のある新聞[談]『読売新聞』10月1日  
新聞の地位高む[挨拶]『読売新聞』10月3日  
[「新聞週間日米メッセージ交換」中の全米新聞協会会長宛メッセージ]『新聞協会報』667、10月9日  
飄々たる善人 握手した時のあの温かさ[「ショー翁と日本での思い出」]『読売新聞』11月3日[「バーナード・ショウの思出」と改題『自伝点描』収録]  
閻錫山の著述「世界平和のために」[「読書」]『読売新聞』11月12日  
目黒だより『読売新聞』11月16日  
ショーの人間味[文豪バーナード・ショーを偲びて]『文章倶楽部』2-10、12月1日  
日本の自衛『読売新聞』12月12日

## 1951(昭和26)年

寄新年号[「新年に思ふところ(諸家の回答)」]『時局』162、1月1日  
目下の急務『新聞協会報』588、1月1日  
年頭所感『読売新聞』1月3日  
[「ほんのよみかた」]『図書新聞』77、1月1日  
新聞と国勢『新聞協会報』697、1月29日  
無条件降伏下の条件『日本週報』170、2月1日[座談会：佐藤尚武、石井光次郎、田村幸策、湯川半蔵]

- [記事「裸で話合う人間ダレス」中の談]『読売新聞』2月3日
- 日本の決断の日[「時評」]『読売新聞』2月12日
- 同筆雑訓『カレント・オヴ・ザ・ワールド』28-3、3月1日
- [「第三次大戦と日本の立場」]『婦人公論』35-3、3月1日
- 鈴木文史朗君のこと『全国出版新聞』<鈴木文史朗追悼号>37、3月15日
- この精神の空白を奈何[「日曜時評」]『読売新聞』3月18日
- 自伝 新聞五十年(一)『改造』32-5、4月1日[「ジャパン・タイムス記者の頃」、「オリエンタル・レビュー時代」と改題、『自伝点描』収録]
- 日米の協力推進[「講和草案をどう見た?」]『日本海新聞』4月1日
- 藝荘の記『文芸春秋』29-5、4月1日
- マ元帥を送る『読売新聞』4月15日
- マ元帥を送る『新聞協会報』719、4月16日
- 日本は狙われている―再軍備の在り方―『読売新聞』4月23日
- 自伝 新聞五十年(二) 原敬と巴里講和会議『改造』32-6、5月1日[「国民新聞記者の頃」と改題、『自伝点描』収録]
- 日本の悲願 愛情と愛国心を語る 馬場恒吾先生を囲んで四婦人の座談会『キング』27-5、5月1日[座談会：大浜英子、井田鶴子、山田悦世、杉原コト]
- 戦争と平和『月刊読売』9-7、5月15日[『自伝点描』収録]
- 京大阪の魅力『美しい暮しの手帖』12、6月1日
- 自伝 新聞五十年(三)『改造』32-7、6月1日[「旅に学んだ人生行路」と改題『自伝点描』収録]
- 木村名人を囲んで『東京だより』23、6月1日[座談会：木村義雄、石山賢吉、芦田均]
- マッカアサア去る『読売評論』3-6、6月1日
- フィニックスの如くに[「日曜評論」]『読売新聞』6月3日[『自伝点描』収録]
- 朝鮮戦乱一周年[「月曜評論」]『岐阜タイムズ』6月25日
- 十年の悪夢[「日曜評論」]『読売新聞』7月29日
- 旭が輝き始める[「春夏秋冬」]『東京タイムズ』7月31日
- 柿の木坂会見記―或る日の馬場恒吾先生―[相良武雄によるインタビュー]『時事英語研究』6-8、8月1日
- 明治・大正政治史の峠―『原敬日記』を読んで想う『日本読書新聞』606、8月15日
- 講和全権を送る[「時評」]『読売新聞』8月27日
- 吉田首相桑港へ行く『改造』32-9、9月1日
- 読書の一生『読書人』6、9月1日[「私の読書」と改題『自伝点描』収録]
- 息つくヒマもない桑港会議の雰囲気『読売新聞[夕刊]』9月7日
- 息つくヒマもない桑港会議の雰囲気『夕刊読売』9月7日

講和後の日本人のあり方『月刊読売』9-16、9月15日  
われら世界を罷り通る[「論壇」]『伊勢新聞』9月16日  
われら世界を罷り通る[「春夏秋冬」]『東京タイムズ』9月16日  
世界を罷り通る『日本海新聞』9月16日  
新聞週間に因んで[「日曜評論」]『読売新聞』9月30日  
Japanese response to peace treaty 『Contemporary Japan』20-7-9、9月  
独立した日本 新聞の使命について『新聞協会報』767、10月1日  
[「第一回新聞文化賞に輝く馬場・板倉両氏」中の談]『新聞協会報』767、10月1日  
再軍備の是非[「日曜評論」]『読売新聞』10月14日  
日本をどうして守るかー独立日本の自衛について質問に答うー『キング』27-11、11月1日  
運命の日本 若い人に期待する『国民』604、11月1日  
[「退職官吏の生活対策はどうすればよいか」]『実業之日本』54-21、11月1日  
[「別冊・甘辛往來」]『あまカラ』4、11月5日  
自由世界建設の悲願[「日曜評論」]『読売新聞』11月11日[『自伝点描』収録]  
日本に民主主義は成長するか[「本誌創刊記念座談会」]『東洋経済新報』2500、11月17日[座談会：渡辺  
幾治郎、三枝博音、石橋湛山、三浦鍬太郎]  
石橋湛山『湛山回想』 言論人の筆の率直さ『図書新聞』121、11月19日  
再軍備反対論者に与ふ[「二つの立場 再軍備をめぐる」]『改造』32-13、12月1日  
原敬と吉田茂『読売新聞』12月4日[『自伝点描』収録]  
私の読書の歴史『日本古書通信』16-22、12月15日  
独立日本の防衛『読売新聞』12月18、19日[石橋湛山との対談]

## 1952(昭和27)年

日本の出処進退『人物往來』1-1、1月1日[『自伝点描』収録]  
世界を横行闊歩『読売新聞』1月1日[『自伝点描』収録]  
[「名士回答 今年こそぜひやりたいと思うこと」]『実業之日本』55-2、1月15日  
ソ連は戦うか[「時評」]『読売新聞』1月28日  
放談 新聞街三大記『[大阪]毎日新聞』2月1日[座談会：下村海南、高石真五郎、阿部真之介、森正蔵]  
大隈重信侯の民主々義『人物往來』1-3、3月1日  
文史朗文集[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』3月4日  
講和発効と日本『読売新聞[夕刊]』3月29日  
独立への道『経済往來』4-4、4月1日  
[「私の健康長壽の秘訣」]『実業之日本』55-7、4月1日

- 日米今昔物語『随筆』4、4月1日
- 独立日本に寄せる『読売新聞』4月21、22日[鼎談：鳩山一郎、大久保留次郎]
- 独立日本に寄せる『講演時報』688、4月25日[鼎談：鳩山一郎、大久保留次郎]
- 改正に賛成[「憲法改正をどう思う」]『読売新聞』4月28日
- 新聞記者時代『新聞協会報』825～827、4月28日、5月1、5日
- アサマとコロラド内外景勝録ー『旅』26-5、5月1日
- 維新再来『読売新聞』5月3日
- [活動防止法案に関する公述人意見]『第一三回国会 参議院法務委員会議録』46、5月27日
- [古島一雄哀悼談]『読売新聞[夕刊]』5月27日
- 古島翁を惜しむ[談]『新聞協会報』834、5月29日
- われわれの定石『改造』33-6、6月1日[『自伝点描』収録]
- 人類の下積となる勿れ[「日本独立を繞る世界の風雲」]『人物往来』1-6、6月1日
- ラジオとテレビ『読売新聞[夕刊]』6月4日
- 松葉杖の日本ーG・H・Qと新聞ー『文芸春秋』30-9、6月5日[「読売新聞時代」と改題『自伝点描』収録]
- 加瀬俊一著『世界の鼓動』[「書評」]『中央公論』67-9、8月1日
- [「日本は斯くあるべし」]『天地人』1、8月1日
- 惜しい時に[「山本実彦を悼む」]『改造』33-12、9月1日
- 民主世界を守る決意[「総選挙に思う」]『毎日新聞』9月6日[日本人自身の選挙 民主世界を守る決心を[「総選挙に際して」]『大阪毎日新聞』9月6日]
- 世界政府への道[「日曜評論」]『読売新聞』9月14日
- 老自由主義者は消えるか[「オールド・リベラリストに対決するジュニア・リベラリスト」]『改造』33-13、9月15日
- 「戦争」と「平和」の岐路に立つ日本ー私の時局哲学『改造』33-15、10月1日
- 実力政党を期待[「総選挙後の政局」]『政界往来』18-10、10月1日
- 総選挙縦横談『東京だより』39、10月1日[座談会：阿部眞之助、岩淵辰雄]
- 現代政局論[「日曜評論」]『読売新聞』10月12日
- 明治時代の感激[「明治と現代」]『改造』33-16、11月1日
- 言論自由の戦い[「一日一題」]『読売新聞[夕刊]』11月13日
- 発刊に寄せて 日本の顔は西へ向く『大阪読売新聞』11月27日
- 日本が目目の方向[「大阪読売の発刊に寄す」]『読売新聞』11月27日
- 「官製情報機関」中止論[「時評」]『読売新聞』11月29日
- \*新政局を眺めて『実業の世界』49-臨時増刊1、11月

政治家と読書『読売新聞』12月6日

真の独立と平和はどうしたら得られるか『主婦之友』37-1、12月25日[対談：平林たい子]

## 1953(昭和28)年

首相新春放談『大阪読売新聞』1月1日[日本をよい国に『読売新聞』1月1、3日][鼎談：吉田茂、長谷川如是閑]

冥加に甘える勿れー両陣営が激突すればー[「日曜評論」]『読売新聞』1月4日

日本の真価[「時事旬評」]『読売新聞』1月25日[『大阪読売新聞』1月25日]

言論統制の「魅惑」『改造』34-2、2月1日

世界一体化への傾向 複雑な国際政局を背景に日本国民に要請される新なる自覚『新民』4-2、2月1日

ウインストン・S・チャーチル[「時事旬評」]『読売新聞』2月5日[『大阪読売新聞』2月5日]

ソ連は戦うか[「時事旬評」]『読売新聞』2月15日[『大阪読売新聞』2月15日]

マルクスの上着[「時事旬評」]『読売新聞』2月25日[『大阪読売新聞』2月25日]

国会の将来[「時事旬評」]『読売新聞』3月5日[『大阪読売新聞』3月5日]

家庭雑談『家庭よみうり』338、3月11日

時代感覚が違う[「時事旬評」]『読売新聞』3月15日

家庭雑談『家庭よみうり』339、3月21日

真実の人間の発見 阿部真之助著『近代政治家評伝』[「読書」]『毎日新聞』3月23日

武陵桃源の夢[「時事旬評」]『読売新聞』3月25日[『大阪読売新聞』3月25日]

家庭雑談『家庭よみうり』340、4月1日

日に余る小党分立[「時事旬評」]『読売新聞』4月5日

家庭雑談『家庭よみうり』341、4月11日

ソ連の維新[「時事旬評」]『読売新聞』4月15日

家庭雑談『家庭よみうり』342、4月21日

議会政治は斯くあれ[「時事旬評」]『読売新聞』4月25日

家庭雑談『家庭よみうり』343、5月1日

将棋を始めて六十年 馬場恒吾氏に訊く[「名士縦横談」]『将棋世界』17-5、5月1日

日本名物「義理人情」『芸芸春秋』31-7、5月1日[鼎談：市川房枝、阿部真之助]

世界の廃藩置県[「時事旬評」]『読売新聞』5月5日

家庭雑談『家庭よみうり』344、5月11日

新なる世界を造る[「時事旬評」]『読売新聞』5月15日

時局雑感『先見経済』352、5月20日

家庭雑談『家庭よみうり』345、5月21日

- 観点の異動[「時事旬評」]『読売新聞』5月26日  
家庭雑談『家庭よみうり』346、6月1日  
道は近きにあり[「時事旬評」]『読売新聞』6月5日  
家庭雑談『家庭よみうり』347、6月11日  
旅行―内灘その他[「時事旬評」]『読売新聞』6月15日  
家庭雑談『家庭よみうり』348、6月21日  
軍備の企画[「時事旬評」]『読売新聞』6月25日  
\*家庭雑談『家庭よみうり』349、7月1日  
大隈と原敬―近代の政治家を語る―[談]『人物往来』2-7、7月1日  
夏の読書[「時事旬評」]『読売新聞』7月4日  
家庭雑談『家庭よみうり』350、7月11日  
東洋の悲劇[「時事旬評」]『読売新聞』7月15日  
家庭雑談『家庭よみうり』351、7月21日  
平和は東方より[「時事旬評」]『読売新聞』7月25日  
家庭雑談『家庭よみうり』352、8月1日  
洋書のよみ方[「時事旬評」]『読売新聞』8月5日  
家庭雑談『家庭よみうり』353、8月11日  
原子力の国際管理[「時事旬評」]『読売新聞』8月15日  
家庭雑談『家庭よみうり』354、8月21日  
平和と友愛への大道[「時事旬評」]『読売新聞』8月25日  
家庭雑談『家庭よみうり』355、9月1日  
家庭雑談『家庭よみうり』356、9月11日  
家庭雑談『家庭よみうり』357、9月21日  
病臥[「我が思うところ 我が感ずるところ」]『時局』190、11月1日

## 1954(昭和29)年

- 肺炎ようやく快方[「近況報告」文責記者]『新聞協会報』999、1月11日  
先覚者日本[「時事旬評」]『読売新聞』1月25日[『[大阪]読売新聞』1月25日]  
自衛力の問題[「時事旬評」]『読売新聞』2月5日[『[大阪]読売新聞』2月5日]  
独立国の面目[「時事旬評」]『読売新聞』3月5日[『[大阪]読売新聞』3月5日]  
将来の世界[「時事旬評」]『読売新聞』3月25日[『[大阪]読売新聞』3月25日]  
禍を転じて福[「時事旬評」]『読売新聞』4月15日[『[大阪]読売新聞』4月16日]

水爆と原爆[「時事旬評」]『読売新聞』4月26日[『[大阪]読売新聞』4月26日]  
おとぎ話の国[「時事旬評」]『読売新聞』5月15日  
将来の軍備[「時事旬評」]『読売新聞』6月15日  
日本海の色[「時事旬評」]『読売新聞』6月25日  
将来の世界[「時事旬評」]『読売新聞』7月15日[将来の世界観『[大阪]読売新聞』7月15日]  
働けばおのづから『丸』7-8、8月1日  
憲法改正の問題[「時事旬評」]『読売新聞』8月5日[『[大阪]読売新聞』8月5日]  
日本が先覚者[「時事旬評」]『読売新聞』8月25日[『[大阪]読売新聞』8月25日]  
日本再軍備への覚悟[「時事旬評」]『読売新聞』9月25日[日本の所存の臍『[大阪]読売新聞』9月25日]  
僕の学生時代と読書遍歴『随筆』[復刊]2、11月1日  
言論自由の歩み八十年『読売新聞』11月2日[座談会：藤原銀次郎、正宗白鳥、御手洗辰雄、千葉雄次郎]  
老記者の思い出[談]『週刊読売』13-46、11月7日

### 1955(昭和30)年

入学おめでとう『早稲田学報』9-3、4月25日

### 1956(昭和31)年

自由民主党へ 性急に過ぎる改憲論 相手の主張にも謙虚さを[「二大政党への公開状」]『日本経済新聞』1月1日  
バックボーンをもつ自由人の生活詩[「歌集「自由人」批評特集 I」]『霸王樹』36-5、5月1日[鎌田澤一郎『自由人 歌集[再版]』(長谷川書房、1956年)収録]

## 4. 評論集初出

\*収録評論と初出とを掲げた。収録時に改題されているものについては原題を示した。収録時に加筆・修正されているものもある。

## 『改造の叫び』民友社、1919年9月1日

収録評論	初出
改造の叫び	『国民新聞』1919年6月21～30日、7月2～8日
改造の第一歩	『国民新聞』1919年7月24～26、28～31日、8月6、7日

## 『労働問題と普通選挙』民友社、1920年1月3日

収録評論	初出
自序	労働問題と普通選挙『国民新聞』1920年1月8日
普通選挙	『国民新聞』1919年9月16～18、21～23、26～30日、10月2～4日
労働問題	『国民新聞』1919年11月19～23、25～30日、12月2、4、5日

## 『現代人物評論』中央公論社、1930年9月26日

収録評論	初出
浜口雄幸論	『中央公論』42-7、1928年7月1日
原敬論	普通選挙物語『文芸春秋』6-3、1928年3月1日
田中義一論	『中央公論』43-8、1929年8月1日
田中義一論 田中内閣の末期	政局はどう動く『改造』11-5、1929年5月1日
田中義一論 田中義一死後の感想	田中義一の死と政界『文芸春秋』7-11、1929年11月1日
床次竹二郎論	『中央公論』43-9、1929年9月1日
東京市政の人々	東京市政論『中央公論』43-10、1929年10月1日
安達謙蔵論	『中央公論』43-12、1929年12月1日
久原房之助論	『中央公論』44-1、1929年1月1日
小泉策太郎論	『中央公論』44-2、1929年2月1日
徳富蘇峰論	『中央公論』44-3、1929年3月1日
寺内・山本・清浦・田中	低能内閣列伝『中央公論』44-4、1929年4月1日
水野直論	『中央公論』44-5、1929年5月1日
政界裏面の巨頭	『中央公論』44-7、1929年7月1日
西園寺公望と内田康哉	田中内閣倒壊の主役者『中央公論』44-8、1929年8月1日
幣原喜重郎論	『中央公論』44-9、1929年9月1日
渡辺千冬論	『中央公論』44-11、1929年11月1日
若槻礼次郎論	『中央公論』44-12、1929年12月1日
犬養毅論	『中央公論』45-1、1930年1月1日
山梨半造と斉藤実	『中央公論』45-2、1930年2月1日
原・桂・清浦の解散振り	議会解散その日『中央公論』45-2、1930年2月1日
政友会の人々	大政友会論『中央公論』45-3、1930年3月1日
民政党の人々	大民政党論『中央公論』45-4、1930年4月1日
貴族院の人々	貴族院論『中央公論』45-5、1930年5月1日
陸海軍の巨頭	陸海軍巨頭論『中央公論』45-6、1930年6月1日
伊藤巳代治論	『中央公論』45-7、1930年7月1日
井上準之助論	『中央公論』45-8、1930年8月1日
牧野内大臣論	牧野伸頭論『中央公論』45-9、1930年9月1日
近藤次繁博士	未詳
江木翼論	『中央公論』45-10、1931年10月1日

『政界人物風景』中央公論社、1931年6月1日

収録評論	初出
人の後影を拝む	人の後影を拝む心『現代』6-7、1925年7月1日
第二次若槻内閣論	若槻内閣論『中央公論』46-6、1931年6月1日
一九三一年の政治家	『中央公論』46-1、1931年1月1日
近衛文麿公と貴族院	近衛公と貴族院『改造』13-2、1931年2月1日
明日の人々	『大阪毎日新聞[夕刊]』1931年1月6～11、14～18、20日
枢密院の人々	『改造』12-10、1930年10月1日
枢密院の清算	『大阪毎日新聞』1930年9月29、30日、10月1～4日
宇垣一成論	『中央公論』46-2、1931年2月1日
現代軍人論	『中央公論』45-12、1930年12月1日
三土忠造論	『中央公論』46-3、1931年3月1日
仙石貢論	『中央公論』46-5、1931年5月1日
浜口狙撃の瞬間	未詳
浜口雄幸の展望	『改造』13-1、1931年1月1日
彼の内閣	浜口内閣論『中央公論』46-4、1931年4月1日
遭難後の政局	政局の展望『改造』13-4、1931年4月1日
野間清治と報知新聞	報知新聞論『中央公論』45-11、1930年11月1日
五十九議会登場人物	波瀾を予想させる第五十九議会登場人物『週刊朝日』19-2～4、1931年1月4、11、18日
山本権兵衛と清浦奎吾	時勢の急流 政界一年の回顧『世紀』1-3、1924年12月1日
清浦奎吾内閣論	政治上の階級闘争『改造』6-4、1924年4月1日
加藤高明論	最近政変の事実と批判『改造』7-9、1925年9月1日
横田千之助論	議会主義者への打撃『改造』7-3、1925年3月1日
原敬と若槻の比較	原敬に匹敵する若槻首相『改造』8-3、1926年3月1日
政界修羅場	『文芸春秋』4-12、1926年12月1日
三党首妥協劇	取引に勝つて義理に負けた若槻氏『中央公論』42-3、1927年3月1日
没落を前にして	没落期の政党政治『中央公論』42-5、1927年5月1日
民政党の結成	新党新党ならず『中央公論』42-6、1927年6月1日
総選挙の失敗	現内閣の辞職すべき時『中央公論』43-4、1928年4月1日
特別議会の政情	特別議会と将来の政情『中央公論』43-6、1928年6月1日
解散行進曲	政界風景『大阪毎日新聞』1930年1月3～5日
無産党受難	未詳
政治家の姿を凝視めて	悩ましき人生を凝視して『現代』8-2、1927年2月1日
震災直後	野性『国民新聞[夕刊]』1923年11月8～12日
破壊の中に立ちて	『我観』1、1923年10月15日
破壊の翌日	『国民新聞』1923年10月10～14日
焼けた日記	『我観』2、1923年11月15日
レーニンの靴	『民論』1-3、1925年7月1日
トロツキー	未詳
一つの人生観	『雄弁』17-2、1926年2月1日
永久に動け	『雄弁』16-4、1925年4月1日
燈台	未詳
原敬と恋愛	未詳
コーヒー	未詳
民論とは何ぞや	未詳
抑へられぬ歓喜の心	『現代』7-6、1926年6月1日
市会選挙と僕	『文芸春秋』7-2、1929年2月1日
海岸に旅行して	『国民新聞』1923年7月28日

『議会政治論』中央公論社、1933年3月3日

収録評論	初出
議会政治の存在価値	未詳

経済恐慌と国際政治	未詳
世界議会への発展	議会政治論『改造』15-2、1933年2月1日
日本の議会政治	未詳
征韓論時代	『東京日日新聞』1932年2月29日、3月1、3、5～8、10、11、13日
重臣論	『中央公論』47-4、1932年4月1日
政党史論	未詳
現代代議士論	『中央公論』47-9、1932年8月1日
政党を興さんとする人々	政党を復興さす人々『東京朝日新聞』1933年1月4日
金融政変に踊つた人々	政局を動かす人々『東京朝日新聞』1932年1月4～8日
議会政治と新聞	政治とジャーナリズム『総合ジャーナリズム講座 第六巻』(内外社、1931年3月3日)[『現代ジャーナリズムの理論と動向』(内外社、1931年12月15日)再録]
フアツシヨ攻勢時代	
若槻内閣から犬養内閣へ	『中央公論』47-1、1932年1月1日
犬養内閣と総選挙	解散に直面する犬養内閣『中央公論』47-2、1932年2月1日
総選挙情景	総選挙展望『改造』14-3、1932年3月1日
政友会の大勝	政友会内閣の命脈『改造』14-4、1932年4月1日
犬養横死の前夜	未詳
非常時々代	
斎藤内閣の成立	斎藤内閣の人々『改造』14-7、1932年7月1日
非常時政界の分析	非常時の政界展望『改造』14-8、1932年8月1日
政党浮沈の戦	『中央公論』48-2、1933年2月1日
非常時人物評論	
斎藤実論	『中央公論』47-7、1932年7月1日
鈴木喜三郎論	『中央公論』47-5、1932年5月1日
内田康哉論	『中央公論』47-6、1932年6月1日
吉沢謙吉論	『中央公論』47-3、1932年3月1日
永井柳太郎論	『中央公論』47-11、1932年10月1日
松岡洋右論	『中央公論』47-12、1932年11月1日
広田弘毅論	『中央公論』47-13、1932年12月1日
岡田啓介論	岡田海相論『中央公論』48-1、1933年1月1日
時評三則	
昭和八年の初頭に	『読売新聞』1933年1月1日
指導的政治家は誰？	『読売新聞[夕刊]』1932年10月31日
民衆を愚にすべからず	『読売新聞』1932年12月26日
議会主義者の心境	未詳

## 『政界人物評論』中央公論社、1935年2月3日

収録評論	初出
岡田首相論	『中央公論』50-1、1935年1月1日
岡田内閣の成立	岡田内閣論『中央公論』49-9、1934年8月1日
政変と政党	『改造』16-9、1934年8月1日
軍縮会議と議会解散	議会解散論『中央公論』49-11、1934年10月1日
日本は何故強国になったか	議会に課せられた問題『読売新聞[夕刊]』1934年12月3日
議会に課せられる任務	臨時議会の前にして『読売新聞[夕刊]』1934年11月26日
関西暴風雨	臨時議会の任務『読売新聞[夕刊]』1934年10月1日
臨時議会の爆弾動議	臨時議会は何を教へる『読売新聞[夕刊]』1934年12月10日
国策審議会と政民連携	『読売新聞[夕刊]』1934年12月24日
斎藤会見記	斎藤前首相『読売新聞』1935年1月5、6日
末期の斎藤内閣	斎藤内閣論『中央公論』49-5、1934年5月1日
重臣会議論	『エコノミスト』12-22、1934年11月1日
自然主義の政治	自然のまゝに 政治上の自然主義『河北新報』1935年1月4日
高橋会見記	高橋蔵相『読売新聞』1935年1月7日
岡田内閣の蔵相	変態政情の悲喜劇『週刊朝日』26-27、1934年12月9日
斎藤内閣時代の高橋	高橋是清論『中央公論』48-11、1933年11月1日

高橋鈴木の默契	高橋是清の心境『中央公論』48-7、1933年7月1日
予算と各省大臣	『読売新聞[夕刊]』1933年11月20日
林陸相論	『中央公論』49-6、1934年6月1日
軍人と政治	『改造』16-13、1934年12月1日
軍人の関係したる政変史	現代政変論『中央公論』49-7、1934年7月1日
農の陸軍、工の海軍	『読売新聞[夕刊]』1935年1月7日
床次通相論	床次竹二郎論『中央公論』49-10、1934年9月1日
政友会巨頭論	『中央公論』48-10、1933年10月1日
後藤内相論	『中央公論』49-12、1934年11月1日
政党政治と官僚政治	代償は払はざる可らず『読売新聞[夕刊]』1934年8月20日
広田外相論	『中央公論』49-4、1934年4月1日
外交のスローガン	新しき外交のスローガン『読売新聞』1933年10月30日
一九三五年国際宣言	『改造』17-1、1935年1月1日
幣原外交の本質	幣原外交は何処へ行く『文芸春秋』11-6、1933年6月1日
石井菊次郎と深井英五	『中央公論』48-6、1933年6月1日
湯浅官相論	『中央公論』48-4、1933年4月1日
近衛文麿論	『中央公論』48-12、1933年12月1日
西園寺、若槻、鈴木	現代の英雄は誰か『日の出』1-1、1932年8月1日
政党政治論	『改造』16-4、1934年3月1日
政友会はどうなる	『改造』16-12、1934年11月1日
議会史上の人物	人物を通して見たる議会政治史I～IV『中央公論』49-2 別冊付録『議会政治読本』、1934年2月1日
日露開戦の前夜	『中央公論』49-13、1934年12月1日
明治初期の政論家	明治の政論家『日本文学講座 第12巻 明治大正篇』改造社、1934年4月
日本を住みよい国に	『読売新聞[夕刊]』1934年4月30日
終に遂げられざる希望	『読売新聞[夕刊]』1933年7月10日
鶯の思想善導	『読売新聞[夕刊]』1933年6月26日
信玄及び謙信の哲学	信玄及謙信の哲学『読売新聞[夕刊]』1933年9月4日
好んで苦難の途を	好んで苦難の道を『読売新聞[夕刊]』1934年9月24日
古書が現代を諷する	『読売新聞[夕刊]』1933年10月16日
何処に民の声を聞く	『読売新聞[夕刊]』1934年10月22日
自由主義に対する嘲笑	自由主義者に対する嘲笑『読売新聞[夕刊]』1933年5月15日
自由主義者の国際観念	『読売新聞[夕刊]』1933年4月3日
青年、世に処する途	青年・世に処する道『読売新聞[夕刊]』1934年8月13日

### 『国民政治読本』中央公論社、1936年2月3日

収録評論	初出
歴代の総理大臣	『中央公論』50-10、1935年10月1日
歴代の内大臣	『中央公論』51-2、1936年2月1日
政治家との交際	『文芸春秋』14-1、1936年1月1日
政治の道徳性	『読売新聞[夕刊]』1935年7月7日
国に人格がある	『読売新聞』1935年9月29日
ウエルズの世界観	『読売新聞[夕刊]』1935年6月17日
現世に天国を創る	『読売新聞[夕刊]』1935年7月14日
政治評論の転換期	政治[評論]の転換期『読売新聞』1935年9月1日
比律賓の示唆	『読売新聞』1935年11月17日
世界の黎明期	『読売新聞』1935年12月1日
英国の総選挙	『読売新聞』1935年10月27日
鶯と郭公と仏法僧	『読売新聞[夕刊]』1935年6月10日
ラヂオと映画	正月の雑感『読売新聞』1936年1月5日
封建主義の世界	『読売新聞[夕刊]』1935年6月3日
一つの希望を有りたい	『読売新聞[夕刊]』1935年5月20日
人情ゆたかな日本	『読売新聞[夕刊]』1935年3月25日
勤皇倒幕の精神	『読売新聞』1935年10月13日

自分の声を聞く	『読売新聞』1935年12月8日
人民は何を思ふ	『読売新聞』1936年1月12日
政治を街頭にて	未詳
議会解散に直面して	議会解散の有無『読売新聞[夕刊]』1935年1月14日
人心倦んで乱を好む	『読売新聞[夕刊]』1935年1月21日
政党更生の途	『読売新聞[夕刊]』1935年2月4日
三原山と政治家	『読売新聞[夕刊]』1935年2月11日
挙国一致内閣の迷信	『読売新聞[夕刊]』1935年3月4日
政治に熱心になれ	『読売新聞[夕刊]』1935年3月18日
時の変化を期待する	『読売新聞』1935年4月1日
日本人の愛国心	『読売新聞[夕刊]』1935年4月22日
法相演説の反響	『読売新聞[夕刊]』1935年5月6日
国策を決める方法	『読売新聞[夕刊]』1935年5月27日
重臣ブロック排撃	『読売新聞[夕刊]』1935年6月24日
政党内閣への復帰	『読売新聞』1935年8月11日
政局に陰鬱現る	『読売新聞』1935年9月8日
新党運動の価値	『読売新聞』1935年9月15日
この沈滞を奈何	『読売新聞』1935年11月24日
政友会の行く途	『読売新聞』1935年12月29日
軍統制の便法	『読売新聞』1935年8月18日
言論自由の根拠	『日本評論』10-10、1935年10月1日
現代政党論	『中央公論』50-4、1935年4月1日
新内閣待望	『改造』18-1、1936年1月1日
選挙対策の眼目	『読売新聞』1935年12月15日
選挙の金の問題	『読売新聞[夕刊]』1935年7月1日
誤謬は自然に清算	『読売新聞[夕刊]』1935年7月21日
人民自身の政治	『読売新聞』1935年8月4日
ファッションの弱点	『読売新聞[夕刊]』1935年7月28日
英伊若し戦はゞ	『読売新聞』1935年8月25日
批評されぬ政治	未詳
欧州戦争来るか	『読売新聞』1935年10月6日
英伊休戦の協定	『読売新聞』1935年10月20日
外務大臣の辞職	『読売新聞』1935年12月22日
征服されたる文化	未詳
ファッションへの道	ファッションへの近道『読売新聞[夕刊]』1933年9月11日
ナチスに関する一、二の観察	『読売新聞[夕刊]』1933年10月23日
重工業とファッション	『読売新聞[夕刊]』1935年1月28日
軍需品工業国営論	『読売新聞[夕刊]』1935年2月25日
英国のファッション運動	『読売新聞[夕刊]』1935年3月11日
政治的暗殺行為	『読売新聞』1935年11月3日
自由競争と統制経済	『読売新聞[夕刊]』1935年2月18日
誤れる経済学説	『読売新聞』1935年11月10日
官僚政治の抬頭	官僚政治の抬頭 政治専門化の弊害『読売新聞[夕刊]』1934年3月19日
日暮れて途遠し	『読売新聞[夕刊]』1934年12月17日
政党法を作るといふ思想	『読売新聞[夕刊]』1933年7月31日
自由主義をめぐる論争	『読売新聞[夕刊]』1933年7月3日
言論の自由を戦ひ取る	『読売新聞[夕刊]』1933年11月27日
議会の指導原理	『読売新聞[夕刊]』1934年1月22日
人民の出る幕はないか	『読売新聞[夕刊]』1933年4月24日
人民の声漸く聞ゆ	『読売新聞[夕刊]』1934年1月8日
良き政治を我等の手で	『読売新聞[夕刊]』1934年4月16日
何の花が咲かうぞ	『読売新聞[夕刊]』1934年11月19日
自由と統制	一月の論壇『東京朝日新聞』1935年12月28～31日

自由主義政治家	人物を通して見たる議会政治史Ⅴ 現代の自由主義政治家『中央公論』49-2 別冊付録『議会政治読本』、1934年2月1日
町田忠治論	『中央公論』50-3、1935年3月1日
鈴木喜三郎論	鈴木総裁論『中央公論』50-7、1935年7月1日
内田信也と島田俊雄	『中央公論』50-5、1935年5月1日
小栗総監論	『中央公論』50-6、1935年6月1日
悲劇のマクドナルド	『中央公論』51-1、1936年1月1日
ヒトラー論	『中央公論』48-5、1933年5月1日
エーチ・デー・ウエルズ論	『ダイヤモンド』23-22、1935年8月1日
自己を語る	未詳

『立上る政治家』中央公論社、1937年1月27日

収録評論	初出
次の内閣を担ふ者	『読売新聞』1937年1月1、3～6日
後継首相論	『中央公論』51-12、1936年12月1日
宇垣一成論	『中央公論』51-9、1936年9月1日
馬場鑓一論	馬場蔵相論『中央公論』51-11、1936年11月1日
議会は何を戦ふか	未詳
何を議会に望む	未詳
議会政治の展望	『改造』18-6、1936年6月1日
馬上天下を取る	『読売新聞』1936年9月13日
政党に人なきや	『読売新聞』1936年7月12日
戦ひを忘れた政党	『読売新聞』1936年9月20日
嗚呼この大臣病	『読売新聞』1936年10月25日
一世一代の勇氣	『読売新聞』1936年12月27日
日本の人民戦線	『読売新聞』1936年8月23日
独裁政治家の一群	権力に酔ふもの『文芸春秋』14-6、1937年6月1日
挙国一致とファツショ	広田内閣に望む『読売新聞』1936年3月15日
庶政一新とファツショ	一新とは何ぞや『読売新聞』1936年4月5日
ロシアの独裁政治	独裁政治の運命『読売新聞』1936年11月22日
スペインの内乱	極端から極端へ『読売新聞』1936年8月2日
ドンキホーテの国	未詳
欧州の危機	『読売新聞』1936年3月22日
自由と社会不安	『読売新聞』1936年3月29日
デモクラシー論	『読売新聞』1936年12月6日
下からの統制	未詳
弱々しげな群衆	『読売新聞』1936年4月19日
軍部は国民を指導し得るか	『改造』19-1、1937年1月1日
軍部と議会	『中央公論』51-6、1936年6月1日
軍部と国策	『改造』18-10、1936年10月1日
軍部と庶政一新	未詳
国防と外交の分裂	『読売新聞』1936年6月28日
武器の歴史的使命	未詳
近代戦術の問題	『読売新聞』1936年9月27日
戦争の発展解消	『読売新聞』1936年9月6日
軍需工業の国営	『読売新聞』1936年6月14日
官僚政治論	『中央公論』52-1、1937年1月1日
官僚諸君に与ふ	『改造』18-3、1936年3月1日
行政機構改革	未詳
戦跡をたづねて	未詳
風声鶴唳なりや	『読売新聞』1936年7月26日
広田内閣論	『改造』18-4、1936年4月1日
広田首相論	『中央公論』51-4、1936年4月1日
内閣存続の問題	『改造』18-9、1936年9月1日

広田内閣に告ぐ	未詳
庶政一新論	未詳
世界政治に飛躍	政治季節の感触『時事新報』1936年4月30日、5月1、2日
日支親善論	『改造』18-11、1936年11月1日
日独協定論	日独協定の疑問『読売新聞』1936年11月29日
ドイツとロシヤ	『読売新聞』1936年12月20日
将来の政治家	『読売新聞』1936年5月31日
百年後の世界	『読売新聞』1936年2月2日
真実を語るもの	『読売新聞』1936年6月7日
平和を戦ひ取る	『読売新聞』1936年10月11日
批評を恐れる心	『読売新聞』1936年11月1日
官民一致するか	『読売新聞』1936年11月15日
調子に乗る勿れ	『読売新聞』1936年11月8日
英国保守党の研究	『改造』18-8、1936年8月1日
世界は漂流する	未詳
仏退いて英出づ	『読売新聞』1936年1月19日
戦争の生む悩み	『読売新聞』1936年5月17日
隠忍自重の英国	『読売新聞』1936年6月21日
夢遊病者の如く	『読売新聞』1936年8月9日
智慧がなき過る	『読売新聞』1936年8月16日
知識階級論	未詳
民衆の立場から	『読売新聞』1936年3月8日
二二六事件の判決	未詳
陰惨から明朗へ	『読売新聞』1936年5月10日

## 『時代と人物』東洋経済新報社、1940年12月30日

収録評論	初出
私の人生観	『読売新聞』1940年9月29日
歴史と人物	『改造』22-16、1940年9月1日
第一次欧州大戦の前夜	欧州大戦の前夜『改造』21-6、1939年6月1日
西伯利出兵の頃	西伯利出兵の頃—新聞記者時代の想ひ出—『文芸春秋』16-13、1938年8月1日
巴里講和会議の頃	『改造』20-11、1938年11月1日
戦時首相論	巴里講和会議のころ『中央公論』53-1、1938年1月1日
新政治体制	生きた新政治体制『読売新聞』1940年7月14日
軍官民渾然一体	『読売新聞』1940年7月28日
政党解消の日	未詳
強い政治	生きた政治体制『読売新聞』1940年8月18日
国民の心を燃やしめよ	国民の心を燃やしめよ『読売新聞』1940年9月1日
支那事変勃発の事情	五相會議論『中央公論』53-8、1938年8月1日
軍民一致論	『改造』19-3、1937年3月1日
憲法擁護論	『改造』20-3、1938年3月1日
政治の再建(一)	政治の再建『北海タイムズ』1940年1月9、10日
政治の再建(二)	日本政治の再建『改造』22-2、1940年2月1日
政治の再建(三)	如何に政治を建直ほすか『日本評論』15-5、1940年5月1日
政党興亡の跡	政界十五年『日本評論』15-4、1940年4月1日
官僚論	吏道刷新論『日本評論』14-12、1939年12月1日
外交官	戦争と外交『改造』21-12、1939年12月1日
近衛文麿公	近衛文麿論『改造』22-12、1940年7月1日
新重臣論	『経済マガジン』1-3、1937年8月1日
参議論	『改造』19-13、1937年11月18日
ヒトラーとチェンバレン	ヒトラーとチェンバレン『改造』21-10、1939年10月1日
チャーチルの忠告	『読売新聞』1937年3月28日
ロイド・ジョージ	ロイドジョージの大戦講和会議の回顧録『改造』21-14、1939年12月7日

スターリンに与ふ	スタアリンへの公開状『改造』20-9、1938年9月1日
征服者の哲学	『読売新聞』1940年6月2日
フランスの敗因	一種の病的心理『読売新聞』1940年8月25日
科学者への課題	『読売新聞』1940年7月7日
真実の日本	『読売新聞』1940年9月15日

『国と人物』高山書院、1941年12月16日

収録評論	初出
国と人物	未詳
人物の養成	未詳
西園寺公望公	
かれの一生の追憶	西園寺公を憶ふ『読売新聞』1940年11月25～27日
政治家としての西園寺	『改造』22-23、1940年12月2日
近衛文麿公	
初めて内閣を組織す	青年宰相近衛文麿論『アサヒグラフ』28-25、1937年6月16日
かれの改造内閣	近衛公の改造内閣『婦人公論』23-7、1938年7月1日
宇垣一成	
外相として登場	未詳
外相に与ふる書	宇垣外相に与ふる書『中央公論』53-7、1938年7月1日
宇垣外交の真髄	『中央公論』53-9、1938年9月1日
平沼騏一郎	平沼騏一郎論『改造』21-2、1939年2月1日
林銑十郎	
内閣の組織	林内閣論『日本評論』12-3、1937年3月1日
議会の解散	林首相論『中央公論』52-5、1937年5月1日
阿部信行	阿部内閣の性格『中央公論』54-10、1939年10月1日
米内光政	
平沼内閣の海相	米内海相論『中央公論』54-4、1939年4月1日
内閣の組織	未詳
有田八郎	
広田内閣の外相	有田外相論『中央公論』52-2、1937年2月1日
平沼内閣の外相	有田外交論『改造』21-9、1939年9月1日
木戸幸一	木戸幸一論『中央公論』53-2、1938年2月1日
維新当時の政治家	未詳
ロイド・ジョージとウイルソン	未詳
キツプリング	キツプリングー詩と小説『文芸』7-6、1939年6月1日
パアナアド・シヨウ	シヨウ印象記『改造』15-4、1933年4月1日
エーチ・ジー・ウエルズ	未詳
バル・バツク	「大地」読後感『文芸春秋』15-16、1937年12月1日
外国の新聞記者	未詳
若山牧水	
牧水哲学	『短歌研究』9-9、1940年9月1日
牧水の足跡	『短歌研究』5-6、1936年6月1日
旅行記	
蓼科・草津・新鹿沢	『婦人公論』23-8、1938年8月1日
旅行・碁・将棋	旅行、碁、将棋『週刊朝日』22-18、1932年10月16日
旅のいろいろ	『改造』23-14、1941年7月2日
言論人に与ふ	未詳
新聞に志ざす人々へ	『雄弁』18-1、1927年1月1日
政治力の問題	『大陸』4-2、1941年2月1日
無言の真理	『都新聞[夕刊]』1941年8月4日
新聞統制と国論統一	『都新聞』1941年10月5～7日

## 『平和と自由への驀進』高山書院、1945年10月8日

収録評論	初出
人生行路[37～40頁収録]	未詳[無署名巻頭言、1941年10月]
自由主義とは何ぞや[67～71頁収録]	未詳[無署名巻頭論文、1942年11月]
犬養内閣と軍部	『改造』14-6、1932年6月1日
軍部の政治的圧力	『改造』17-9、1935年9月1日
日独協定政変を起す	未詳
政治評論家の憂鬱	『文芸春秋』15-6、1937年6月1日
新聞記者の人生観[42～46頁収録]	『読売新聞』1938年7月3日
言論機関用ふべし[46～50頁収録]	『読売新聞』1938年8月14日
戦局と政局	『改造』20-8、1938年8月1日
此の決心を活かせ	『読売新聞』1939年8月27日
来るべきもの来る	『読売新聞』1939年9月3日
改むるに憚る勿れ	『読売新聞』1939年9月10日
米内内閣の性格	『中央公論』55-2、1940年2月1日
米内内閣と参議制	『読売新聞』1940年1月21日
議会政治心得帳	『読売新聞』1940年2月4日
内閣と軍部の関係	『読売新聞』1940年2月18日
議会と斉藤問題	『読売新聞』1940年2月25日
『考へる葦』	『読売新聞』1940年3月10日
一人一枚のはがき	『読売新聞』1940年3月17日
米内内閣への課題	『読売新聞』1940年4月7日
誰が国家を背負つて立つ	『読売新聞』1940年5月5日
新党運動の意義	『読売新聞』1940年6月9日

## 『近衛内閣史論 戦争開始の真相』高山書院、1946年1月15日

収録評論	初出
苦悶の政党	『中央公論』52-4、1937年4月1日
近衛内閣論	『改造』19-7、1937年7月1日
革新政策論	『改造』20-5、1938年5月1日
第一次近衛内閣の退却	政変論『日本評論』14-2、1939年2月1日
平沼内閣時代	未詳
敗戦と勝海舟	『読売報知』1945年10月23日
軍人の臣節	未詳
この喪心状態を奈何	『新生』1-1、1945年11月1日
新生日本の道	『新生』1-2、1945年12月1日

## 『回顧と希望』読売新聞社、1948年7月25日

収録評論	初出
回顧と希望	未詳
原子・自由・平和	『日本週報』72・73、1948年2月1日
日本の理想	『読売新聞』1946年7月21日
逗子だより	『読売新聞』1946年8月2、3、15日、9月6、10、18日、10月1日、12月1日、1947年3月27、29日、4月15日、6月13、18日、7月11、18日、8月8、19日、10月5、14、26日 日記帳から『読売新聞』1947年12月12日、1948年1月25日、3月3日、4月6日
学生時代	未詳
大隈重信侯に親しむ	序『大隈重信伝』
英文修業	私の英文修業『学燈』42-3、1938年3月20日
漢詩と文と書	未詳
焼けた日記	『我観』2、1923年11月15日
癌の手術	近藤次繁博士『現代人物評論』
政治記者時代	『文芸春秋』6-3、1928年3月1日

私の人物評論	『政界人物評論』序文
机上旅行家の癖	未詳
国破れて山河あり	未詳
温海から新潟	船長の娘『家庭科学』1、1924年9月1日
若山牧水の歌	『文芸懇話会』1-1、1936年1月1日
妙義と碓氷峠	神は孤独である『随筆』1-4、1926年9月1日
草津と軽井沢	文士評論家の一群『週刊朝日』31-3、1937年1月10日
忘れぬ友達	未詳
服部芳郎のこと	『慈大愛宕新聞』115、1935年3月20日
奥日光	青葉の圧迫『読売新聞[夕刊]』1938年5月20日
谷川温泉	未詳
将棋にあこがれる	『将棋新聞』1946年2月27日
芸術としての新聞論説	『新聞及新聞記者』7-14、1926年8月1日
書籍への愛着	未詳
政党と新聞	現代日本のジャーナリズム『早稲田大学新聞』159、1939年12月20日
空襲の予感	臨時議会の任務『読売新聞[夕刊]』1934年10月1日
悲劇の清算	軍国政治論『改造』27-1、1946年1月1日
日本よ起ち上れ	未詳
世界民主主義	『世界文化』1-1、1946年2月1日
昭和二十年	第八十九議会の検討『潮流』1-1、1946年1月1日
昭和二十一年	未詳
昭和二十二年	未詳
古いメモより	未詳
徹底した平和主義	徹底した平和主義—憲法改正政府案をみて—『読売報知』1946年3月8日
友愛の一念	『読売報知』1946年3月11日
わが新聞の立場	『読売報知』1946年3月18日
総選挙の目標	『読売報知』1946年3月25日
国民に訴う	『読売報知』1946年4月1日
新聞記者に国境なし	『読売報知』1946年4月15日
来るべき内閣に望む	『読売報知』1946年4月29日
人民の中に行く	未詳
世界の平常心	『読売新聞』1946年6月3日
新聞休刊の数日	『読売新聞』1946年7月17日
日本の前途	未詳
日本の性格と誇り	『読売新聞』1946年5月13日
民主主義の勝利	『読売新聞』1946年8月23日
ゼネスト論	『読売新聞』1946年9月27日
勝利の日まで	『読売新聞』1946年11月8日
年頭の決心	『読売新聞』1947年1月1日
危機は克服できる	『読売新聞』1947年1月21日
運命の総選挙	『読売新聞』1947年3月19日
沈鬱な政治	『読売新聞』1947年5月17日
年頭展望	『読売新聞』1948年1月1日
社会党の今昔	『読売新聞』1948年2月10日
政治の仁義	『読売新聞』1948年2月17日

『自伝点描』東西文明社、1952年9月15日[中央公論社、1989年]

収録評論	初出
真夏の夜の夢[序に収録]	未詳
私の少年時代	未詳
高等学校時代	未詳
早稲田時代	大隈さんに借金した話『早稲田学報』4-5、1950年5月20日

ジャパン・タイムス記者の頃 オリエンタル・レビュー時代	自伝 新聞五十年(一)『改造』32-5、1951年4月1日
国民新聞記者の頃	自伝 新聞五十年(二) 原敬と巴里講和会議『改造』32-6、1951年5月1日
大震災の思出	未詳
旅に学んだ人生行路	自伝 新聞五十年(三)『改造』32-7、1951年6月1日
私の読書	読書の一生『読書人』6、1951年9月1日
読売新聞時代	松葉杖の日本-G・H・Qと新聞-『文芸春秋』30-9、1952年6月5日
処世訓	未詳
民衆礼賛	年頭所感 民衆礼賛『新聞協会報』588、1950年1月1日
旅行の地理	未詳
懇意な文壇人	文学と新聞記者『早稲田文学』16-2、1949年5月1日
書道の修養	未詳
拝謁の記	『読売評論』1-3、1949年12月1日
旅で拾った哲学	『読売新聞』1949年3月17日
新年の思出	『読売新聞』1949年1月1日
文化の先端を切るもの	未詳
父母のこと	未詳
蕞荘だより	日記帳から『読売新聞』1948年4月6日 『読売新聞』1950年2月16、27日 僕は憂鬱になる『文芸春秋』9-6、1931年6月1日
頭本元貞先生	『英語青年』88-12、1943年3月15日
バーナード・ショウの思出	飄々たる善人 握手した時のあの温かさ『読売新聞』1950年11月3日
原敬と吉田茂	『読売新聞』1951年12月4日
東北の人物	未詳
バベルの塔	未詳
哲学者と政治家	未詳
われわれの定石	『改造』33-6、1952年6月1日
再軍備必至	未詳
再軍備に直面する青年	未詳
戦争と平和	『月刊読売』9-7、1951年5月15日
歴史に残る活動を	未詳
世界を横行闊歩	『読売新聞』1952年1月1日
フィニックスの如くに	『読売新聞』1951年6月3日
野百合の一つ	野百合の一つ『新聞協会報』531、1949年6月11日
独立後の日本人の言葉	未詳
自由世界建設の悲願	『読売新聞』1951年11月11日
日本の出処進退	『人物往来』1-1、1952年1月1日
潔癖	未詳
新聞の道	『新聞協会報』651、1950年8月14日
文化の交流	『読売新聞[夕刊]』1949年11月27日
戦争開始当時	未詳
ベルサイユ講和会議	未詳
新聞人の立場から	『新聞協会報』461、1948年10月6日